

令和 7 年度

北海道立近代美術館

HOKKAIDO MUSEUM OF MODERN ART

年報

目次

1	運営基本方針・計画.....	2
2	事業実施状況	
2-A	収集・保管	
2-A-1	美術作品の収集	
	作品収集状況.....	3
	新収蔵作品目録.....	4
2-A-2	美術作品の保存・修復	5
2-B	展覧会	
2-B-1	展覧会一覧	6
2-B-2	展覧会出品目録	8
2-B-3	美術作品の貸出	30
2-C	教育普及活動	
2-C-1	教育普及活動一覧	31
2-C-2	資料・情報関係	
	特別観覧・情報資料.....	34
	刊行物	35
2-D	調査研究.....	36
2-E	地域との協力事業.....	45
3	評価.....	48
4	リニューアル.....	54
5	名簿・沿革.....	55

1 運営基本方針・計画

【基本方針】 北海道立近代美術館は、北海道立三岸好太郎美術館とともに、多様な人々が互いを受け入れ、活かし合う、創造性と活力にあられる社会の実現を目指し、美術館としての活動に取り組んでいきます。

基本的運営方針		取組項目	事業実施計画
A 優れた作品の収集と適切な保管	5つの収集方針に基づいて、優れた作品を計画的に収集し、系統的で個性的なコレクションを形成します。併せて関連資料の整備を進めます。また、IPM(総合的有害生物管理)の進展や当館施設設備の特色と老朽化をふまえながら、保存環境を整備するとともに、作品の修復を計画的に行うなどしながら、作品を適切に保管します。	優れたコレクションの形成	●美術に関する調査研究と収集方針に基づいて、美術史の視点からコレクションの欠けた部分や手薄な部分を洗い出し、それらをリストアップした収集計画を更新する。 ●リストアップされた作品の入手可能性に関する情報を収集し、購入や受贈により計画を実現する。
		所蔵作品の適切な保管	●IPM(総合的有害生物管理)の進展に学びながら、ひと月に1回程度の収蔵庫内清掃や虫トラップの設置・観察・分析等を通して、適切な展示・保存環境を保持する。 ●保存と活用のために修復が必要な作品のリストを更新し、計画的に修復を進める。 ●増加する図書や資料類の収納スペースを確保するため、図書や映像資料、過去の展覧会資料等の整理とデジタル化に努める。 ●所蔵品データベースの確認作業を行い、データの精度を高める。 ●二次資料の幅広い活用と公開を目的とするアーカイブ(記録・資料保管システム)のあり方について研究する。
		コレクションの効果的な活用	●R6年度に新たに収蔵した作品を「新収蔵品展」において公開するほか、「この1点を見てほしい。」を開催し、作品の魅力を深く掘り下げた研究の成果を紹介する。
B 多彩で特色ある展示活動の充実	収蔵作品を紹介する「近美コレクション」展を、当館の個性を強く発信するとともに、コレクションをすべての人々に向かって聞く最も重要な機会と位置づけ、コレクションの魅力や調査研究の進展を伝えます。また、「特別展」では、様々な鑑賞のニーズに応えるとともに、人間と文化の多様性について理解を深める機会となるように、幅広い時代と分野のアートを紹介します。併せて、個性の異なる誰もがアートに親しむことができる展示について研究を進めます。	多様なニーズに応える展覧会の開催	●近美コレクションについては、20世紀のバリで活躍した画家たちの挿絵本を紹介する「画家の本ーリーヴル・ダルティスト」、アートギャラリー北海道事業として洞爺湖芸術館の所蔵品を紹介する「手のひらの宇宙」等を開催するほか、リニューアル後の「目指す姿」を踏まえて多様な人々が美術に親しめるよう、聖書や古事記などを題材にした作品についてわかりやすく読み解いた「おはなし美術」や、昨年度に引き続き「ウィズ・キッズ'25」を開催する。 ●国内外の優れた作品を紹介する特別展については、金閣、銀閣、相国寺が所蔵する禅文化の名宝による「金閣・銀閣 相国寺展」をはじめ、日本を代表する現代ガラス作家を紹介する「イワタリ展」、江戸時代の人気浮世絵師の「歌川国芳展」(貸館)、小説『ムーミン』出版80周年を記念した「トーベとムーミン展」(貸館)まで、幅広い時代・地域・分野にわたる4つの展覧会を開催する。
		観覧者拡充のための工夫	●チラシやポスター等の紙媒体のほか、道立美術館ポータルサイト、ホームページ、X(旧ツイッター)、フェイスブックを通じて、展覧会情報や見どころを細やかに発信する。 ●当館収蔵作品のなかでも人気の高い神田日勝『室内風景』を、Ⅱ期のコレクション展において展示するとともに、札幌ゆかりのガラス作家・青木美歌の大型インスタレーションを中心としたガラス作品を通期で展示する。 ●障がい者、子どもを対象とした展示について研究を深める。
		館外における鑑賞機会の提供	●道内外の美術館からの作品借用希望に協力し、当館来館者以外にもコレクションの鑑賞機会を提供する。主な貸出予定は、東京ステーションギャラリー他「藤田嗣治のまなざし」1点、あべのハルカス美術館他「小村雪岱展」12点、三岸好太郎美術館「好太郎と節子」2点、同館「ふたりの『悪童』」11点、等。
C 学習の場と情報提供の充実	コレクション、展示、調査研究に結びつけながら、個人の成長・年齢や個性に応じたラーニング・プログラムを企画し、実施します。特に鑑賞学習支援ツールとオンラインについて、効果的な活用を進めます。また、コレクションのデジタル・データ化や、ホームページとSNSの活用によって、発信する情報の魅力アップに取り組みます。	教育普及活動の充実	●作品鑑賞の補助ツールとしてスマートフォンアプリ「ポケット学芸員」を利用した音声ガイドのコンテンツを増やす。特に、当館前庭と知事公館庭園の野外彫刻のガイドプログラムを充実させることで、当館・三岸好太郎美術館のあるエリア一帯の魅力向上を図る。 ●近美コレクションの内容と連動したワークショップを実施して、鑑賞と制作が一体化した芸術体験の機会を提供する。 ●「ウィズ・キッズ'25」関連事業として、子どもを対象とするギャラリー・ツアーを実施する。 ●幅広い層に美術館の利用を促すため、外部研究者による特別展に関連した講演会、美術館の雰囲気を活かしたホールでのコンサート等を実施する。
		情報提供の充実	●HP及びSNSを通じ、迅速かつ積極的に、展覧会や関連事業の情報を発信する。 ●展覧会紹介動画「北海道リモート・ミュージアム」の新規コンテンツを制作し、インターネット上で公開する。 ●ARSコーナーの魅力向上のため、図書や図録を整理し利便性の向上を図る。上映中の「北海道リモート・ミュージアム」のアーカイブ動画については、新しいコンテンツを編集次第、古いコンテンツと入れ替えて更新する。 ●コレクションのデータベースを着実に整備し、所蔵作品の基本情報を公開する。
D 活動の基礎となる調査・研究の推進	美術及び美術館に関する調査研究を、これまでの蓄積と新たな知見の上に立って推進するとともに、学芸員の資質向上を目的とした研修を行うことにより、活動全般の信頼性や企画における創造性を向上させます。また、調査研究の成果を、様々な形で発信し社会に還元します。併せて、リニューアルに向けた活動、施設、運営等に関する調査研究を進めます。	調査・研究の推進	●今年度の近美コレクション展、特別展のほか、来年度以降開催が検討されている展覧会、特に自主企画展について、また作品収集について、調査・研究を着実に進める。 ●コレクション研究を推進し成果をわかりやすく示す展示として、「この1点を見てほしい。」を行う。 ●リニューアル基本構想の「目指す姿」の実現に向けて、リニューアル後の活動や必要な機能等の検討を行う。 ●新しい展示用具や照明機器、設備等について情報収集を行い、見やすさや作品保全機能、展示効果向上のための研究を進める。 ●新任学芸員を対象とした研修を行う。
E 多様な主体との連携・協力による地域の活力向上	地域の文化活動や学校の教育活動と連携・協働することで、美術に対する関心を高め、美術館の利用促進を図り、地域のアートの活性化に寄与します。	多様な機関との連携・協力	●北海道美術館協会及びボランティアとの取り組みを継続し、図録や美術関連グッズの販売、ギャラリー・ツアー、アート・レファレンス・サービス(ARS)、資料整理、美術講座など、幅広い活動に協力する。 ●北海道の中核的な美術館として、北海道美術館学芸員研究協議会と協力して道内美術館のネットワークを強化するとともに、学芸員の相互研鑽等に協力する。 ●北海道内の多様な美術館等が相互に連携し、本道全体がアートの舞台となることを目指す「アートギャラリー北海道(AGH)」事業として、洞爺湖芸術館のコレクション展の実施、AGH月間における広報、来年度以降の展覧会の企画、ネットワーク参加館との連携協力等を行う。 ●500m美術館や道銀文化財団に協力し、美術の振興および地域作家の顕彰に寄与する。 ●札幌交響楽団等に協力し、美術ファン以外にもコレクションへの関心を高める。
		学校等の教育機関との連携・支援	●自主研修や職場体験等、学校等の要望に応じた教育プログラムを提供する。 ●鑑賞学習支援ツールについてチラシ等で周知し、貸出を行う。 ●「オンライン・アート教室」では多様なプログラムを用意するとともに、学校からの要望に応じて授業内容を構成し、効果的な鑑賞学習を実施する。 ●道立図書館と連携し、特別展ごとに関連図書の閲覧コーナーを設け、「もっと知りたい」という来館者の思いに応える。 ●学校教育における美術館活用を促すため、指導者研修を実施する。 ●道内外の大学からの要請に応じ、博物館実習(館園実習、見学実習)を実施する。 ●「学芸員インターンシップ制度」に基づき、学芸業務に携わる実務研修生を広く募集し受け入れる。
F 安全で快適な滞在環境の提供	近代美術館は施設・設備の老朽化が進む一方、リニューアルを控え大規模な修繕や工事の実施が難しい状況ではあるものの、職員一人ひとりが、常に、来館される方々の目線に立ち、安全・安心に展覧会を観覧いただき、美術館で充実した時間を過ごしてもらうことが出来るよう、最大限知恵を絞り、工夫を重ねながら、くつろぎの空間としての魅力の向上を図っていきます。	施設の適切な維持管理	●施設・設備の状況を適切に把握し、計画的な点検を実施することで、施設等の不具合、故障の早期発見、必要な補修の迅速化につなげる。 ●美術館の前庭が、来館者にとって憩いの空間として安全・安心・快適に利用できるよう、樹木の剪定など自然環境を活かしながら、植栽の適切な維持管理に努める。
		施設の快適性の向上	●来館者アンケートにおいて、より多くの方々から意見等を聴取できるよう、アンケートの聴取方法や内容を工夫するとともに、アンケートの回答内容を早期に共有、分析し、美術館の運営改善に資することができるよう取り組む。 また、アンケートに記載された意見に対する美術館の回答を掲示することで、当館の活動について、より理解いただくよう努める。 ●カフェやミュージアムショップが利用者にとってより魅力あるものとなるよう、事業者と協働した取組や情報発信について検討・実施する。 ●来館者の利便性向上のため、関係機関や事業者と連携しながら、キャッシュレスサービスの運用拡大に向けた検討を行う。

2 事業実施状況

2－A 収集・保管

2－A－1 美術作品の収集

作品収集状況

・分野別

区分	令和7年3月末 現在作品収蔵数		令和7年度作品収集数		作品総数（点）	
油彩	839	13.8%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	839	13.8%
日本画	283	4.7%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	283	4.6%
水彩・素描	371	6.1%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	371	6.1%
版画	2,288	37.6%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	2,288	37.6%
彫刻	117	1.9%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	117	1.9%
工芸	1,736	28.5%	1	(購入1) (寄贈0) (管理換0)	1,737	28.6%
デザイン	231	3.8%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	231	3.8%
写真	217	3.6%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	217	3.6%
合計	6,082	100.0%	1	(購入1) (寄贈0) (管理換0)	6,083	100.0%

・地域別（作家のゆかり等）

地域	令和7年3月末 現在作品収蔵数		令和7年度作品収集数		作品総数（点）	
北海道	3,106	51.0%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	3,106	51.1%
日本	1,568	25.8%	1	(購入1) (寄贈0) (管理換0)	1,569	25.8%
海外	1,408	23.2%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	1,408	23.1%
合計	6,082	100.0%	1	(購入1) (寄贈0) (管理換0)	6,083	100.0%

・特色別

特色		令和7年3月末 現在作品収蔵数		令和7年度作品収集数		作品総数（点）	
北海道の美術		3,104	51.0%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	3,104	51.0%
日本近代の美術		505	8.3%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	505	8.3%
パスキン とエコール・ ド・パリ	パスキン	223	3.7%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	223	3.7%
	エコール・ ド・パリ	85	1.4%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	85	1.4%
	小計	308	5.1%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	308	5.1%
ガラス 工芸	北海道	4	0.1%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	4	0.1%
	日本	545	9.0%	1	(購入1) (寄贈0) (管理換0)	546	9.0%
	海外	713	11.7%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	713	11.7%
	小計	1,262	20.8%	1	(購入1) (寄贈0) (管理換0)	1,263	20.8%
現代の美術		62	1.0%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	62	1.0%
その他		841	13.8%	0	(購入0) (寄贈0) (管理換0)	841	13.8%
合計		6,082	100.0%	1	(購入1) (寄贈0) (管理換0)	6,083	100.0%

* 各項目間で重複するものもある。

* 各特色ごとのパーセントは所蔵総点数に対する比率をあらわす。

新収蔵作品目録

[購入](作品)

所蔵品番号	分 野	特 色	作 品 名	作 者 名	生 没 年	制 作 年	材 質 形 状	規格(奥行×幅×高さcm)	出品歴
2025001	工芸	ガラス工芸 (日本)	No. 220402	イワタ ルリ	1951(昭和26)～	2022(令和4)	ガラス、鉄:キャスト (鑄造)	122.3×122.4×31.0	イワタルリ GLASS×鉄 ×茶室

2－A－2 美術作品の保存・修復

番号	分野	作家名	作品名	制作年	技法・材質	点数	修復日	修復者	修復内容
1	彫刻	伊藤隆道	回転螺旋・1月	1978年(昭和53)	ステンレススチール(電動)	1	6月30日～8月4日	東興株式会社	・台座下地の新規制作 ・台座カバー修繕・再塗装 ・ステンレスパイプの美装・再研磨 ・ベアリング、トルクテンダー、ボルト等交換
2	彫刻	飯田善国	時間の風景	1979年(昭和54)	ステンレススチール	1	11月10日	東興株式会社	・ステンレス部分のクリーニング ・グリース注入

2－B 展覧会

2－B－1 展覧会一覧

(1) 常設展 (近美コレクション)

(令和8年3月31日現在)									
展覧会名		内 容	会場	開催期間	主催・後援・協力	日数	実 施 状 況		
							観覧者数	一日当たり 観覧者数	
令和 7 年度 第Ⅰ期	ウィズ・キッズ `25 めでたいな！幸せねがう日本の絵	日本の絵には、願いがこめられたためでたい作品がたくさんある。めでたいとされるサルやツル、富士山が描かれた絵には、どんな願いがこめられているのか、作品を通して絵のひみつを探った。	展示室 A	令和7年3月29日（土） ～ 7月6日（日）	主催：北海道立近代美術館 後援：札幌市、札幌市教育委員会	83	13,871	167	
	リーヴル・ダルティストー芸術になった本 オー、ダヴィッド、マティス、シャガール	当館コレクションから、1920～70年代に制作された「芸術家の本」約30作品をはじめ、そのオリジナル版画や関連する油彩画など150余点を紹介した。							
	巴里のかほり アール・デコのガラス	アール・デコとは、工業化社会の到来により1910～30年代のフランスで花開いた、直線や幾何学的模様を特徴とする造形様式。本展ではパリを中心に活躍したガラス作家たちの作品を通じて、アール・デコの世界を紹介した。							
	新収蔵品展	ガラス作家・福西毅の日本的な美を帯びた作品や、道南ゆかりの油彩画家・深井克美の代表作など、新たに収蔵された作品を紹介した。							
第Ⅱ期	ウィズ・キッズ `25 赤・青・白 杉山留美子さんの部屋	杉山留美子（1942-2013）による抽象絵画を紹介するとともに、子ども向け事業「キッズ・ツアー」や、展示室で自由に会話を楽しめる「おしゃべりデイ」を開催し、美術作品により一層親しんでいただく機会を提供した。	展示室 A	令和7年7月19日（土） ～ 11月24日（月・祝）	主催：北海道立近代美術館 後援：札幌市、札幌市教育委員会	106	21,425	202	
	1945-2025 美術は何を記憶しているか	絵画や彫刻、写真など多様な作品により社会と美術、そして過去と現在のつながりを様々な角度から検証するとともに、我々の現在地を見つめ直す契機とした。							
	透明なガラススウェーデンのリリシズム	透明なガラスに繊細な彫刻を施したものが多いスウェーデン・ガラスの輝きとリリシズムの魅力を紹介した。							
	アートギャラリー北海道 手のひらの宇宙－洞爺湖芸術館コレクション展	道内各地の特色ある美術館を紹介する「アートギャラリー北海道」事業として開催する本展では、「手のひらの宇宙」をテーマにした「洞爺村国際彫刻ビエンナーレ」の入選作品を収蔵、展示している苫小牧市美術博物館のコレクションを紹介した。							
	この1点を見てほしい。 本郷新《嵐の中の母子像》	当館コレクションの中から1点を選び、多角的な研究を通して作品の奥深い魅力を紹介した。	ロビー・前庭						
第Ⅲ期	おはなし美術	古くから伝わる説話、本に記された物語など、わたしたちの周りにあるたくさんの「おはなし」を通して美術の世界をたのしく紹介した。	展示室 A	令和7年12月13日（土） ～令和8年4月12日（日）	主催：北海道立近代美術館 後援：札幌市、札幌市教育委員会	84	10,378	123	
	カラー・オブ・グラス	ガラス造形では、金属化合物の添加で様々な色を着色するほか、異なる色のガラスを被（き）せるなどの手法で複雑な色合いをつくりだしており、ガラスならではの色彩美を、当館の近現代ガラスコレクションによって紹介した。							
	この1点を見てほしい。池田良二 《アントニ・タピエス氏に捧げる Varanasi》	当館コレクションの中から1点を選び、多角的な研究を通して作品の奥深い魅力を紹介した。							
通年	青木美歌《未生命の遊槽》	生命体のつながりや光をテーマに、ガラスを素材とする制作を展開した青木美歌(1981-2022)。その最大級のインスタレーションを紹介した。	展示室 A	令和7年3月29日（土） ～令和8年4月12日（日）	主催：北海道立近代美術館 後援：札幌市、札幌市教育委員会	第Ⅰ期～第Ⅲ期に計上			
計						273	45,674	167	

※日数・人数等は、会期にかかわらず令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

覧 会 名		内 容	会 場	開 催 期 間	主催・後援・協力	日数	(令和8年3月31日現在)	
							実 施 状 況	
							観覧者数	一日当たり観覧者数
貸館	浮世絵スーパークリエイター 歌川国芳展	江戸時代後期に活躍した浮世絵師・歌川国芳（1797-1861）は中国の古典「水滸伝」をテーマにした武者絵のほか、美人画や風景画など多彩な作品を手掛けた。浮世絵約200点とイマースプ（没入型）映像で魅惑の国芳ワールドを紹介した。	展示室B	令和7年4月25日（金） ～6月15日（日）	主催：北海道新聞社、NHK札幌放送局 企画協力：アートワン 特別協力：一旗、テレビ愛知 後援：北海道、札幌市、札幌市教育委員会	44	37,512	852
実行委員会	金閣・銀閣 相国寺展 若冲・応挙・芦雪ー禅文化の名宝と美	相国寺は室町幕府三代将軍、足利義満が14世紀に創建した禅宗寺院で、金閣寺（鹿苑寺）、銀閣寺（慈照寺）を有する臨済宗相国寺派の大本山。その寺宝から唐物茶器や仏画、伊藤若冲、円山応挙、長沢芦雪らの江戸絵画など、国宝・重文を含む約70点を展覧した。	展示室B	令和7年7月19日（土） ～ 9月7日（日）	主催：北海道立近代美術館、大本山相国寺、日本経済新聞社、テレビ北海道、北海道新聞社 共催：相国寺承天閣美術館 特別協力：鹿苑寺、慈照寺 後援：北海道、札幌市、札幌市教育委員会	44	50,396	1,145
貸館	トーベとムーミン展 ～とおきのものを探しに～	「ムーミン」小説の出版80周年を記念し、ムーミンの生みの親で多方面に才能を発揮したアーティスト トーベ・ヤンソン（1914-2001）の画業を振り返るとともに、ムーミンシリーズに流れる奥深い世界観を紹介した。	展示室B	令和7年10月1日（水） ～11月24日（月・祝）	主催：北海道新聞社、HTB北海道テレビ、朝日新聞社 企画協力：ヘルシンキ市立美術館 協賛：NISSHA 協力：ライツ・アンド・ブランズ、S 2、フィンエアー、フィンエアーカーゴ 後援：フィンランド大使館、北海道、札幌市、札幌市教育委員会	49	49,096	1,001
道単	イワタルリ展 息づくガラス	イワタルリは、日本の現代ガラスを代表する作家の一人。「立体作品」と「工芸作品」の両面からイワタ芸術の造形世界を展覧した。	展示室B	令和7年12月13日（土） ～令和8年2月15日（日）	主催：北海道立近代美術館 後援：札幌市、札幌市教育委員会	51	5,605	109
計						188	142,609	758

※日数・人数等は、会期にかかわらず令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

2－B－2 展覧会出品目録

近美コレクション The Museum Collection

ウィズ・キッズ ’ 25

めでたいな！幸せねがう日本の絵

With Kids '25: Japanese Paintings for Your Hapiness



2025年3月29日(土)～7月6日(日)
展示室A1階

日本の絵画には、長寿や子孫繁栄、立身出世などの願いをあらわす吉祥モチーフが伝統的に描かれてきました。吉祥モチーフが描かれた「めでたい」作品をご覧くださいとともに、伝統的な画材もあわせて展示し、日本の絵画の魅力や鑑賞のポイントをご紹介します。

〈前期〉2025年3月29日(土)～5月18日(日)

* 寸法は縦×横

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法・形態	寸法(cm)*
1	蠣崎 波響	蜂巢ト猿	1818～1826 (文政年間)	絹本彩色・軸装	94.0×30.5
2	蠣崎 波響	松瀑雄鷹図	不詳	絹本彩色・軸装	95.3×33.4
3	益田 春光	瑞祥双雅	1974(昭和49)	紙本墨画淡彩・屏風(四曲一双)	各145.0×212.0
4	北上 聖牛	晴間	1928(昭和3)	絹本彩色・屏風(二曲一隻)	180.3×183.0
5	北上 聖牛	不老長春図	1960(昭和35)頃	紙本彩色・屏風(二曲一隻)	171.0×180.0
6	岩橋 英遠	朝陽	1991(平成3)	紙本・彩色、パステル・額装	90.9×175.3
7	片岡 球子	還城楽	1967(昭和42)	麻布彩色・額装	162.0×130.0
8	片岡 球子	富士	1975(昭和50)	紙本彩色・額装	115.0×78.5

〈後期〉2025年5月21日(水)～7月6日(日)

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法・形態	寸法(cm)*
1	蠣崎 波響	孔雀図	不詳	絹本彩色・軸装	99.0×36.5
2	蠣崎 波響	富嶺江春寒之図	1826(文政9)	絹本彩色・軸装	40.0 ×58.0
3	益田 春光	瑞祥双雅	1974(昭和49)	紙本墨画淡彩・屏風(四曲一双)	各145.0×212.0
4	山口 蓬春	暖冬	1933(昭和8)	紙本金地彩色・屏風(二曲一双)	各155.0×156.0
5	岩橋 英遠	朝陽	1991(平成3)	紙本・彩色、パステル・額装	90.9×175.3
6	片岡 球子	還城楽	1967(昭和42)	麻布彩色・額装	162.0×130.0
7	片岡 球子	富士	1975(昭和50)	紙本彩色・額装	115.0×78.5

* 全て当館蔵

リーヴル・ダルティスト ―芸術になった本

ルオー、ダヴィッド、マティス、シャガール

LIVRE D'ARTISTE: The Artist Books of Rouault, David, Matisse and Chagall



2025年3月29日(土)～7月6日(日)
展示室A1階

20世紀パリで活躍した画家たちは、詩や小説の挿絵を多く手がけています。それらは「芸術家の本(リーヴル・ダルティスト)」と呼ばれ、この時代に新たな芸術ジャンルとして普及しました。本展は当館所蔵の「芸術家の本」やそのオリジナル版画などをご紹介します。

* 寸法は縦×横

No.	作家名	作品名	制作年	技法・材質	寸法(cm)*
1	アントニ・クラヴェ	ガルガンチュア物語	1951-55	リトグラフ・紙	35.0 ×25.0

1 「芸術家の本」誕生 画商ヴォラールの出版プロデュース

No.	作家名	作品名		制作年	技法・材質	寸法(cm)*
2	ピエール・ボナール	聖女モニク		1930	リトグラフ・紙(和紙)	17.2×15.5
3	パブロ・ピカソ	夜、少女に導かれる盲目のミノタウロス		1934	アクアチント、スクレーパー、 ドライポイント、エングレー ヴィング・紙	24.7×34.7
4-1	マルク・シャガール	死せる魂	小さな町	1927(刊行:1948)	エッチング・紙	22.3×28.5

4-2	マルク・シャガール	死せる魂	飼育場	1927(刊行:1948)	エッチング・紙	22.4×29.1
4-3	マルク・シャガール	死せる魂	路上での共謀	1927(刊行:1948)	エッチング・紙	27.4×21.4
4-4	マルク・シャガール	死せる魂	ゴーゴリとシャガール	1927(刊行:1948)	エッチング・紙	27.4×21.0
4-5	マルク・シャガール	死せる魂	シャツ1枚で勝ち誇るチーチコフ	1927(刊行:1948)	エッチング・紙	27.6×21.0
4-6	マルク・シャガール	死せる魂	裸で逃げ出す	1927(刊行:1948)	エッチング・紙	20.8×27.6
4-7	マルク・シャガール	死せる魂	夕暮れのトロイカ	1927(刊行:1948)	エッチング・紙	20.8×27.3
5-1	ジョルジュ・ルオー	ユビュおやじの転生	扉	1928(刊行:1932)	エリオグラヴュール、アクアチント他・紙	43.5×32.5
5-2	ジョルジュ・ルオー	ユビュおやじの転生	困り者植民者	1928(刊行:1932)	エリオグラヴュール、アクアチント他・紙	43.5×32.5
5-3	ジョルジュ・ルオー	ユビュおやじの転生	聖歌隊ユビュおやじ	1928(刊行:1932)	エリオグラヴュール、アクアチント他・紙	43.5×32.5
5-4	ジョルジュ・ルオー	ユビュおやじの転生	解放された黒人	1928(刊行:1932)	エリオグラヴュール、アクアチント他・紙	43.5×32.5
5-5	ジョルジュ・ルオー	ユビュおやじの転生	植民地行政官	1928(刊行:1932)	エリオグラヴュール、アクアチント他・紙	43.5×32.5
5-6	ジョルジュ・ルオー	ユビュおやじの転生	熱帯の風景	1928(刊行:1932)	エリオグラヴュール、アクアチント他・紙	43.5×32.5
5-7	ジョルジュ・ルオー	ユビュおやじの転生	飛ぶ魚	1928(刊行:1932)	エリオグラヴュール、アクアチント他・紙	43.5×32.5
5-8	ジョルジュ・ルオー	ユビュおやじの転生	ふたりの奥様	1928(刊行:1932)	エリオグラヴュール、アクアチント他・紙	43.5×32.5
6	オディロン・ルドン	聖アントワヌの誘惑(書籍)		1896(刊行:1938)	リトグラフ・紙(ヴェラン・ドウ・マレ)	45.5×34.0
7	ジョルジュ・ルオー	ユビュおやじの転生(書籍)		1928(刊行:1932)	エリオグラヴュール、アクアチント他・紙	48.0×37.0
8	ジョルジュ・ルオー	ユビュおやじの転生(ミニアチュール版)		1929(刊行:1955)	銅版・紙	27.5×19.8
9	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ(書籍)		1923(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、アクアチント、ドライポイント、バーニッシャー・紙	71.0×53.5
10	ジョルジュ・ルオー	聖なる顔		1939	油彩・板に貼った紙	56.0×41.0
11-1	オディロン・ルドン	聖アントワヌの誘惑(第3集再版)	VI. ものかげでは、人々が泣いたり祈祷したりしている。その周囲を取り巻いて、彼等を激励する人々がいる…	1896(刊行:1938)	リトグラフ・紙(ヴェラン・ドウ・マレ)	43.5×32.5
11-2	オディロン・ルドン	聖アントワヌの誘惑(第3集再版)	IX. …私は孤独のうちに沈んだ。私はうしろの木に住んでいたのだ	1896(刊行:1938)	リトグラフ・紙(ヴェラン・ドウ・マレ)	43.5×32.5
11-3	オディロン・ルドン	聖アントワヌの誘惑(第3集再版)	XII. 大智はわがものとなった！私は仏陀になった！	1896(刊行:1938)	リトグラフ・紙(ヴェラン・ドウ・マレ)	43.5×32.5
11-4	オディロン・ルドン	聖アントワヌの誘惑(第3集再版)	XIII. …頭を持たない眼が軟体動物のように漂っていた	1896(刊行:1938)	リトグラフ・紙(ヴェラン・ドウ・マレ)	43.5×32.5
11-5	オディロン・ルドン	聖アントワヌの誘惑(第3集再版)	XVIII. アントワヌ:これらすべての目的は何だろう？ 悪魔:目的などはないの	1896(刊行:1938)	リトグラフ・紙(ヴェラン・ドウ・マレ)	43.5×32.5
12-1	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	神よ、われを憐れみたまえ、あなたのおおいなる慈しみによって	1923(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、アクアチント、ドライポイント、バーニッシャー・紙	67.0×51.0
12-2	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	たえまなく答打たれ…	1922(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、ルーレット、ドライポイント、スクレイパー、バーニッシャー、柳炭による磨ぎ出し・紙	67.0×51.0
12-3	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	哀れな放浪者よ、お前の心の中に身を避ける	1922(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、ルーレット、ドライポイント、スクレイパー、バーニッシャー・紙	67.0×51.0
12-4	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	生きるとは辛い業…	1922(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、ルーレット、ドライポイント、バーニッシャー・紙	67.0×51.0
12-5	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	でも愛することができたなら、なんと楽しいことだろう	1923(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、アクアチント、ドライポイント、バーニッシャー、柳炭による磨ぎ出し	67.0×51.0
12-6	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	「彼は虐げられ苦しめられ、しかも口を開かざりき」	1923(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、アクアチント、ドライポイント、バーニッシャー・紙	67.0×51.0
12-7	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	忘れ去られた十字架のイエスの下で	1926(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、アクアチント、ルーレット、ドライポイント、バーニッシャー、紙ヤスリによる磨ぎ出し・紙	67.0×51.0
12-8	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	世のことがらは涙を誘うものがある…	1926(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、ルーレット、ドライポイント、スクレイパー、バーニッシャー、柳炭による磨ぎ出し・紙	67.0×51.0
12-9	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	「汝ら、互いに愛し合うべし」	1923(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、アクアチント、ルーレット、ピュラン、スクレイパー、バーニッシャー・紙	67.0×51.0
12-10	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	「廃墟すら滅びたり」	1926(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、アクアチント、ルーレット、ドライポイント、スクレイパー・紙	67.0×51.0
12-11	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	深き淵より…	1927(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、アクアチント、ルーレット、ドライポイント、スクレイパー、バーニッ	67.0×51.0
12-12	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	これが最後だよ、おやじさん！	1927(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、ドライポイント、スクレイパー、バーニッシャー・紙	67.0×51.0
12-13	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	母親に忌み嫌われる戦争	1927(刊行:1932)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、アクアチント、ルーレット、ドライポイント、スクレイパー、バーニッ	67.0×51.0
12-14	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	人は人にとりて狼なり	1926(刊行:1932)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、アクアチント、ドライポイント、スクレイパー、バーニッシャー・紙	67.0×51.0
12-15	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	高慢と無信仰のこの暗き時、見守りつづける地の果ての聖母	1927(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、アクアチント、ルーレット、ドライポイント、スクレイパー、バーニッ	67.0×51.0
12-16	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	「正しい人は、白檀の木のごとく己れを打つ斧に香を移す」	1926(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、アクアチント、ルーレット、ドライポイント、スクレイパー、バーニッ	67.0×51.0

12-17	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	「われらが癒されたるは、彼の受けたる傷によりてなり」	1922(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、ルーレット、バーニッシャー・紙	67.0×51.0
12-18	ジョルジュ・ルオー	ミセレーレ	「死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順なれば」	1926(刊行:1948)	エリオグラヴュール、シュガー・アクアチント、ルーレット、スクレイパー、バーニッシャー・紙	67.0×51.0

2 テキストとイメージの合奏 ダヴィッドとマティス

No.	作家名	作品名		制作年	技法・材質	寸法(cm)*
13	エルミース・ダヴィッド	モーリス・バレス著『オロントの庭』挿画(書籍)		1922	ドライポイント・紙	20.3×15.3
14	エルミース・ダヴィッド	ジャン・ジロドゥー著『エルペノール』挿画(書籍)		1926	ドライポイント・紙	25.0×19.0
15	エルミース・ダヴィッド	ジャン・ジロドゥー著『感傷的なシモン』挿画(書籍)		1927	ドライポイント・紙	25.0×14.5
16	エルミース・ダヴィッド	フランソワ・モーリヤック著『ファビアン』挿画(書籍)		1926	ドライポイント・紙	19.3×14.4
17	エルミース・ダヴィッド	アンドレ・ビリー著『センチメンタルな郊外』挿画(書籍)		1928	ドライポイント・紙	21.0×15.0
18	エルミース・ダヴィッド	ハンス・クリスチャン・アンデルセン著『古い家』挿画(書籍)		1952	ドライポイント・紙	30.0×20.0
19	エルミース・ダヴィッド	マルテの手記(書籍)		1942	ドライポイント・紙	19.1×11.9
20	エルミース・ダヴィッド	マルテの手記(試刷り)		1942	ドライポイント・紙	19.1×11.9
21	エルミース・ダヴィッド	マルテの手記		1942	ドライポイント・紙	19.1×11.9
22	エルミース・ダヴィッド	マルテの手記(セピア刷)		1942	ドライポイント・紙	19.1×11.9
23	ジャン＝ガブリエル・ダラニエ他	パリ1937		1937	エッチング、ドライポイント・紙	35.0×27.3
24	マリー・ローランサン	三人の娘		1943	油彩・キャンバス	61.0×49.8
25-1	マリー・ローランサン	マリアナ	右向きの女の顔	刊行:1932	リトグラフ・中国紙	29.1×21.1
25-2	マリー・ローランサン	マリアナ(書籍)		刊行:1932	リトグラフ・中国紙	29.1×21.1
26	アンリ・マティス	シャルル・ドルレアン詩集		1943頃	リトグラフ・紙	40.6 ×26.4
27	アンリ・マティス	ポルトガルの尼僧の手紙		刊行:1946	リトグラフ・紙	27.0×20.9
28	アンリ・マティス	アポリネール		刊行:1952	アクアチント・紙	33.0×24.9
29	アンドレ・ドラン	パンタグリュエル挿画集		1941-43(刊行:1943)	木版・紙	34.3×28.0
30	パブロ・ピカソ	A Los Toros avec Picasso		刊行:1961	リトグラフ・紙	24.4×31.6
31	ジョルジュ・ブラック	地獄へ		刊行:1961	リトグラフ・紙	32.0×25.5
32-1	パブロ・ピカソ	メタモルフォーズ	三人の男の頭	1930-31(刊行:1931)	エッチング・紙	32.5×25.5
32-2	パブロ・ピカソ	メタモルフォーズ	三人の裸婦	1930-31(刊行:1931)	エッチング・紙	32.5×25.5
32-3	パブロ・ピカソ	メタモルフォーズ	テレウスと彼の義理の妹ピロメラとの競技	1930-31(刊行:1931)	エッチング・紙	32.5×25.5
32-4	パブロ・ピカソ	メタモルフォーズ	蛇にかまれたエウリュディケ	1930-31(刊行:1931)	エッチング・紙	32.5×25.5
32-5	パブロ・ピカソ	メタモルフォーズ	二人の女の頭	1930-31(刊行:1931)	エッチング・紙	32.5×25.5
33	アンドレ・ドラン	猫と裸婦		1936-38頃	油彩・キャンバス	108.3×150.5

3 広がる「芸術家の本」 ムルロ工房のオリジナル・リトグラフ

No.	作家名	作品名		制作年	技法・材質	寸法(cm)*
34-1	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	扉絵	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-2	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	泉のほとりのダフニスとクロエ	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-3	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	ラモーン、ダフニスを見つける	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-4	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	ディオニューソファネースの到着	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-5	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	ドリュアース、クロエを見つける	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-6	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	ダフニスとリュカイニオン	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-7	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	牧場の春	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-8	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	クロエの判断	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-9	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	真昼、夏	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3

34-10	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	クロエ	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-11	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	ドルコーンの死	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-12	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	フィレータースの果樹園	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-13	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	クロエの誘拐	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-14	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	ニンフたちへの捧げ物	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-15	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	シュリンクスの物語	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-16	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	メガクレーヌはクロエが自分の娘であることに宴の間に気がつく	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
34-17	マルク・シャガール	ダフニスとクロエ	ニンフたちの洞窟での婚礼の祝宴	1957-60(刊行:1961)	リトグラフ・紙(アルシュ)	42.7×32.3
35	マルク・シャガール	『聖書』のためのデッサン		刊行:1960	リトグラフ・紙(アルシュ)	35.4×26.2
36	マルク・シャガール	『シャガール・リトグラフ第2巻』		1963	リトグラフ・紙	31.8 ×24.0
37	マルク・シャガール	パリの空に花		1967	油彩・キャンバス	148.0×140.0
38	ジュアン・ミロ	ネイラに捧ぐ夢の花束		刊行:1967	リトグラフ・紙	32.7×25.1
39	ジュアン・ミロ	『デリエール・ル・ミロワール №169』HAI-KU		刊行:1967	リトグラフ・紙	38.0×28.0
40	ジュアン・ミロ	『デリエール・ル・ミロワール №169』FEMMES		刊行:1967	リトグラフ・紙	38.0×28.0
41	ジュアン・ミロ	ミロ リトグラフ I・II		刊行:1977	リトグラフ・紙	31.9×24.4
42-1	ベン・シャーン	リルケ『マルテの手記』より:一行の詩のためには・・・	多くの人々を	刊行:1968	リトグラフ・紙	57.3×45.3
42-2	ベン・シャーン	リルケ『マルテの手記』より:一行の詩のためには・・・	禽獣を知らねばならぬ	刊行:1968	リトグラフ・紙	57.3×45.3
42-3	ベン・シャーン	リルケ『マルテの手記』より:一行の詩のためには・・・	少年の日の思い出を	刊行:1968	リトグラフ・紙	57.3×45.3
42-4	ベン・シャーン	リルケ『マルテの手記』より:一行の詩のためには・・・	静かなしんとした部屋で	刊行:1968	リトグラフ・紙	57.3×45.3
42-5	ベン・シャーン	リルケ『マルテの手記』より:一行の詩のためには・・・	愛にみちた多くの夜の回想	刊行:1968	リトグラフ・紙	57.3×45.3
42-6	ベン・シャーン	リルケ『マルテの手記』より:一行の詩のためには・・・	一篇の詩の最初の言葉	刊行:1968	リトグラフ・紙	57.3×45.3

*全て当館蔵

巴里のかほり アール・デコのガラス

The Ambience of Paris：Art Déco Glass



2025年3月29日(土)～7月6日(日)
展示室A2階

アール・デコとは、工業化社会の到来により1910～30年代のフランスで花開いた、直線や幾何学的模様を特徴とする造形様式です。本展ではパリを中心に活躍したガラス作家たちの作品を通じて、アール・デコの世界を紹介します。

*寸法は径×高さ、または幅×奥行×高さ					
No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)*
1	ルネ・ラリック	花器・バッカスの巫女	型:1927	ガラス:型押し	21.0×24.9
2	ドーム	昆虫文蓋物	1910代	ガラス:パート・ド・ヴェール	13.2×8.1
3	ドーム	デカンタ	1920代	ガラス:アププリケ	9.0×32.5
4	ドーム	ランプ	1920代	ガラス、金属:ヴィトリフィカシオン	35.2×51.0
5	ドーム	花器	1930代	ガラス:エッチング	34.2×34.3
6	ドーム	樹木文花器	1935	ガラス:型吹き、エッチング	27.0×27.0
7	ドーム	鹿文花器	1925～30頃	ガラス:被せガラス、型吹き、エッチング	33.0×39.5
8	ドームとルイ・マジヨレル	鉄枠吹込花器	1922頃	ガラス:斑文装飾、被せガラス、鉄枠吹込	22.1×28.5
9	ドームとルイ・マジヨレル	鉄枠吹込花器	1922頃	ガラス:斑文装飾、鉄枠吹込み	27.5×26.0
10	ヴィクトール・アマルリク・ヴァルテール	置時計	1915頃	ガラス:パート・ド・ヴェール	13.5×6.7×10.7
11	ヴィクトール・アマルリク・ヴァルテール、	置物・青い鳥	1920代	ガラス:パート・ド・ヴェール	4.7×7.2×11.8
12	ドラット工房	葉文花器	1921	ガラス:被せガラス、エッチング	10.5×17.5
13	ドラット工房	花文デカンタ	1920代	ガラス:エッチング	10.9×31.2
14	アンドレ・ドラット	鉄枠吹込花器	1925頃	ガラス:斑文ガラス、鉄枠吹込み	13.0×34.5
15	アンドレ・ドラット	人物文花器	1920代	ガラス:被せガラス、エッチング、エナメル彩	19.5×31.0
16	ミュレル兄弟	花文花器	1910頃	ガラス:被せガラス、金属箔封入、型吹き、エッチング	21.0×41.0
17	ミュレル兄弟	ランプ	1920頃	ガラス、鉄:ヴィトリフィカシオン	42.0×13.0×53.0（ガラス）11.4×14.8
18	ミュレル兄弟	鉄枠付コンポート	1920代	ガラス、鉄:斑文ガラス	42.0×30.0×22.0
19	ガブリエル・アルジィ＝ルソー	花文ランプ	1920代	ガラス、鉄:パート・ド・ヴェール	12.0×35.0
20	ガブリエル・アルジィ＝ルソー	あざみ文鉢	1922	ガラス:パート・ド・ヴェール	12.0×9.6
21	ガブリエル・アルジィ＝ルソー	けし文碗	1925頃	ガラス:パート・ド・ヴェール	11.5×7.5
22	ガブリエル・アルジィ＝ルソー	花文鉢	1930	ガラス:パート・ド・ヴェール	12.0×9.9
23	ガブリエル・アルジィ＝ルソー	あざみ文皿	1910代	ガラス:パート・ド・ヴェール	18.0×2.0
24	ガブリエル・アルジィ＝ルソー	灰皿・メダイヨン	1923	ガラス:パート・ド・ヴェール	15.9×8.5×2.5
25	ガブリエル・アルジィ＝ルソー	木の葉文蓋物	1925～30頃	ガラス:パート・ド・ヴェール	9.5×8.0
26	ガブリエル・アルジィ＝ルソー	ばら文花器	1922	ガラス:パート・ド・ヴェール	16.0×22.0
27	フランソワ＝エミール・デコルシュモン	双耳鉢	1927	ガラス:パート・ド・ヴェール	16.0×12.5×9.5

28	シュネデル工房	花文花器	1920頃	ガラス:被せガラス、斑文装飾、エッチング、 エングレーヴィング	13.5×36.0
29	シュネデル工房	花文水差し	1920代	ガラス:被せガラス、エッチング	20.0×32.1
30	シュネデル工房	斑文コンポート	1920頃	ガラス:斑文装飾	40.0×8.0
31	シュネデル工房	波に風車文花器	1928	ガラス:エッチング、被せガラス	26.0×59.0
32	シュネデル工房	幾何文花器	1920代	ガラス:斑文装飾、被せガラス、エッチング	21.0×58.5
33	マリウス＝エルネスト・サビノ	アネモネ文花器	1920代	ガラス:型吹き	23.0×18.8
34	マリウス＝エルネスト・サビノ	うにに昆布文皿	1920代	ガラス:彩色、型押し	30.0×7.2
35	ルネ・ラリック	コティ香水瓶・シクラメン	型:1909	ガラス:型吹き、着色	5.5×4.5×13.0
36	ルネ・ラリック	羊歯文花器	1920代	ガラス:型吹き	14.5×16.5
37	ルネ・ラリック	花器・バツタ	型:1913	ガラス:型吹き、着彩	26.5×28.0
38	ルネ・ラリック	花器・いんこ	型:1919	ガラス:型吹き	24.8×25.6
39	ルネ・ラリック	花器・いばら	型:1921	ガラス:型吹き	12.0×23.0
40	ルネ・ラリック	花器一蛇	型:1924	ガラス:型吹き	25.8×25.0
41	ルネ・ラリック	貝殻文鉢	1920代	ガラス:型押し	13.0×5.0
42	ルネ・ラリック	ヤドリギ文鉢	1920代	ガラス:型押し	9.5×24.0
43	ルネ・ラリック	タイス	型:1925	ガラス:型押し	19.0×5.5×21.5
44	ルネ・ラリック	スザンナ	型:1925	ガラス:型押し	18.6×5.5×22.8
45	ルネ・ラリック	花束文鉢	1920代	ガラス:型押し	30.5×12.0
46	ルネ・ラリック	皿・カリユプソ	型:1930	ガラス:型押し	38.0×4.5
47	ルネ・ラリック	ラジエータ・キャップ・孔雀の頭	型:1928	ガラス:型押し	14.0×9.8×20.2
48	ルネ・ラリック	ラジエータ・キャップ・5頭の馬	型:1925	ガラス:型押し	15.2×6.7×13.1
49	ルネ・ラリック	ラジエータ・キャップ・勝利	型:1928	ガラス:型押し	25.0×11.7×19.3
50	ルネ・ラリック	ラジエータ・キャップ・とんぼ	型:1928	ガラス:型押し	6.6×20.0×20.8
51	モーリス・マリノ	人物文扁壺	1920代	ガラス:エナメル彩	19.8×9.0×23.1
52	モーリス・マリノ	栓付瓶	1929	ガラス:エッチング	17.3×9.7×22.0
53	アンリ・ナヴァール	花器	1930代	ガラス	14.0×25.5
54	アンドレ・テュレ	花器	1930頃	ガラス	19.0×34.0
55	アンドレ・テュレ	花器	1950～60頃	ガラス	14.9×17.0
56	アンドレ・テュレ	花器	1950～60頃	ガラス	12.8×13.0
57	アンドレ・テュレ	灰皿	1950～60頃	ガラス	11.1×11.9×8.7
58	アンドレ・テュレ	花器	1935～40頃	ガラス:被せガラス	13.7×18.2
59	アンドレ・テュレ	花器	1950～60頃	ガラス:被せガラス	7.0×11.5×13.4
60	アンドレ・テュレ	香水瓶	1950～60頃	ガラス:被せガラス	10.0×16.2

*全て当館蔵

青木美歌《未生命の遊槽》
Aoki Mika, *Aquarium of life and death*



2025年3月29日(土)～2026年4月12日(日)
展示室A2階

生命体のつながりや光をテーマに、ガラスを素材とする制作を展開した青木美歌(1981～2022)。その最大級のインスタレーションを通年展示します。

*寸法は奥行×幅×高さ

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)*
1	青木 美歌	未生命の遊槽	2010(平成22)	ガラス:バーナーワーク	可変
2	青木 美歌	animagraphy#3	2010(平成22)	ガラス:バーナーワーク	36.4×31.9×9.4
3	青木 美歌	Nr-ls-32	2013(平成25)	ガラス:バーナーワーク	12.2×24.4×28.3

*全て当館蔵

新収蔵品展
New Acquisitions



2025年3月29日(土)～7月6日(日)
展示室A2階

2024(令和6)年度に新たに収蔵した作品を紹介します。

*寸法は縦×横、または縦×横×厚さ

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm)*
1	福西 毅	月光	2002(平成14)	ガラス:ホットワーク、キャスト、エナメル彩色	60.3×71.0×10.0
2	福西 毅	月光	2002(平成14)	ガラス:ホットワーク、キャスト、エナメル彩色	66.0×66.6×8.0
3	福西 毅	月光	2002(平成14)	ガラス:ホットワーク、キャスト、エナメル彩色	62.2×67.4×10.0
4	石井 亨	東京景 In the Garden	2023(令和5)	糸目友禅染、酸性染料、顔料、フオイル・絹	67.2×82.3×4.0
5	石井 亨	東京景 センター街	2022(令和4)	糸目友禅染、酸性染料、顔料、フオイル・絹	82.3×82.3×4.0
6	後藤 和子	Ariadone・Cross	1981(昭和56)	アクリル絵具・キャンバス	227.0×182.0
7	深井 克美	オリオン	1977(昭和52)	油彩・キャンバス	145.7×97.9
8	深井 克美	風	1978(昭和53)	油彩・キャンバス	89.8×125.4

*全て当館蔵

ウィズ・キッズ ’ 25

赤・青・白 杉山留美子さんの部屋

With Kids ’25: Red, Blue, and White – Sugiyama Rumiko’s Room



2025年7月19日(土)～11月24日(月・祝)
展示室A1階

杉山留美子さん(1942-2013)は、色の持つ力を追い求めた画家です。この展覧会では、杉山留美子さんが手がけた赤・青・白などによる作品を展示します。
色に包まれるような空間の中で、ぜひそのパワーを体験してみてください。

*寸法は縦×横					
No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法・形態	寸法(cm)*
1	杉山 留美子	From All Thoughts Everywhere -B-	2000(平成12)	アクリル絵具・綿キャンバス	120.0×120.0
2	杉山 留美子	WORK 9704-1	1997(平成9)	アクリル絵具・綿キャンバス	193.9×112.1
3	杉山 留美子	WORK 9704-2	1997(平成9)	アクリル絵具・綿キャンバス	193.9×112.1
4	杉山 留美子	WORK 9704-3	1997(平成9)	アクリル絵具・綿キャンバス	193.9×112.1
5	杉山 留美子	HERE - NOW あるいは難思光 - 6	2011(平成23)	アクリル絵具・綿キャンバス	各100.0×100.0 (3点組)
6	杉山 留美子	HERE-NOW あるいはシャンバラの夜明け	2006(平成18)	アクリル絵具・綿キャンバス	130.0×89.0(2点) 130.0×97.0(3点)

*全て当館蔵

1945-2025 美術は何を記憶しているか

What Kind of Memories Does Art Contain? 1945-2025



2025年7月19日(土)～11月24日(月・祝)
展示室A1階

2025年、第二次世界大戦の終結から80年を迎えます。戦後から現代に至るまで、美術は激動する社会と関わりながら展開し、時代ごとの思潮や出来事を記憶として宿しています。本展では、その記憶を掘り起こし、80年間の美術と社会の動向を探ります。

*寸法は縦×横、縦×横×厚さ、奥行×幅×高さ					
No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法・形態	寸法(cm)*
I 1945－戦争の記憶					
1	国松 登	眼のない魚	1954(昭和29)	油彩・キャンバス	91.1×116.5
2	小谷 博貞	八月の原野	1993(平成5)	油彩・キャンバス	130.0×193.5
3	亀山 良雄	閑日	1989(平成元)	油彩・キャンバス	72.5×116.5
II 風土探訪					
4	木田 金次郎	早春のホリカップ	1956(昭和31)	油彩・キャンバス	72.7×90.9
5	北岡 文雄	漁村の午后	1966(昭和41)	板目木版・紙	53.0×84.0
6	阿部 貞夫	北辺の樹群	1968(昭和43)	木版・紙	65.2×99.5
7	岡部 文之助	網走港にて	1956(昭和31)	油彩・キャンバス	89.7×145.9
8	本間 莞彩	夕陽の北海	1957(昭和32)	紙本彩色	182.5×156.4
III 前衛へ					
9	高橋 英生	「TUBE」に還元された意識	再制作:1994(平成6) 本作:1964(昭和39)	ベニヤ板、和紙・絵具チューブ	94.5×165.0
10	八木 保次	燃烧	1963(昭和38)	油彩・キャンバス	127.0×83.5
11	佐々木 美枝子	作品	1959(昭和34)	油彩・キャンバス	81.5×107.5
12	阿部 典英	作品-A	1970(昭和45)	ゴム・ボア・木・空気	57.0×117.0×58.0
13	難波田 龍起	秋の詩	1961(昭和36)	油彩、エナメル・キャンバス	112.1×193.9
IV 場の拡張					
14	檜原 武正	作品83	1983(昭和58)	ミクストメディア	130.0×162.0

15	岩下 碩通	蟬時雨	1986(昭和61)	グワッシュ、黒鉛・合板、和紙	147.3×147.9×9.5
16	米谷 雄平	地に還るもの I	1981(昭和56)	アクリル・キャンバス	180.0×225.5
17	後藤 和子	Ariadone・Cross	1981(昭和56)	アクリル絵具・キャンバス	227.0×182.0
18	上田 公夫	作品PUC81	1981(昭和56)	プラスチック	35.0×35.0×200.0

V できごとをうつす

19	岡部 昌生	YUBARI MATRIX 1992-1995より	1992(平成4)	フロッタージュ、鉛筆、弁柄、布テープ・キャンソン紙、和紙、カルトン	(大)各75.0×110.0×0.5 (小)各55.0×75.0×0.5(48点組:大12 小26)
20	畠山 哲雄	待春・夕張	1970(昭和45)	油彩・キャンバス	112.5×145.4
21	國松 明日香	The 2nd Channel for V.T.R.	1975(昭和50)	シルクスクリーン・ブラウン管	16.0×34.0×28.0
22	掛川 源一郎	長万部・1957 開拓地の兄妹	1957(昭和32)	ゼラチン・シルバー・ プリント	27.9×35.5
23	掛川 源一郎	長万部・1959 馬耕する仲宗根氏	1959(昭和34)	ゼラチン・シルバー・ プリント	35.5×27.9
24	掛川 源一郎	長万部・1956 地中から掘り出した根株の山は、巨大な城砦のようだった	1956(昭和31)	ゼラチン・シルバー・ プリント	27.9×35.5
25	掛川 源一郎	長万部・1963 開拓農家に夕陽が差す	1963(昭和38)	ゼラチン・シルバー・ プリント	27.9×35.5
26	掛川 源一郎	伊達・1966 ちょっと気取って	1966(昭和41)	ゼラチン・シルバー・ プリント	27.9×35.5
27	掛川 源一郎	伊達・1964 絵本を読む子	1964(昭和39)	ゼラチン・シルバー・ プリント	27.9×35.5
28	掛川 源一郎	伊達・1965 左手だけでもなんでもやれるわ	1965(昭和40)	ゼラチン・シルバー・ プリント	27.9×35.5
29	掛川 源一郎	伊達・1970 見守る人たち	1970(昭和45)	ゼラチン・シルバー・ プリント	27.9×35.5
30	掛川 源一郎	伊達・1970 海上の攻防戦	1970(昭和45)	ゼラチン・シルバー・ プリント	27.9×35.5
31	掛川 源一郎	伊達・1970 建設予定地付近を、反対派住民が歩く	1970(昭和45)	ゼラチン・シルバー・ プリント	27.9×35.5
32	掛川 源一郎	伊達・1970 資材の荷揚げにシュプレヒコール	1970(昭和45)	ゼラチン・シルバー・ プリント	27.9×35.5

VI 写真と現実、あるいは非現実

33	瀬戸 英樹	牛乳台のある風景	1978(昭和53)	油彩・キャンバス	193.9×130.1
34	佐藤 武	時	1987(昭和62)	アクリル・キャンバス	182.0×227.5
35	伊藤 光悦	Airport	1999(平成11)	油彩、アクリル絵具・キャンバス	130.5×162.0
36	神田 日勝	室内風景	1970(昭和45)	油彩・板	227.3×181.8
37	宮川 美樹	刻	2001(平成13)	アクリル、水彩・紙	88.3×113.8
38	尾崎 志郎	赤い工場 B	1974(昭和49)	木版・紙	44.5×89.5

VII 記録されるもの/されないもの

39	伊藤 隆介	こんなことは無かった	2012/2022(平成24/令和4)	CCDカメラ、液晶プロジェクター、モーター、照明器具、ミクスト・メディア	ジオラマ:150.0×185.0×160.0 映像:スクリーンサイズに応じ可変
40	露口 啓二	地名 信香／Nobuka／nup-ka-oma-nay(野の・上・にある・川=of the field, upper area,there is, river)	2001(平成13)	タイプCプリント	各40.6×50.8
41	露口 啓二	地名 発足／Hattari／kamuy-hattar(神の・淵=God’s depths)	2001(平成13)	タイプCプリント	各40.6×50.8

VIII 私を探る

42	岡田 敦	I am	2007(平成19)	タイプCプリント	81.0×100.0
43	深井 克美	黄昏	1973(昭和48)	油彩・キャンバス	116.3×80.6
44	森山 誠	memory 2000-3	2000(平成12)	油彩・キャンバス	130.3×162.1
45	松樹 路人	描き続ける	2012(平成24)	油彩・キャンバス	130.3×130.3
46	鈴木 涼子	私は…no. 20	2015(平成27)	タイプCプリント	120.0×180.0

＊全て当館蔵

透明なガラス スウェーデンのリリシズム

Transparent Glass: Swedish Lyricism



2025年7月19日(土)～11月24日(月・祝)
展示室A2階

スウェーデンのガラス工芸は、20世紀に入ってから飛躍的な発展をとげました。オレフォッシュ社がシーモン・ガーテ、エードヴァルド・ハルドをデザイナーとして迎え入れたのをきっかけに、芸術家と職人が積極的に共同制作に取り組み、独創的なデザインのガラス作品を次々と制作していきます。本展では、ガーテ、ハルドをはじめ、そのあとを引き継ぎ、個性あふれる作品を生み出していったヴィッケ・リンドストランド、スヴェン・パルムクヴィストらの作品を展示し、スウェーデン・ガラスの清新な魅力を紹介します。

* 寸法は径×高さ、または幅×奥行×高さ					
No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法・形態	寸法(cm)*
1	ヴィッケ・リンドストランド/オレフォッシュ社	花器・真珠採り	デザイン:1934 制作:1938	ガラス:吹込み、エングレーヴィング	16.8×28.0
2	シーモン・ガーテ/オレフォッシュ社	花文台付鉢	1917	ガラス:宙吹き、エングレーヴィング、被せガラス(グラール)	20.0×20.1
3	シーモン・ガーテ/オレフォッシュ社	高脚杯	デザイン:1923 制作:1923	ガラス:吹込み	16.8×19.3
4	シーモン・ガーテ/オレフォッシュ社	人物文ゴブレット	デザイン:1920 制作:1926	ガラス:型吹き、エングレーヴィング	13.2×24.0
5	シーモン・ガーテ/オレフォッシュ社	馬に人物文コンポート	デザイン:1920 制作:1925	ガラス:型吹き、エングレーヴィング	23.5×18.8
6	シーモン・ガーテ/オレフォッシュ社	皿付鉢・ダイアナ	デザイン:1920 制作:1926	ガラス:エングレーヴィング	22.0×16.6×2.0(皿)／ 21.1×15.7×11.7(鉢)
7	シーモン・ガーテ/オレフォッシュ社	花器・アダムとイヴ	1930	ガラス:エングレーヴィング	14.0×15.5
8	エードヴァルド・ハルド/オレフォッシュ社	鉢・花火	デザイン:1921 制作:1927頃	ガラス:型吹き、エングレーヴィング	28.0×21.0
9	エードヴァルド・ハルド/オレフォッシュ社	皿付鉢・ヴェール	デザイン:1919 制作:1922	ガラス:型吹き、エングレーヴィング	29.4×23.5
10	エードヴァルド・ハルド/オレフォッシュ社	鉢・葡萄の収穫	デザイン:1924 制作:1925	ガラス:型吹き、エングレーヴィング	27.9×13.5(鉢)／ 29.8×2.2(皿)
11	エードヴァルド・ハルド/オレフォッシュ社	蓋付ゴブレット・ニグロハウス	デザイン:1918 制作1924	ガラス:型吹き、エングレーヴィング	13.9×26.1
12	エードヴァルド・ハルド/オレフォッシュ社	花器	1942	ガラス:宙吹き、エッチング、被せガラス	14.0×19.4
13	エードヴァルド・ハルド/オレフォッシュ社	鉢	1939	ガラス:宙吹き、エングレーヴィング、被せガラス	14.2×12.1
14	エードヴァルド・ハルド/オレフォッシュ社	鉢・雷雨	デザイン:1922 制作1953	ガラス:被せガラス、型吹き、エングレーヴィング	14.4×11.2
15	ヴィッケ・リンドストランド/コスタ社	花器・漁網	デザイン:1951頃 制作:1955/56	ガラス:型吹き、エングレーヴィング	25.7×12.5×34.0
16	ヴィッケ・リンドストランド/コスタ社	花器・秋	デザイン:1950～51 制作:1950年代	ガラス:宙吹き、色ガラス封入	14.3×9.4×22.4
17	ヴィッケ・リンドストランド/コスタ社	花器・洗濯	デザイン:1951頃 制作:1950年代	ガラス:型吹き、エングレーヴィング	20.0×10.3×26.1
18	エーヴァルド・ダールスケーグ/コスタ社	蓋付台付鉢・メリーゴーランド	1926	ガラス:型吹き、カット、エングレーヴィング	28.0×38.5
19	エーヴァルド・ダールスケーグ/コスタ社	蓋付高脚杯・テスピス	デザイン:1927 制作:1927～31	ガラス:型吹き、カット、エングレーヴィング	13.4×38.7
20	ボーダ工房/エリック・S.ホグランド	ペーパーウェイト	1960年代	ガラス:鑄造	5.1×5.3×6.4
21	ボーダ工房	ペーパーウェイト	1960年代	ガラス:斑文ガラス	7.1×8.4×7.3
22	コスタ工房	ペーパーウェイト	1970頃	ガラス:気泡入	7.3×10.6
23	オレフォッシュ/ニルス・ランドベリィ	ペーパーウェイト	1979	ガラス	6.8×6.0
24	コスタ工房	ペーパーウェイト	1960年代	ガラス:カット、サンドブラスト	8.1×8.6
25	コスタ工房/ヴェケ・リンドストランド	ペーパーウェイト	1960年代	ガラス:気泡封入	8.6×8.1
26	コスタ工房/ベンクト・ハインツ	ペーパーウェイト	1970頃	ガラス:被せガラス、気泡封入、カット	6.0×8.6
27	コスタ工房/モナ・モラレス＝シルト	ペーパーウェイト	1960年代	ガラス:被せガラス、カット	4.6×5.9
28	コスタ工房/モナ・モラレス＝シルト	ペーパーウェイト	1970頃	ガラス:被せガラス、気泡封入、カット	4.6×5.9
29	コスタ工房/ゴラン・ウォルフ	ペーパーウェイト	1960年代	ガラス:被せガラス	5.9×8.0
30	コスタ工房/ゴラン・ウォルフ	ペーパーウェイト	1970頃	ガラス:気泡入	6.9×6.5
31	コスタ工房/ゴラン・ウォルフ	ペーパーウェイト	1970頃	ガラス:気泡入	6.5×7.5
32	ニルス・ランドベリィ/オレフォッシュ社	チューリップグラス	デザイン:1957 制作:1950年代末	ガラス:被せガラス、宙吹き	11.0×44.2
33	ニルス・ランドベリィ/オレフォッシュ社	チューリップグラス	デザイン:1957 制作:1950年代末	ガラス:被せガラス、宙吹き	12.7×48.8

34	ニルス・ランドベリイ/オレフォッシュ社	チューリップグラス	デザイン:1957 制作:1950年代末	ガラス:被せガラス、宙吹き	12.6×48.2
35	インゲボリイ・ルンディーン/オレフォッシュ社	花器・りんご	デザイン:1957	ガラス:被せガラス、宙吹き	33.8×36.0
36	インゲボリイ・ルンディーン/オレフォッシュ社	花器・顔	1968	ガラス:被せガラス、気泡封入	12.3×16.0
37	スヴェン・パルムクヴィスト/オレフォッシュ社	鉢・カンタラ	1944	ガラス:被せガラス、宙吹き	31.5×8.5
38	スヴェン・パルムクヴィスト/オレフォッシュ社	鉢 ラヴェンナ	1952	ガラス:ラヴェンナ技法	25.5×19.5
39	スヴェン・パルムクヴィスト/オレフォッシュ社	花器・ラヴェンナ	1971	ガラス:ラヴェンナ技法	14.0×15.0×14.0
40	エードヴィン・エールシュトレム/ オレフォッシュ社	鳩に人物文花器	1953	ガラス:宙吹き、サンドブラスト、被せガラス	14.5×18.7
41	モーナ・モーラレス＝シルト	花器	1960年代	ガラス:被せガラス、カット	11.3×7.0×17.2
42	ベクト・エーデンファルク/スクルーヴ社	花器・タラッタ	1960頃	ガラス:アリエル技法	15.0×19.0
43	アナ・アナー/コスタ工房	ホワイト・ボウル	1980	ガラス:被せガラス、エッチング	21.5×17.0
44	ウルリカ・ヒュードマン・ヴァッリーン/コスタ・ボーダ社	誘惑 I	1991	ガラス:宙吹き、エッチング、エナメル焼き付け、被せガラス	14.4×21.4
45	ベッティル・ヴァッリーン	鍵	1971	ガラス:被せガラス、エッチング、サンドブラスト	16.5×14.6
46	ベッティル・ヴァッリーン	手・手・手	1974	ガラス:被せガラス、エッチング、サンドブラスト	20.4×25.5×18.8
47	ベッティル・ヴァッリーン	静かなる旅	1985	ガラス:サンドキャスト	48.0×11.0×14.0
48	ベッティル・ヴァッリーン	ポート	不詳	ガラス:サンドキャスト	48.5×9.3×7.3
49	プレストン・シングレタリー	無題	1991	ガラス:宙吹き、被せガラス,溶着	9.5×22.8
50	プレストン・シングレタリー	無題	1991	ガラス:宙吹き、被せガラス,溶着	27.6×50.1
51	プレストン・シングレタリー	無題	1991	ガラス:宙吹き、被せガラス,溶着	25.5×54.5
52	プレストン・シングレタリー	なぐりがきの花瓶	1990	ガラス:宙吹き、被せガラス,溶着	27.6×50.1
53	プレストン・シングレタリー	なぐりがきの花瓶	1990	ガラス:宙吹き、被せガラス,溶着	25.5×54.5
54	アン・ヴォルフ	スープの王様がいない	1980	ガラス:被せガラス、サンドブラスト、エッチング	40.0×45.0
55	アン・ヴォルフ	マザーズ・ボウル	1981	ガラス:被せガラス、サンドブラスト、エッチング	28.5×22.0
56	アン・ヴォルフ	彫刻 二重の顔	1988	ガラス:エッチング、サンドブラスト、多色被せ	42.5×26.0×77.0
57	カイ・フランク	花器	1970頃	ガラス:型吹き	17.0×21.8
58	ベント・ボネ	人間	1985	ガラス:型吹き、グラビュール	18.5×21.5×39.5
59	ベント・ボネ	山	1985	ガラス:型吹き、グラビュール	16.5×22.7×34.0
60	フィン・リュンゴー	陸、海そして空	1982	ガラス:エナメル彩	20.5×26.0
61	フィン・リュンゴー	蝶	1982	ガラス:被せガラス、銀箔溶着	22.0×23.0

＊全て当館蔵

青木美歌《未生命の遊槽》

Aoki Mika, Aquarium of life and death

2025年7月19日(土)～11月24日(月・祝)
展示室A2階

生命体のつながりや光をテーマに、ガラスを素材とする制作を展開した青木美歌(1981～2022)。その最大級のインスタレーションを通年展示します。*寸法は奥行×幅×高さ

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法・形態	寸法(cm)*
1	青木美歌	未生命の遊槽	2010(平成22)	ガラス:バーナーワーク	可変
2	青木美歌	animagraphy#3	2010(平成22)	ガラス:バーナーワーク	36.4×31.9×9.4
3	青木美歌	Nr-ls-32	2013(平成25)	ガラス:バーナーワーク	12.2×24.4×28.3

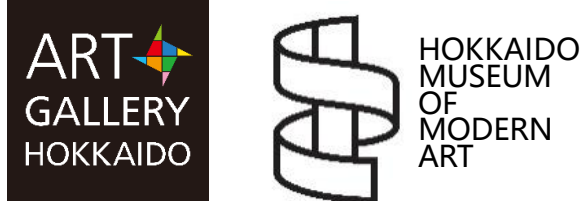
*全て当館蔵

アートギャラリー北海道

手のひらの宇宙－洞爺湖芸術館コレクション展

Art Gallery Hokkaido: A Universe in the Palm of Your Hand – The Toyako Museum of Art Collection

2025年7月19日(土)～11月24日(月・祝)
展示室A2階



道内の美術館を紹介する展覧会。洞爺村(2006年より洞爺湖町)で「手のひらの宇宙」をテーマとして作品のサイズを限定した小型彫刻の国際公募展「洞爺村国際彫刻ビエンナーレ」が、1993年から2007年まで8回開催されています。洞爺湖芸術館に収蔵された入選作品のコレクションを紹介します。

*寸法は縦×横×高さ

No.	作家名	作品名	国籍	制作年 受賞	材質・技法・形態	寸法(cm)
1	高橋勇一郎	虫ケラの砦	日本	1993 大賞	鉄	20.0×40.0×20.0
2	ジェフリー・C・キース	BIRCH FISH	アメリカ	1993 優秀賞	ブロンズ	20.0×38.1×17.5
3	眞板雅文	連山夢想-とうやむら	日本	1993 入選	ステンレス、石	20.0×31.0×17.0
4	増田ひで子	growing'93	日本	1993 入選	セミクリスタル	15.0×20.0×27.0
5	エマニエル・ハトゾフ	ANCHOR	イスラエル	1995 大賞	黒御影石	30.0×20.0×25.0
6	ペールーズ・ダレッシュ	Without Title	イラン	1995 T氏賞	石	20.0×30.0×40.0
7	デイビッド・キナーン	SOLIDS	アイルランド	1995入選	ブロンズ、木	28.0×28.0×20.0
8	ラモン・G・オルリーナ	TAGUMPAY(LAURELS)	フィリピン	1995入選	ガラス	20.0×32.0×25.0
9	野口明美	2EN1	日本(フランス)	1997大賞	木	7.5×22.6×36.0
10	クリスティーン・C・スミス	THE NAVIGATOR	アメリカ	1997 優秀賞	ブロンズ	20.0×40.0×30.0
11	キャサリン・リー・フェルッチ	RONCHAMP LAMPSHADE	アメリカ	1997 入選	薄葉紙、光線	7.5×7.5×7.5
12	武田由宇	音(ね)	日本	1997 入選	鉄	13.0×27.0×27.0
13	ゲオルグ・グリュックマン	Soraya 2c	ドイツ	1999 大賞	溶解金属、ナイロン	12.0×12.0×25.5
14	貴儀秀行	澎湃(ほうはい) ー漲りうつ光ー	日本	1999 優秀賞	紙、アクリル樹脂	19.0×28.0×24.0
15	エロール・ブルース・デービス	SOLAR NET	オーストラリア	1999 入選	電子ニッケル	20.0×28.0×34.0
16	フローレンス・イザベル・ホフマン	ONE AND TOGETHER	ルクセンブルグ	1999 入選	ブロンズ	20.0×30.0×30.0
17	和泉聡志	曳航(えいこう)	日本(イタリア)	1999 入選	黒大理石、真鍮、ステンレス	19.5×32.5×29.0
18	原一史	西方のシタデル	日本	2001 大賞	コルテン鋼、石	20.0×30.0×40.0
19	ボバン・イリック	BALANCED MAN	ユーゴスラヴィア(アメリカ)	2001 F氏賞	ステンレス	20.0×30.0×40.0
20	張慶南	富山の思い出	韓国(日本)	2001 入選	ガラス	20.0×30.0×40.0
21	ジョルジー・クバジャック	THE WAY TOWARD THE SUN	ユーゴスラヴィア	2001 入選	黒石	20.0×30.0×40.0
22	長沼克己	DREAM-BAG	日本	2001 入選	白大理石、黒御影石	24.0×18.0×40.0
23	マリアドロレス・カステジャノス	ROOTED	グアテマラ	2003 大賞	樹脂、炆器	18.0×18.0×40.0
24	ハンナ・H・ジュブラン	Immortality Unveil	イスラエル	2003 準大賞	石罅石、ブロンズ	14.0×29.0×36.0
25	アントネツラ・ティオツツ	PICCOLA TRAPPOLA(LITTLE TRAP)	イタリア	2003 優秀賞	カラーラ産大理石	17.0×26.0×28.0
26	曽我部正文 曽我部和子	安息の場所	日本	2003 F氏賞	ガラス	20.0×26.0×31.0
27	ラインハルト・スコラッキ	To the Stars We Have Yet to Meet	カナダ	2003 入選	砂岩、ブロンズ	9.0×33.0×28.0

28	パネッテ・キフ	TRAVELLER WORLD	ルーマニア	2005 大賞	木(樺木、オーク)	40.0×20.0×19.0
29	アリヤ・キティチャロ エンウィワット	“FLYING IN THE BOX”	タイ	2005 優秀賞	ステンレス、樹脂、アクリル、木	20.0×30.0×38.0
30	セボグ・ウィー	Seed of Cosmos	韓国	2007 大賞	ステンレス	21.0×20.0×21.0
31	スメイル・ジジ	TABŮ	アルジェリア(イタリア)	2007 優秀賞	カラーラ産大理石	27.0×15.0×40.0
32	阿部典英	ソーラン節 ロックにのって 祭り来る	日本	2007 小田襄賞	ステンレス、油性塗料	16.0×19.5×37.5

*全て洞爺湖芸術館蔵

この1点を見てほしい。

Enjoy Special One Piece

2025年7月19日(土)～11月24日(月・祝)
前庭・ロビー(2階)

6,000点を超える当館コレクションの中から1点を選び、学芸員が多角的な研究を通して作品の奥深い魅力をご紹介します。

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法・形態	寸法(cm)*
1	本郷新	嵐の中の母子像	1953(昭和28)	ブロンズ	65.5×182.5×145.0

*全て当館蔵

おはなし美術

The Art of Stories



2025年12月13日[土] — 2026年4月12日[日]
北海道立近代美術館 展示室A 1F

わたしたちの周りには、たくさんの「おはなし」が存在します。古くから伝わる説話、本に記された物語や、誰かに聞いてもらうためにまとめられた事柄、対話やスピーチなど、その内容や形式、方法は多岐にわたります。それぞれ異なる特質をもったすべての人々がともに生きていくことの大切さに気づきを得た今日、おはなしとは取りも直さず、何らかの物事や物語を伝え、また互いの思いや考えを伝え合う「コミュニケーション」そのものといえるのかもしれませんが。

本展では、おはなしを一つの糸口としながら、美術の世界をたのしくご覧いただきます。おはなしとともに描かれた絵本、かけことばを取り入れた浮世絵、説話をモチーフとする絵画やイメージーションゆたかな版画連作など、おはなしをめぐる多彩な作品をご紹介します、その内容や表現の工夫をやさしく紐解きます。また、立体作品を手でふれて、かたちや質感を味わっていただくコーナーも設けます。

「おはなし美術」をとおして、わたしたちと美術がもっと仲良くなれますように……！

No.	作家名	作品名	制作年	技法、材質／形状等	寸法(cm) 縦×横(×厚) または 幅×奥行×高さ
◎ ようこそ「おはなし美術」の世界へ					
1	栗谷川 健一	絵本『うみどりのしま』原画〔16点組〕	1971～72 (昭和46～47)	ポスターカラー、パステル、ボード	36.7×30.5 ほか
2	栗谷川 健一	絵本『どさんこ どんぺい』原画〔14点組〕	1973(昭和48)	ポスターカラー、水彩、ボード	30.2×42.6 ほか
3	井上 洋介	『ふりむけば猫』〔21点組〕	1981(昭和56)	木版、手彩色、紙 最後の1点のみ：墨、紙	20.0×15.0 ほか
4	芹沢 銑介	『新版 絵本どんきほうて』	1976(昭和51)	型染、紙／和綴じ(黒漆塗木箱入り)	40.5×36.5×1.3 (木箱)44.7×40.3×4.2
5	作者不詳	大願成就有ヶ滝縞(玉簾の滝)	制作年不詳	紙本彩色／軸	37.6×25.3
6*	歌川 国貞	一步線香即席噺 しやうたく	制作年不詳	木版、紙／大判錦絵	38.3×25.8
7*	歌川 国貞	気候 東風解凍	制作年不詳	木版、紙／大判錦絵	39.0×25.6
8*	歌川 国芳	妙でんす十六利勘 煩惱損者	制作年不詳	木版、紙／大判錦絵	36.5×24.7
9*	歌川 国芳	仇撃忠孝伝 はつ女	制作年不詳	木版、紙／大判錦絵	35.6×25.3
◎ 「おはなし美術」を読み解く					
10	アルブレヒト・デューラー	聖エウスタキウス	1501頃	エングレーヴィング、紙	35.7×25.9
11	レンブラント・ファン・レイン	寺院のシメオン	1639頃	エッチング、ドライポイント、紙	21.3×28.9
12*	マルク・シャガール	出エジプト記〔24点組〕	刊行：1966	リグラフ、和紙	44.0×32.0 ほか
13	アルブレヒト・デューラー	小受難〔37点組〕	1509-11	木版、紙	8.5×8.1 ほか
14	田中 忠雄	バベルの塔	1961(昭和36)	油彩、キャンバス	194.0×130.3
15-1	増田 誠	「ギリシャ神話」 ゼウス	1976(昭和51)	石版、ヴェラン・アルシュ紙	35.0×26.7
15-2	増田 誠	「ギリシャ神話」 プロメテウス	1976(昭和51)	石版、ヴェラン・アルシュ紙	33.2×24.6
15-3	増田 誠	「ギリシャ神話」 牧神の夜	1976(昭和51)	石版、ヴェラン・アルシュ紙	24.2×33.5
15-4	増田 誠	「ギリシャ神話」 テセウスとケンタウロス	1976(昭和51)	石版、ヴェラン・アルシュ紙	25.0×33.7
15-5	増田 誠	「ギリシャ神話」 牧神の午後	1976(昭和51)	石版、ヴェラン・アルシュ紙	24.5×33.3
15-6	増田 誠	「ギリシャ神話」 ゼウスとエウロペ	1976(昭和51)	石版、ヴェラン・アルシュ紙	25.3×33.5
15-7	増田 誠	「ギリシャ神話」 ヘラクレスとクレタの牡牛	1976(昭和51)	石版、ヴェラン・アルシュ紙	24.5×33.5
16	砂田 友治	その時(時は止まり、釘は折れた)	1992(平成4)	油彩、キャンバス	194.3×259.1
17	福沢 一郎	亡者を打つ渡し守カロン	1971(昭和46)	油彩、キャンバス	259.1×193.9
18	月岡 栄貴	風神雷神	1982(昭和57)	紙本彩色／額	204.2×287.4
19	菊川 多賀	小宰相	1976(昭和51)	紙本彩色／額	180.3×240.0
20*	筆谷 等観	春寒賜浴	1924(大正13)	絹本彩色／軸	118.3×87.0
21*	菅原 翠洲	出山之釈迦	1928(昭和3)	絹本彩色／軸	140.0×52.0

22*	菅原 翠洲	勿来関	1914(大正3)	絹本彩色／軸	115.0×50.0
23*	橋本 雅邦	十牛図	明治中期	紙本墨画／軸	128.7×56.1
24*	波響門人他合作	白蔵主図	制作年不詳	絹本彩色／軸	129.0×55.4
25*	藤田 喬平	飾筥・源氏物語	1983(昭和58)	ガラス、金属：被せガラス、色ガラス粒と金属箔による装飾、型吹き	21.0×21.5×24.5
26*	藤田 喬平	飾筥・竹取物語	1992(平成4)	ガラス、銀：被せガラス、色ガラス粒と金箔、プラチナ箔による装飾、型吹き	29.5×26.0×17.0
27	佐多 芳郎	漢の織姫	1973(昭和48)	紙本彩色／額	157.7×86.7

● 心のなかの「おはなし美術」

28	中谷 有逸	碑・古事記(オキナガタラシヒメとその御子)	2014(平成26)	ステンシル版、インク(木炭粉、石粉、鉄粉、アクリル絵具等と樹脂を練り合わせ)、キャンバス	112.0×145.5
29*	堂本 印象	四季図	昭和初期	絹本彩色／軸(四幅対)	127.0×28.0 127.0×28.2 127.0×28.0 126.8×28.0
30*	高島 北海	四季山水図	1919-23 (大正8-12)	紙本墨画淡彩／軸(四幅対)	各 127.0×42.0
31	菊川 多賀	回想賦(大正五年頃)	1984(昭和59)	紙本彩色／額	63.5×48.6
32	マックス・クリンガー	手袋〔10点組〕	1881	エッチング、アクアチント、紙	22.7×32.7 ほか
33	伴 百合野	滂沱	1984(昭和59)	紙本彩色／額	227.4×181.9
34	羽生 輝	海霧(オソツナイ)	2001(平成13)	彩色、板／額	181.8×227.3
35	佐藤 忠良	ボタン	1969(昭和44)	ブロンズ	40.0×30.0×127.0
36	本田 明二	黒い首	1953(昭和28)	木(マカバ)	27.0×20.0×50.5
37	安田 侃	対話〔6点一組〕	1974-75 (昭和49-50)	大理石	100.0×130.0×31.0 (台座含む)
38	渡辺 信	萌芽	1978(昭和53)	ブロンズ	33.0×34.3×37.5
39	畠山 三代喜	春告譜	1981(昭和56)	銅板、彫鍛金	145.0×90.2×4.0

※作品番号の後ろに「＊」を付けた作品は、前期・後期で入替。
・Nos. 6, 8, 20, 21, 25, 29 ： 前期(12月13日～2月15日)のみ展示。
・Nos. 7, 9, 22, 23, 24, 26, 30 ： 後期(2月21日～4月12日)のみ展示。
・No. 12 ： 24点組のうち、1～12点めは前期(12月13日～2月15日)のみ展示、13～24点めは後期(2月21日～4月12日)のみ展示。

※作品はすべて当館蔵。

カラー・オブ・グラス Various Colors of Glass

2025年12月13日[土] — 2026年4月12日[日]
展示室A 2F

ガラス造形では、金属化合物の添加で様々な色を着色するほか、異なる色のガラスを被(き)せるなどの手法で複雑な色合いをつくりだしています。
19世紀後半にガラス工芸を芸術の域に高めたフランスのエミール・ガレ(1846-1904)は、酸化コバルトによる淡い青の「月光色ガラス」や酸化第一鉄や酸化クロームなどによる黒色ガラスを用いた優品を生み出し、それぞれパリ万国博覧会(1878、1889年)で発表、独自の世界観に根ざした新たな色と表現が大きな反響を呼びました。こうした創造性ゆたかな色彩のヴァリエーションのみならず、加熱時の流動性や光の透過性を巧みに生かした造形によって生みだされた、ガラスならではの色彩美を、「着色する」「被(き)せる」「混ぜる」「透きとおる」の4つのコーナーに分けて紹介します。近現代の作家たちの多様な感性やイマジネーション、素材を活かした個性的な表現の数々をお楽しみください。

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm) 径×高さ、または幅×奥行×高さ
Ⅰ 着色する					
1	岩田 久利	花器	1991(平成3)	ガラス：宙吹き	26.0×21.0×34.5
2	各務 鑛三	鳥獣文飾鉢	1930(昭和5)	ガラス：被せガラス、カット、エングレーヴィング	20.9×8.9
3	岩田 久利	花器	1982(昭和57)	ガラス：宙吹き	24.0×24.0×39.0
4	各務 鑛三	鉢・馬の目	1935(昭和10)	ガラス：カット、エングレーヴィング	36.5×15.2
5	ルネ・ラリック	花器・いばら	型：1921	ガラス：型吹き	12.0×23.0

6	岩田 藤七	花器	1960(昭和35)	ガラス：宙吹き	25.0×25.0×28.0
7	ドーム	鉢<プリズム・ブルー>	1960	ガラス	30.5×22.0×9.5
8	ドーム	花器	1930年代	ガラス：エッチング	34.2×34.3
9	イギリスの工房	ワイングラス	19世紀	ガラス：エングレーヴィング	6.4×12.0
10	インゲボリィ・ルンディーン/ オレフオツシュ社	花器・顔	1968	ガラス：被せガラス、気泡封入	12.3×16.0
11	ボヘミアの工房	鹿文蓋付ゴブレット	19世紀中期	ガラス：型吹き、ステイニング、カット、エング レーヴィング	9.6×27.8
12	岩田 久利	きはだまがりおおつぼ 黄蘗曲大壺	1987(昭和62)	ガラス：宙吹き	29.0×29.5×44.5
13	岩田 藤七	花器・曼珠	制作年不詳	ガラス：宙吹き	18.5×16.0
14	モーナ・モーラレス=シルト	花器	1960年代	ガラス：被せガラス、カット	11.3×7.0×17.2
15	岩田 藤七	花器・南風	制作年不詳	ガラス：宙吹き	18.0×18.0
16	岩田 久利	ひあかりゆうえいもんつぼ 緋赤流影文壺	1991(平成3)	ガラス：被せガラス、宙吹き	28.5×28.5×41.0
17	岩田 藤七	花瓶・丘の上	制作年不詳	ガラス：被せガラス、宙吹き、カット	12.5×51.5
18	サルヴィアーティ工房	手付コンポート	1974	ガラス：アププリケ	16.8×11.8×18.7
19	スヴェン・パルムクヴィスト/ オレフオツシュ社	鉢・カンタラ	1944	ガラス：被せガラス、宙吹き	31.5×8.5, 16.5×6.0
20	エミール・ガレ	鯉文花器	1878頃	ガラス：型吹き、エナメル彩	22.8×28.5
21	エミール・ガレ	蜂文花器	1900頃	ガラス：型吹き、エッチング、エナメル彩、金 彩	10.8×24.7
22	エミール・ガレ	虫文花器	1889	ガラス：被せガラス、型吹き、エングレーヴィン グ	8.5×11.0
23	エミール・ガレ	とんぼ 蜻蛉文花器	1900-04頃	ガラス：被せガラス、エッチング	8.5×6.2×16.8
24	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	10.2×8.4×17.5
25	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	9.7×24.3
26	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	13.8×9.5×15.2
27	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	10.3×8.0×21.8
28	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	10.9×14.9
29	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	12.4×20.5
30	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	18.0×13.3×12.7
31	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	9.1×14.4
32	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	13.0×8.5×10.3
33	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	16.7×13.9×14.6
34	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	8.8×19.5
35	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	8.0×22.4
36	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	8.8×19.4×10.2
37	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	8.3×22.9
38	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	18.0×7.8×26.2
39	高橋 禎彦	花のような	2002(平成14)	ガラス：被せガラス、宙吹き、研磨	12.0×19.6
40	トゥーツ・ジンスキー	ティエラ・デル・フエゴの連作より「無題」	制作年不詳	ガラス：押し出し成形による繊維状のガラス、 溶接	25.4×32.7×16.4
41	岩田 藤七	栓付瓶・原宿	1976(昭和51)頃	ガラス：型吹き、アププリケ	11.5×11.5×54.5
42	岩田 藤七	瓶	1976(昭和51)	ガラス：型吹き	12.0×12.0×34.5
43	米原 眞司	静かな赤	2001(平成13)	ガラス：被せガラス、宙吹き、ピックアップ、サ ンドブラスト、エッチング	36.8×35.2
44	岩田 久利	硝子器	1982(昭和57)	ガラス：宙吹き、アププリケ	35.0×39.7
45	岩田 久利	蓋物・百一つ	1977(昭和52)	ガラス：宙吹き	28.0×65.0

Ⅱ 被せる

46	エミール・ガレ	草花文花器	1890年代	ガラス：被せガラス、エッチング	10.0×45.0
47	エミール・ガレ	蓮文花器	1900	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング、エン グレーヴィング	15.0×18.7

48	エミール・ガレ	紫陽花文花器	1900頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング	11.4×29.0
49	ガレ工房	こぶし文扁壺	1904–14頃	ガラス：被せガラス、エッチング	27.2×32.5
50	エミール・ガレ	カトレア文花器	1900頃	ガラス：被せガラス、金属箔封入、型吹き、エッチング、エングレーヴィング	12.0×12.0
51	エミール・ガレ	百合文香水瓶	1890年代	ガラス：被せガラス、エッチング、エングレーヴィング	10.5×13.3
52	エミール・ガレ	花に蝶文ランプ	1900頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング	30.5×8.8×25.7
53	ガレ工房	湖水風景文花器	1920年代	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング	31.5×67.0
54	ガレ工房	スイセン文花器	1906–14頃	ガラス：被せガラス、型吹き、エッチング	13.3×52.6
55	シュネデル工房	幾何文花器	1920年代	ガラス：斑文装飾、被せガラス、エッチング	21.0×58.5
56	シュネデル工房	花文水差し	1920年代	ガラス：被せガラス、エッチング	20.0×32.1

Ⅲ 混ぜる

57	藤田 喬平	かざりばこ 飾篭・弥生	1982(昭和57)	ガラス：型吹き、色ガラス粒と金箔・プラチナ箔による装飾	29.5×19.7
58	藤田 喬平	香合	1991(平成3)	ガラス：色ガラス粒と金属箔による装飾、型吹き	6.0×5.8×3.8
59	藤田 喬平	かざりばこ 飾篭・海の彩	1980(昭和55)	ガラス：色ガラス粒と金属箔による装飾、型吹き	24.0×20.5×18.5
60	岩田 藤七	花器・荷葉	制作年不詳	ガラス：宙吹き、金箔溶着	33.8×21.6×13.8
61	岩田 藤七	花器・夕月	制作年不詳	ガラス：型吹き	15.5×15.5
62	岩田 藤七	水差・雲間	1975(昭和50)	ガラス：宙吹き	22.3×19.0
63	岩田 藤七	茶入・ おぼろ 朧	制作年不詳	ガラス：宙吹き	8.0×5.2
64	岩田 藤七	茶碗・銀河	制作年不詳	ガラス：宙吹き	12.5×8.0
65	岩田 久利	花器	1989(平成元)	ガラス：宙吹き	24.0×24.0×23.0

Ⅳ 透きとおる

66	ルネ・ラリック	花束文鉢	1920年代	ガラス：型押し	30.5×12.0
67	ルネ・ラリック	貝殻文鉢	1920年代	ガラス：型押し	13.0×5.0
68	ルネ・ラリック	タイス	型：1925	ガラス：型押し	19.0×5.5×21.5
69	ルネ・ラリック	花器・バッカスの巫女	型：1927	ガラス：型押し	21.0×24.9
70	ルネ・ラリック	皿・カリュプソ	型：1930	ガラス：型押し	38.0×4.5
71	ルネ・ラリック	ラジエータ・キャップ〈勝利〉	型：1928	ガラス：型押し	25.0×11.7×19.3
72	ルネ・ラリック	ラジエータ・キャップ〈5頭の馬〉	型：1925	ガラス：型押し	15.2×6.7×13.1
73	ルネ・ラリック	ラジエータ・キャップ〈とんぼ〉	型：1928	ガラス：型押し	20.0×6.6×20.8
74	岩田 藤七	花貝	1976(昭和51)	ガラス：宙吹き	17.0×32.5×15.0
75	岩田 藤七	貝	1976(昭和51)	ガラス：宙吹き	21.5×17.0×15.0
76	岩田 久利	花器	1992(平成4)	ガラス：宙吹き	27.0×27.0×36.0
77	インゲボリィ・ルンディーン/ オレフオツシュ社	花器・りんご	デザイン：1957	ガラス：被せガラス、宙吹き	33.8×36.0
78	ニルス・ランドベリィ/ オレフオツシュ社□	チューリップグラス	1950年代末（デザイン：1957）	ガラス：被せガラス、宙吹き	11.0×44.2
79	ニルス・ランドベリィ/ オレフオツシュ社□	チューリップグラス	1950年代末（デザイン：1957）	ガラス：被せガラス、宙吹き	12.6×48.2
80	ニルス・ランドベリィ/ オレフオツシュ社□	チューリップグラス	1950年代末（デザイン：1957）	ガラス：被せガラス、宙吹き	12.7×48.8
81	塩谷 直美	嵐の予感	2001(平成13)	ガラス：キャスト、サンドブラスト、研磨	40.0×14.0×66.0
82	マーヴィン・リボフスキー	小樽シリーズ#7	1987	ガラス：被せガラス、型吹き(部分的)、カット、サンドブラスト、酸磨き	29.6×27.3×21.8
83	リチャード・ジョリー	琥珀色の座る女	1988	ガラス：吹き竿によらない成形、直接にドローイング、エッチング	26.5×11.5×31.5
84	イジー・シュハーイエク	座る n. 2	1985	ガラス：宙吹き	20.0×57.0×107.0

＊全て当館蔵

青木美歌《未生命の遊槽》

Aoki Mika, *Aquarium of life and death*

生命体のつながりや光をテーマに、ガラスを素材とする制作を展開した青木美歌(1981～2022)。その最大級のインスタレーションを通年展示します。

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm) 幅×奥行×高さ
1	青木 美歌	未生命の遊槽	2010(平成22)	ガラス:バーナーワーク	可変
2	青木 美歌	animagraphy#3	2010(平成22)	ガラス:バーナーワーク	31.9×36.4×9.4
3	青木 美歌	Nr-ls-32	2013(平成25)	ガラス:バーナーワーク	24.4×12.2×28.3

*全て当館蔵

この1点を見てほしい。
池田良二《アントニ・タピエス氏に捧げる Varanasi》

Enjoy Special One Piece: Ikeda Ryoji, *Homage to Antoni Tàpies: Varanasi*

6,000点を超える当館コレクションの中から1点を選び、学芸員が多角的な研究を通して作品の奥深い魅力をご紹介します。
今回は根室出身の銅版画家、池田良二の作品を取り上げます。

No.	作家名	作品名	制作年	材質・技法	寸法(cm) 縦×横
1	池田 良二	アントニ・タピエス氏に捧げる Varanasi	1980(昭和55)	和紙・エッチング、アクアチント、ドライポイント、 メゾチント	53.9×26.2
2	池田 良二	アントニ・タピエス氏に捧げる Scattered Seeds	1979(昭和55)	和紙・エッチング、アクアチント、ドライポイント、 メゾチント	79.5×56.5
3	池田 良二	アントニ・タピエス氏に捧げる Nobody knows my mind	1981(昭和57)	和紙・エッチング、アクアチント、ドライポイント、 メゾチント	59.0×89.0

若冲・応挙・芦雪—禅文化の名宝と美

金閣・銀閣 相国寺展

2025. 7.19[±]—9.7^日

会期中、一部展示替えをします。

前期：7月19日(土)～8月11日(祝・月)

後期：8月13日(水)～9月7日(日)

北海道立近代美術館

主催：北海道立近代美術館
大木山相国寺
日本経済新聞社
テレビ北海道
北海道新聞社
共催：相国寺永天閣美術館
特別協力：鹿苑寺、慈照寺
協賛：伊藤組グループ
伊藤忠商事株式会社
平和不動産株式会社
よつ葉乳業株式会社
後援：北海道、札幌市
札幌市教育委員会

※リスト上の作品番号は展示作品のキャプション番号と一致しますが、実際の展示順と異なる場合があります。

番号	指定	作品名	作者等	員数	材質	時代	所蔵	前期/後期
第1章 京の禅寺—武家と天皇と禅								
1		足利義満像	古溪性琴賛	一軀	木造	室町時代 15世紀	相国寺	
2		足利義満像	自賛(夢窓疎石賛)	一幅	絹本着色	江戸時代 明暦3年(1657)	相国寺	
3		足利義政像	識中申款賛 吉山明兆筆	一幅	絹本着色	室町時代 16世紀	慈照院	前期
4	重文	慈照院涼閣摺薄	戴中周璽賛	一冊	紙本墨書	室町時代 15世紀	慈照院	
5		足利義政像	古溪性琴賛	一幅	絹本着色	江戸時代 18世紀	慈照寺	後期
6		夢窓疎石頂相	自賛(夢窓疎石賛)	一幅	絹本着色	南北朝時代 14世紀	相国寺	
7		春屋妙葩頂相	識中申款賛 吉山明兆筆	一幅	絹本着色	室町時代 15世紀	相国寺	
8		足利義満像	戴中周璽賛	一幅	絹本着色	室町時代 応永31年(1424)	相国寺	
9		天龍寺青磁花唐草文花瓶		一對	陶磁器	中国・元時代 14世紀	相国寺	
10		後小松天皇宸翰 叢林秘事		一巻	紙本墨書	室町時代 14～15世紀	相国寺	
11		後陽成天皇宸翰 相国寺		一幅	紙本墨書	桃山時代 17世紀	相国寺	
12		中維摩居士左右雲龍図	狩野洞春筆	三幅	絹本着色	江戸時代 17世紀	相国寺	
13		仙洞奇進三具足		一揃	金工芸	江戸時代 17世紀	相国寺	
14	国宝	玳瑁散花文天目茶碗	吉州窯	一口	陶磁器	中国・南宋時代 12～13世紀	相国寺	
15	重文	赤染茶碗 加賀	本阿弥光悦作	一口	陶磁器	桃山～江戸時代 17世紀	相国寺	
16		砧青磁茶碗 銘雨龍	龍泉窯	一口	陶磁器	中国・南宋時代 13世紀	鹿苑寺	
17		東山御物 唐物小丸壺茶入 添唐物青貝四方盆		一式	茶入/陶磁器 盆/木工芸	茶入/中国・南宋～元時代 盆/中国・明時代 16～17世紀	慈照寺	
18		座敷飾花の子細伝書(君台観左右帳記)	伝相阿弥筆	一巻	紙本墨書	室町時代 16世紀	慈照寺	
19		柿栗図	牧谿筆	一幅	紙本墨画	中国・南宋時代～元時代 13世紀	相国寺	
第2章 仏教経典のイマジネーション								
20		高麗版大藏経 一切経音義		巻第九十一～ 第一百の一冊	紙本本版	朝鮮時代 天順2年(1458)	相国寺	
21		十六羅漢図		二幅	絹本着色	江戸時代 17世紀	相国寺	前期
22	重文	二十八部衆		二幅	絹本着色	鎌倉時代 14世紀	慈照院	後期
23		釈迦十六尊神像	円山応挙筆	一幅	絹本着色	江戸時代 天明6年(1786)	慈照寺	
24		中出山釈迦左右鳳凰図	狩野安信筆	三幅	絹本着色	江戸時代 17世紀	鹿苑寺	
25		世尊説相図	月光筆	一幅	絹本着色	中国・清時代 17世紀	相国寺	
26		大涅槃図	伝吉山明兆筆	一幅	絹本着色	室町時代 16世紀	鹿苑寺	
27		慈照寺境内図	維明周奎賛 池大雅筆	一幅	紙本淡彩	江戸時代 明和8年(1771)	慈照寺	
28		後西天皇追善 般若心經		一巻	紺紙金泥	江戸時代 貞享2年(1685)	相国寺	
29		九相図	盈冲周整賛 谷口華明筆	一幅	絹本着色	江戸時代 19世紀	慈照寺	
30		鴈饌図	山岡鉄舟賛・筆	一幅	紙本墨画	明治時代 19世紀	鹿苑寺	

番号	指定	作品名	作者等	口数	材質	時代	所蔵	備考・後期
第3章 動物たちが語る禅の心								
31		なかかんの人 ず さんこうず 中観音図 猿猴図	あまのしん ず さんこうず 狩野宗隆 狩野尚信 狩野安信筆	三幅	紙本墨画淡彩	江戸時代 正保2年(1645)	相国寺	
32		ぼんなんこず あねどうり ず 牡丹雛図 粟穂窮図	と きんつとあきひつ 土佐光起筆	二幅	絹本著色	江戸時代 17世紀	相国寺	
33		せれい はと あねがかり ず ぼんじう 鶴鶴 鳩 尾長鳥 鶏図座屏	か のうたん せうりつ 狩野探幽筆	二基	絹本墨画淡彩	江戸時代 慶安元年(1648)	相国寺	片面ずつ 展示
34		ぼんどうし ず 牧牛童子図	てん か のう せうりつ 伝狩野元信筆	一幅	紙本墨画	室町時代 16世紀	慈照寺	
35		ぼん ぎ ほうず 尾見戲帯図	む せん ぎ ほうず 無染淨善賛 伊藤若冲筆	一幅	絹本著色	江戸時代 18世紀	鹿苑寺	
36		ひ(じ)の こず 百丈野狐図	あきの び(じ)の こず 家野独園他賛 鈴木百年筆	一幅	紙本著色	明治36年(1903)	鹿苑寺	
37		じゅうりゅう ず 十牛図	てん じゅうりゅう ず 伝周文筆	一卷	紙本墨画淡彩	室町時代 15世紀	相国寺	
第4章 いのちを描く―若冲と応挙								
38		ぐんけい さい い ず おし ま ぼり ず 群鶏蔬菜図押絵貼屏風	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	六曲一双	紙本墨画	江戸時代 18世紀	相国寺	
39		なかつ ちう ぼん ず 中鶏左右梅図	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	三幅	絹本著色	江戸時代 天明9/寛政元年(1789)	鹿苑寺	
40		ぼん ちう けい ず 牡丹竹合図	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	二幅	絹本著色	江戸時代 18世紀	慈照寺	
41		なけとら ず 竹虎図	けい とう けい さい い ず 梅若源常賛 伊藤若冲筆	二幅	紙本墨画	江戸時代 18世紀	鹿苑寺	
42		ば 蕉 図 芭蕉図	い とう けい さい い ず 梅莊源常賛 伊藤若冲筆	二幅	紙本墨画	江戸時代 18世紀	大光明寺	
43-1	重文	らん 苑 ず だい せん 院 障 壁 画 一 之 間 葡 萄 小 禽 図 床 貼 付 鹿苑寺大書院障壁画 一之間 葡萄小禽図床貼付	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	五十面のうち 十一面	紙本墨画	江戸時代 宝暦9年(1759)	鹿苑寺	
43-2		い ち の ま けい だ こ けい ず 一之間 袈裟小機 (樵夫吹笛図/竹雀図/双雀図/旅僧図)	きん じ り けい だ こ けい ず 住吉如慶筆	四面	紙本墨画淡彩	江戸時代 17世紀	鹿苑寺	
44		まわくし ず 豆狗子図	い とう けい さい い ず 円山応挙筆	一幅	紙本墨画淡彩	江戸時代 18世紀	鹿苑寺	
45		ぼくろ ず 柘榴鷹図	い とう けい さい い ず 円山応挙筆	一幅	紙本墨画	江戸時代 18世紀	鹿苑寺	
46		ぼん ぶん けい ず 蕃菽文鳥図 朝顔図	い とう けい さい い ず 円山応挙筆	二幅	紙本金地著色/ 紙本銀地著色	江戸時代 天明4年(1784)	相国寺	
47		あさぎ けい ず 朝顔狗子図	い とう けい さい い ず 円山応挙筆	一幅	絹本墨画淡彩	江戸時代 18世紀	相国寺	
48		かい さん 堂 杉 戸 絵 芭 蕉 狗 子 図 開山堂杉戸絵 芭蕉狗子図	い とう けい さい い ず 円山応挙・応瑞筆	二面	杉戸絵	江戸時代 寛政2年(1790)	相国寺	
第5章 仏法を守護する瑞獣たち								
49		ついでしりょうこう けい さい まう せう ぼん 堆朱龍紅花緑葉四方盆	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	一口	木工芸	中国・明時代 16世紀	鹿苑寺	
50		りゅう 図 龍図	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	一幅	紙本墨画	江戸時代 18世紀	大光明寺	
51		りゅう けい ず 龍虎図屏風	は ち 谷 川 宗 也 筆 長谷川宗也筆	六曲一雙	紙本墨画	江戸時代 17世紀	相国寺	前期
52		はく せう けい ず 白象唐子図屏風	は ち 谷 川 宗 也 筆 長沢芦雪筆	六曲一雙	紙本銀地著色	江戸時代 18世紀	鹿苑寺	
53		しし けい ず 獅子図屏風	は ち 谷 川 宗 也 筆 長沢芦雪筆	六曲一雙	紙本墨画	江戸時代 18世紀	相国寺	後期
54		なかもん じし けい ず 中文殊菩薩左右龍虎図	あ の う ち の けい ず 狩野安信筆	三幅	絹本墨画	江戸時代 17世紀	相国寺	
55	重文	きく けい ず 菊花双雀文鏡	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	一面	金工芸	鎌倉時代 13~14世紀	相国寺	
56		ずい けい ず 瑞花双鷺文八棱鏡	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	一面	金工芸	平安時代 12世紀	相国寺	
第6章 黄金の鳳凰								
57		めい けい ず 妙音并財天像	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	一幅	絹本著色	室町時代 15世紀	大光明寺	
58		きん 閣 寺 遊 楽 図 屏 風 金閣寺遊楽図屏風	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	六曲一隻	紙本著色	江戸時代 17世紀	鹿苑寺	
59		らん 苑 寺 舎 利 殿 模 型 鹿苑寺舍利殿模型	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	一基	木工芸	昭和35~36年(1960~61)頃	相国寺	
60		ひ(じ) ず 百鳥図	てん へん じん しん けい ず 伝辺文進筆	一幅	絹本著色	中国・明時代 15世紀	鹿苑寺	
61		ほう 鳳 図 鳳凰図	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	一幅	紙本墨画	江戸時代 18世紀	相国寺	
62		じし けい ず 慈照寺境内図	けい とう けい さい い ず 梅莊源常賛 原在中筆	一幅	紙本墨画淡彩	江戸時代 寛政4年(1792)	慈照寺	
63		つき 次 風 俗 図 押 絵 貼 屏 風 月次風俗図押絵貼屏風	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	六曲一雙	紙本著色	江戸時代 17世紀	相国寺	半双ずつ 展示
64		ほう 鳳 図 鳳凰図	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	一基	銅製	室町時代 15世紀	鹿苑寺	
65		きん 世 音 菩 薩 像 観世音菩薩像	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	一軀	木造	室町時代 14~15世紀	鹿苑寺	
66		しやう 利 殿 三 層 後 小 松 天 皇 勅 額 舍利殿三層 後小松天皇勅額	い とう けい さい い ず 伊藤若冲筆	一枚	木造	室町時代 15世紀	鹿苑寺	
67		あや 夜 桜 扇 面 時 絵 書 棚 闇夜桜扇面時絵書棚	し ば 田 是 真 筆 柴田是真筆	一口	木工芸	明治22年(1889)	鹿苑寺	
68		たき 桜 小 禽 図 滝桜小禽図	し ば 田 是 真 筆 柴田是真筆	一幅	絹本著色	明治16年(1883)	鹿苑寺	

イワタルリ展

Iwata Ruri Exhibition 息づくガラス

12.13 (Sat) → 02.15 (Sun)

北海道立近代美術館

HOKKAIDO MUSEUM OF MODERN ART
〒060-0001 札幌市中央区北1条西17丁目 TEL. 011-644-6882
<https://artmuseum.pref.hokkaido.lg.jp/knb>
● @dokinbi ● @dokinbi



イワタルリは、日本を代表するガラス作家の一人です。キャスト（ casting ）による大型の立体作品と、宙吹きによる透明感や色彩あふれる工芸作品。創作の両面からイワタ芸術の造形世界を紹介します。

No.	作家名	作品名	制作年	材質：技法	寸法（cm）
R-1	イワタ ルリ	No.220402	2022	ガラス、鉄：キャスト	122.4×122.3×31.0
R-2	イワタ ルリ	大皿	1995	ガラス：宙吹き	42.0 × 50.2 × 5.2
R-3	イワタ ルリ	花器	2010	ガラス：宙吹き	24.4 × 24.5 × 25.8
R-4	イワタ ルリ	花器	2006	ガラス：宙吹き	20.2×40.3
R-5	イワタ ルリ	花器	1995	ガラス：宙吹き	18.2 × 19.2 × 14.2
R-6	イワタ ルリ	花器	1995	ガラス：宙吹き	20.2 × 23.5 × 50.0
R-7	イワタ ルリ	花器	1984	ガラス：宙吹き	15.5×15.5×53.0
R-8	イワタ ルリ	花器	2011	ガラス：宙吹き	23.5 × 25.0 × 46.5
R-9	イワタ ルリ	鉢	1991	ガラス：宙吹き	29.5 × 29.0 × 20.0
R-10	イワタ ルリ	花器	2016	ガラス：宙吹き	19.0 × 19.6 × 13.0
R-11	イワタ ルリ	鉢	1999	ガラス：宙吹き	24.0 × 22.4 × 11.6
R-12	イワタ ルリ	花器	1998	ガラス：宙吹き	18.3 × 18.5 × 26.5
R-13	イワタ ルリ	花器	1998	ガラス：宙吹き	16.4 × 18.0 × 22.2
R-14	イワタ ルリ	鉢	1998	ガラス：宙吹き	27.0 × 28.5 × 13.2
R-15	イワタ ルリ	鉢	2017	ガラス：宙吹き	20.0 × 20.5 × 10.2
R-16	イワタ ルリ	花器	1991	ガラス：宙吹き	15.5 × 17.0 × 26.0
R-17	イワタ ルリ	鉢	1991	ガラス：縄積み	21.0 × 21.5 × 11.5
R-18	イワタ ルリ	瓶	1988	ガラス：宙吹き	19.5 × 18.2 × 25.4
R-19	イワタ ルリ	瓶	1988	ガラス：宙吹き	15.8 × 16.5 × 29.7
R-20	イワタ ルリ	花器	1995	ガラス：宙吹き	10.0 × 10.3 × 45.5
R-21	イワタ ルリ	No.251213-2	2025	ガラス：キャスト	80.0×80.0×61.0
R-22	イワタ ルリ	No.251213-3	2025	ガラス：キャスト	80.0×80.0×61.0
R-23	イワタ ルリ	No.251213-1	2025	ガラス：キャスト	80.0×80.0×110.0

* いずれも作家蔵。

No.	作家名	作品名	制作年	材質：技法	寸法 (cm)
T-1	岩田 藤七	トンボ玉風水指	—	ガラス：宙吹き	18.3×13.0
T-2	岩田 藤七	茶碗・玄影	—	ガラス：宙吹き	12.0×9.0
T-3	岩田 藤七	花器	1977	ガラス：宙吹き	14.5×20.0
T-4	岩田 藤七	色替舟虫手花器	1935	ガラス：宙吹き、ホットワークによる装飾	14.4×19.2×25.0
T-5	岩田 藤七	金一輪挿	—	ガラス：宙吹き	11.1×25.3
T-6	岩田 藤七	大鉢	1935	ガラス：宙吹き	37.3×11.3
T-7	岩田 藤七	花器・宵	1945	ガラス：宙吹き、金属箔封入	20.8×20.0
T-8	岩田 藤七	硝子鉢	1939 頃	ガラス：宙吹き、斑文装飾	28.0×13.0
T-9	岩田 藤七	水指・寝屋	1971	ガラス：型吹き	16.5×16.5×18.5
T-10	岩田 藤七	花器・朝の歌	1962	ガラス：宙吹き、アププリケ	18.0×37.0
T-11	岩田 藤七	花器	1966 頃	ガラス：宙吹き	10.2×29.6×37.5
T-12	岩田 藤七	貝	1962	ガラス：宙吹き	26.0×27.5×18.5
T-13	岩田 藤七	貝・嵐のあした	1976	ガラス：宙吹き	21.0×29.0×10.0
H-1	岩田 久利	花器	1988	ガラス：宙吹き	29.5×31.0
H-2	岩田 久利	花器	1987	ガラス：宙吹き	11.5×28.0×42.0
H-3	岩田 久利	花器	1991	ガラス：宙吹き	25.5×36.0
H-4	岩田 久利	花器	1987	ガラス：宙吹き	10.5×19.0×37.0
H-5	岩田 久利	三彩盛鉢	1993	ガラス：宙吹き	27.0×32.0×20.0
H-6	岩田 久利	鉢・輪違い	1977	ガラス：宙吹き、アププリケ	36.3×23.7
H-7	岩田 久利	花器・楼蘭	1980	ガラス：色ガラス粒と金箔による装飾、宙吹き	21.5×29.5
H-8	岩田 久利	水指・道成寺	1982	ガラス：宙吹き、色ガラス粉と金箔による装飾	14.0×17.5
H-9	岩田 久利	瑠璃百乳文高坏	1977	ガラス：宙吹き	26.5×50.0
H-10	岩田 久利	花器	1991	ガラス：宙吹き	15.6×35.5×51.6
I-1	岩田 糸子	花器	1992	ガラス：宙吹き	37.0×32.0×26.0
I-2	岩田 糸子	ガラス飾皿	1984	ガラス：宙吹き	49.0×49.0×5.6
I-3	岩田 糸子	躍ぶ	1986	ガラス：宙吹き	23.0×72.5、 25.0×69.5、 23.0×56.0（3点組）

* いずれも北海道立近代美術館蔵。* 寸法は奥行×幅×高さ、または径×高さ。

2-B-3 美術作品の貸出

番号	貸出先（会場名）	展覧会名	点数
1	本郷新記念札幌彫刻美術館	没後50年 山内壮夫展	7点（山内壮夫《ソンミの慟哭Ⅰ》他）
2	東京ステーションギャラリー、名古屋市美術館、茨城県近代美術館、札幌芸術の森美術館	藤田嗣治 絵画と写真	1点（藤田嗣治《家族の肖像》）
3	北海道立三岸好太郎美術館	三岸節子生誕120年 永遠のオマージュ 好太郎と節子	2点（三岸節子《摩周湖》他）
4	木田金次郎美術館	木田金次郎と昭和の暮らし	10点（木田金次郎《漁村の夕》他）
5	北海道庁舎内知事室等	知事室及び知事公館での展示	6点（有馬さとえ《向夏》他）
6	札幌芸術の森美術館	札幌美術展 下沢敏也 origin—土の命脈	1点（下沢敏也《Re-birth「痕跡」》）
7	富山市ガラス美術館	開館10周年記念：めぐりあう今を映す—日本の現代ガラス 1975-2025	5点（扇田克也《アメノヒモアル》他）
8	北海道立三岸好太郎美術館	ふたりの『悪童』—美術史家・外山卯三郎と好太郎	11点（有島武郎《やちだもの木立》他）
9	あべのハルカス美術館、千葉市美術館、埼玉県立近代美術館	密やかな美 小村雪岱のすべて	12点（小村雪岱《十二ヶ月連幅 七月（七夕）》他）
10	富山市ガラス美術館	Noctis：影と光のガラスアート	34点（イヴァン・マレシュ《悪夢Ⅰ》他）

※ 館外貸出しは、貸出先からの申請等に基づき、近代美術館施設外で所蔵作品を展示したものをいう。

計89点

2-C 教育普及活動

2-C-1 教育普及活動一覧

① 展覧会関連事業

展覧会ほか	タイトル・内容ほか	日時	会場	講師名ほか	人数	内訳ほか
ウィズ・キッズ '25 めでたいな！幸せねがう日本の絵 3月29日(土)～7月6日(日)	「絵巻物にふれてみよう！」	5月17日(土) ①11:00-11:40 ②14:30-15:10 6月14日(土) ③11:00-11:40 ④13:30-14:10 ⑤14:30-15:10	造形室	講師：村山美波(当館学芸員)、熊谷麻美(当館学芸員)、園部容子(当館リサーチ推進課長)	25	①8 ②7 ③4 ④4 ⑤2 ※大人含む
金閣・銀閣 相国寺展 若冲・応挙・芦雪-禅文化の名宝と美 7月19日(土)～9日7日(日)	椅子坐禅会	7月19日(土) ①11:00-12:00 ②13:00-14:00	映像室	導師(僧侶)：佐分昭文(慈照寺執事)、山崎浩宣(明覚寺住職)	39	①19 ②20
	見どころ解説	①8月2日(土) 14:00-14:30 ②8月9日(土) 14:00-14:30 ③8月23日(土) 14:00-14:30 ④9月6日(土) 14:00-14:30	講堂	講師： ①大石智子(当館臨時学芸員) ②光岡幸治(当館上席専門員) ③土岐美由紀(当館主任学芸員) ④河本真夕(当館学芸員)	648	①143 ②126 ③185 ④194
	講演会「相国寺の年中行事と寺宝」	8月13日(水) 14:00-15:30	講堂	講師：本多潤子(相国寺承天閣美術館学芸員)	200	
ウィズ・キッズ '25 赤・青・白 杉山留美子さんの部屋 7月19日(土)～11月24日(月・祝)	キッズ・ツアー	①9月6日(土) 11:00-11:15(未就学児の部) ②9月6日(土) 13:30-13:45(小学生の部) ③10月4日(土) 11:00-11:15(未就学児の部) ④10月4日(土) 13:30-13:45(小学生の部) ⑤11月3日(月・祝) 11:00-11:15(未就学児の部) ⑥11月3日(月・祝) 13:30-13:45(小学生の部)	展示室A 1F	案内： ①熊谷麻美(当館学芸員) ②熊谷麻美(当館学芸員) ③園部容子(当館リサーチ推進課長) ④園部容子(当館リサーチ推進課長) ⑤熊谷麻美(当館学芸員) ⑥熊谷麻美(当館学芸員)	17	①0 ②0 ③3 ④2 ⑤4 ⑥8
	おしゃべりデイ	①7月26日(土) ②8月3日(日) ③8月23日(土) ④9月6日(土) ⑤9月20日(土) ⑥10月4日(土) ⑦10月18日(土) ⑧11月3日(月・祝) ⑨11月22日(土)	展示室A	—	—	「ウィズ・キッズ '25 赤・青・白 杉山留美子さんの部屋」展と展示室Aで同時開催の近美コレクション全体で実施
青木美歌《未生命の遊槽》 令和7年3月29日(土)～令和8年4月12日(日)	札幌国際芸術祭×北海道立近代美術館 トークイベント「青木美歌《未生命の遊槽》をめぐって ガラスに宿る、生命の気配」	8月30日(土) 13:30-15:00	講堂	登壇者：柿崎均(ガラス作家)、藤原乃里子(当館企画推進課長) 司会：細川麻沙美(SIAF2027フェスティバルディレクター)	193	
イワタルリ展 息づくガラス 12月13日(土)～2月15日(日)	対談「姉妹で語る 岩田家ストーリー」	12月13日(土) 10:30-12:00	展示室B	講師：イワタルリ(出品作家)、岩田マリ(レリ氏令妹)	46	
	学芸員による見どころ解説	①1月10日(土) 14:00-14:30 ②1月17日(土) 14:00-14:30 ③1月24日(土) 14:00-14:30 ④1月31日(土) 14:00-14:30	講堂	講師： ①園部容子(当館リサーチ推進課長) ②園部容子(当館リサーチ推進課長) ③園部容子(当館リサーチ推進課長) ④久米淳之(当館上席専門員)	76	①20 ②19 ③16 ④21
おはなし美術 12月13日(土)～4月12日(日)	「ふれてたのしむ 絵巻物」	①1月28日(水) 10:30-11:30 ②2月8日(日) 13:30-14:30	展示室A 1F、造形室	講師：熊谷麻美(当館学芸員)、藤原乃里子(当館企画推進課長)、村山美波(当館学芸員)	5	①3 ②2

②解説活動

事業名等	タイトル・内容等	日時	会場	講師名ほか	人数	内訳ほか
学芸員によるミュージアム・トーク	「ジョルジュ・ルオー《ミセレーレ》が放つ光」	4月13日(日) 14:00-14:30	展示室A 1F	講師: 久米淳之(当館上席専門員)	325	22
	「深井克美の軌跡―《オリオン》と《風》」	4月20日(日) 14:00-14:30	展示室A 2F	講師: 菌部容子(当館リサーチ推進課長)		15
	「「芸術家の本」と20世紀美術の巨匠たち」	5月4日(日) 14:00-14:30	展示室A 1F	講師: 河本真夕(当館学芸員)		25
	「ジョルジュ・ルオー《ミセレーレ》が放つ光」	5月11日(日) 14:00-14:30	展示室A 1F	講師: 久米淳之(当館上席専門員)		11
	「深井克美の軌跡―《オリオン》と《風》」	5月18日(日) 14:00-14:30	展示室A 2F	講師: 菌部容子(当館リサーチ推進課長)		10
	「ここがめでたい！日本の絵」	6月8日(日) 14:00-14:30	展示室A 1F	講師: 村山美波(当館学芸員)		4
	「装飾美術家ルネ・ラリックの精華」	6月22日(日) 14:00-14:30	展示室A 2F	講師: 大石智子(当館臨時学芸員)		7
	「蠣崎波響―絵師、そして家老としての足跡」	6月29日(日) 14:00-14:30	展示室A 1F	講師: 光岡幸治(当館上席専門員)		7
	「アンリ・マティスと挿絵本」	7月6日(日) 14:00-14:30	展示室A 1F	講師: 藤原乃里子(当館企画推進課長)		30
	「杉山留美子の歩みと制作」	8月10日(日) 14:00-14:30	展示室A 1F	講師: 熊谷麻美(当館学芸員)		13
	「グループ「TODAY」の活動と作品―国際美術展を作り上げた作家たち」	8月31日(日) 14:00-14:30	展示室A 1F	講師: 村山美波(当館学芸員)		12
	「スウェーデンのガラス―その歴史と魅力」	9月7日(日) 14:00-14:30	展示室A 2F	講師: 佐藤由美加(当館学芸部長兼学芸統括官)		20
	「青木美歌《未生命の遊槽》をめぐって」	9月14日(日) 14:00-14:30	展示室A 2F	講師: 藤原乃里子(当館企画推進課長)		21
	「グループ「TODAY」の活動と作品―国際美術展を作り上げた作家たち」	10月12日(日) 14:00-14:30	展示室A 1F	講師: 村山美波(当館学芸員)		4
	「青木美歌《未生命の遊槽》をめぐって」	10月26日(日) 14:00-14:30	展示室A 2F	講師: 藤原乃里子(当館企画推進課長)		8
	「洞爺湖の彫刻をめぐって」	11月9日(日) 14:00-14:30	展示室A 2F	講師: 久米淳之(当館上席専門員)		13
	「この1点を見てほしい。本郷新《嵐の中の母子像》」	11月16日(日) 14:00-14:30	映像室	講師: 河本真夕(当館学芸員)		14
	「この1点を見てほしい。池田良二《アントニ・タビエス氏に捧げる Varanasi》」	12月21日(日) 14:00-14:30	展示室A 2F	講師: 村山美波(当館学芸員)		7
	「浮世絵と言葉遊びのたのしみ―歌川国芳《妙でんす十六利勘》、歌川国貞《一步線香即席噺》を中心に」	1月18日(日) 14:00-14:30	展示室A 1F	講師: 藤原乃里子(当館企画推進課長)		15
	「福沢一郎の画業―戦前から戦後へ」	1月25日(日) 14:00-14:30	展示室A 1F	講師: 光岡幸治(当館上席専門員)		8
	「この1点を見てほしい。池田良二《アントニ・タビエス氏に捧げる Varanasi》」	2月1日(日) 14:00-14:30	展示室A 2F	講師: 村山美波(当館学芸員)		10
	「カラー・オブ・ガラス―ガレの探求を中心に」	2月15日(日) 14:00-14:30	展示室A 2F	講師: 土岐美由紀(当館主任学芸員)		12
	「橋本雅邦<十牛図>を読む」	3月8日(日) 14:00-14:30	展示室A 1F	講師: 熊谷麻美(当館学芸員)		19
	「解剖！「おはなし美術」の魅力」	3月29日(日) 14:00-14:30	ホール	講師: 藤原乃里子(当館企画推進課長)		18

③その他の教育普及事業

事業名ほか	タイトル・内容ほか	日時	会場	講師名ほか	人数	内訳ほか
電子ガイド	スマートフォンのアプリ「ポケット学芸員」を通じて、野外彫刻や当館及び三岸好太郎美術館の展示作品について文字と音声による電子版のガイドを公開し、両館の所在するエリア帯の魅力向上と作品鑑賞の促進を図った。	12月5日(金)～	北海道立近代美術館、三岸好太郎美術館、知事公館	執筆：当館学芸員及び三岸好太郎美術館学芸員 音声：北海道札幌東陵高等学校放送局 コンテンツ： ①新宮晋《風の対話》 ②山内壮夫《子を守る母たち》 ③飯田善国《時間の風景》 ④安田侃《無何有》 ⑤三岸好太郎《檸檬持てる少女》 ⑥三岸好太郎《花ト蝶》 ⑦三岸好太郎《花》 ⑧三岸好太郎《花を持つ少女》 ⑨流政之《サキモリ》	-	
アートギャラリー北海道～みんなのアートプロジェクト 夏休み こどもワークショップ2025 ※(公財)日本教育公務員弘済会北海道支部 共催事業	「染めて見つける『あいだの色』」	8月3日(日) 13:30-16:00	展示室A 1F、造形室、前庭	講師：笠見康大(画家／北海道文教大学人間科学部こども発達学科准教授)	25	
北海道リモート・ミュージアム	展覧会やコレクション等を学芸員が紹介・解説する動画をWEB配信	①配信日：1月29日(木) ②配信日：3月19日(木)	WEB配信(Youtube)	コンテンツ／解説／編集： ①「1945-2025 美術は何を記憶しているか」／村山美波(当館学芸員)／熊谷麻美(当館学芸員) ②「イワタリ展」／蘭部容子(当館リサーチ推進課長)／熊谷麻美(当館学芸員)	-	

④学校教育との連携・協力事業

事業名ほか	タイトル・内容ほか	日時	会場	講師名ほか	人数	内訳ほか
オンラインアート教室	遠隔地の学校を対象に、オンラインで当館及び三岸好太郎美術館の収蔵作品の鑑賞と解説を行った。	①8月26日(火) 16:00-17:00 北海道静内高等学校 ②8月27日(水) 15:30-16:20 北海道白樺高等養護学校 ③9月17日(水) 10:45-11:30 枝幸町立枝幸南中学校 ④10月17日(木) 10:45-11:30 北海道札幌伏見支援学校もなみ学園分校 ⑤10月24日(金) 9:40-10:30 北海道清水高等学校 ⑥11月12日(水) 10:20-11:10 北海道余市養護学校 ⑦11月20日(木) 9:50-10:35 北海道余市養護学校しりべし学園分校 ⑧12月16日(水) 10:40-11:25, 11:30-12:15 札幌市立豊園小学校 ⑨12月17日(水) 9:50-10:35 札幌市立白石小学校	収蔵庫前室及び三岸好太郎美術館展示室	解説： ①福地大輔(三岸好太郎美術館主任学芸員) ②熊谷麻美(当館学芸員) ③久米淳之(当館上席専門員) ④村山美波(当館学芸員) ⑤福地大輔(三岸好太郎美術館主任学芸員) ⑥光岡幸治(当館上席専門員) ⑦井内佳津恵(三岸好太郎美術館上席専門員) ⑧河本真タ(当館学芸員)、村山美波(当館学芸員) ⑨熊谷麻美(当館学芸員)	160	①8 ②12 ③9 ④32 ⑤11 ⑥3 ⑦9 ⑧15 ⑨61 小：2校(3件) 中：1校(1件) 高：2校(2件) 特支：4校(4件)
博物館実習(館園実習)	学芸員資格取得課程を開講している大学からの依頼により、7日間のカリキュラムで美術館における実務実習を受け入れた。	8月20日(水)～8月28日(木) 10:00-17:00	映像室、展示室、収蔵庫ほか	対応：当館職員、北海道美術館協力会ボランティア	7	
博物館実習(見学実習)	学芸員資格取得課程を開講している大学からの依頼により、美術館の見学実習を受け入れた。	①5月30日(金)北海道大学 ②10月30日(木)東海大学 ③10月31日(金)北海道大学 ④1月24日(土)札幌大学	展示室、収蔵庫ほか	対応：当館学芸員	94	①52 ②8 ③4 ④30
北海道立近代美術館学芸員インターンシップ(実務研修)の受け入れ	美術館学芸員を志す者を対象に、専門知識を深め今後の美術館活動を担う人材となってもらうために、学芸員業務に関わる実務研修生を受け入れた。	6月4日(水)～9月17日(水)	館内各室	対応：当館職員	1	
職場体験等の受け入れ	学校からの依頼により、職場体験学習として美術館での業務を希望する生徒を受け入れた。	10月9日(木)～10月10日(金) 星槎国際高等学校	造形室、展示室、図書資料室ほか	対応：当館学芸員	1	
自主研修等の受け入れ	修学旅行や研修旅行、総合的な学習の時間などの一環として当館を訪問する児童・生徒に対して、美術館活動の説明や質問への回答、施設見学などを行った。	①5月9日(金) 北海道苫小牧南高等学校 ②5月21日(水) 小樽市立菁園中学校 ③5月28日(水) 小樽市立銭函中学校 ④5月30日(金) 札幌市立常磐中学校 ⑤6月6日(金) 岩見沢市立東光中学校 ⑥6月11日(水) 札幌市立八条中学校 ⑦6月13日(金) 札幌市立北白石中学校 ⑧6月24日(火) 恵庭市立柏陽中学校 ⑨6月25日(水) 市立札幌清田高等学校 ⑩6月26日(木) 平取市立平取小学校	映像室、造形室、展示室ほか	対応：当館学芸員、北海道美術館協力会ボランティア解説部	113	①3 ②7 ③7 ④15 ⑤5 ⑥6 ⑦49 ⑧11 ⑨4 ⑩6

2-C-2 資料・情報関係

特別観覧・情報資料

(1) 特別観覧

当館所蔵の作品や写真資料等について、印刷物掲載やインターネット上の公開等を目的にした撮影や写真又は画像データの借用希望等、並びに研究目的の熟覧希望等に対し、特別観覧として対応した。

(令和8年3月31日現在。単位は件)

	撮影	模写	熟覧	写真原板 使用	デジタル データ	掲載承諾	合計
研究	6		8		1		15
展示					3	1	4
出版				1	19	4	24
放送					3	1	4
上映					3		3
配信					1		1
合計	6	0	8	1	30	6	51

(うち重複8件)

(2) ウェブサイト

ホームページにおける情報提供を行った。

令和7年度のアクセス件数（令和8年3月31日現在） : 755,839件

開設（平成11年4月）以来のアクセス件数 : 8,711,560件

(3) 所蔵作品データ公開

Web上で令和4年1月7日よりサムネイル画像及び基本データ（作家名、作品名、制作年等）を検索可能なデータベースとして公開。

（現時点で令和6年度末までの全収蔵作6,082点を公開）

(4) ソーシャルメディア

ソーシャルメディア（X及びフェイスブック）を活用して、逐次的な情報提供と広報活動に取り組んだ。

Xへの投稿数 : 142回

Xのフォロワー数（定期通知者数） 令和8年3月31日現在 : 16,500名

フェイスブックへの投稿数 : 146回

フェイスブックのフォロワー数（定期通知者数） 令和8年3月31日現在 : 6,931名

(5) その他

全国美術館収蔵品サーチ「SHUZO」や北海道デジタルミュージアム、J-STAGEで所蔵品データや『紀要』掲載論文等の情報公開を行った。

刊行物

令和8年3月31日現在

種別	刊行物名	出版時期	備考
年報	令和6年度 北海道立近代美術館年報	令和7年9月	編集・発行：北海道立近代美術館 ※電子出版
図録	イワタルリ展 息づくガラス	令和8年1月	編集：北海道立近代美術館 発行：中西出版株式会社 ※電子出版も実施
紀要	北海道立美術館・芸術館紀要 第35号 2026	令和8年3月	編集・発行：北海道立近代美術館ほか

2-D 調査研究

学芸員の調査研究活動

当館は、地域の研究機関としての役割を果たし、美術に関する総合的な調査・研究を行って、その成果を展覧会や普及事業、教育支援等、広く美術館活動に反映させるとともに地域社会に還元している。

とくにコレクションの柱である北海道の美術、ガラス、エコール・ド・パリ関係については重点的に調査研究を推進するよう努めているほか、各学芸員はそれぞれコレクションの各分野、所蔵品特別研究、展覧会（特別展・コレクション展・その他プロジェクト）、教育支援、美術館学、地域文化振興等を担当して関連する調査研究、また個別的研究課題や重点分野に関して継続的な調査研究を行っている。

本項には、各員ごとの担当および研究成果等を記した（なお、コレクション分野のうち、北海道の美術、ガラス、エコール・ド・パリについては、担当者以外にも全員が調査研究対象とすることとしている）。

○大石智子（臨時学芸員）

【担当分野（コレクション）】

- ・日本画
- ・ガラス
- ・工芸（陶磁・染織）

【担当展覧会】

- ・金閣・銀閣 相国寺展 若冲・応挙・芦雪 一禅文化の名宝と美
- ・イワタルリ展

【教育支援・美術館学】

- ・美術館教育、鑑賞教育、利用者支援
- ・博物館学・美術館学、アート・マネージメント

【地域文化の振興】

- ・地域の美術活動の現況調査
- ・外部機関・組織との相互協力・研究支援等

【重点研究分野・個別研究課題・継続的テーマ等】

- ・近代日本美術
- ・ガラス工芸
- ・美術作品の情報管理

【研究成果・発表活動】

<講演・講座・トーク等>

- ・[講話]「装飾美術家ルネ・ラリックの精華」(令和7/6/22 近美コレクション・ミュージアム・トーク)
- ・[講話]「金閣・銀閣 相国寺展」見どころ解説(令和7/8/2)

<展示>

- ・金閣・銀閣 相国寺展 展示構成、解説執筆・編集
- ・イワタルリ展 展示、略歴・解説執筆

○河本真夕（学芸員）

【担当分野（コレクション）】

- ・油彩
- ・版画
- ・彫刻
- ・エコール・ド・パリ

【担当展覧会】

- ・リーヴル・ダルティスト 一芸術になった本 ルオー、ダヴィッド、マティス、シャガール（近美コレクション）
- ・この1点を見てほしい。本郷新《嵐の中の母子像》（近美コレクション）
- ・金閣・銀閣 相国寺展 若冲・応挙・芦雪 一禅文化の名宝と美

【教育支援・美術館学】

- ・美術館教育、鑑賞教育、学校連携
- ・博物館学・美術館学、保存修復

【地域文化の振興】

- ・地域の美術活動の現況調査

・外部機関・組織との相互協力・研究支援等

【重点研究分野・個別研究課題・継続的テーマ等】

- ・北海道の美術
- ・エコール・ド・パリ
- ・近代日本のキリスト教美術
- ・ナバレーテ・エル・ムード

【研究成果・発表活動】

<講演・講座・トーク等>

- ・[講話]「『芸術家の本』と20世紀美術の巨匠たち」(令和7/3/29, 5/4 近美コレクション・ミュージアム・トーク)
- ・[講座]「コレクション展の企画運営」(令和7/5/14 新任学芸員等専門研修)
- ・[講座]「スペイン宮廷とティツィアーノ ハプスブルク家の美術パトロネージ」(令和7/8/7 北海道美術館協会の美術講座2025)
- ・[講話]「金閣・銀閣 相国寺展」見どころ解説(令和7/9/6)
- ・[講話]「この1点を見てほしい。本郷新《嵐の中の母子像》」(令和7/11/16 近美コレクション・ミュージアム・トーク)

<執筆・発表>

- ・表紙解説「アンドレ・ドラン《パンタグリユエル挿画集 パンタグリユエル》」『第669回札幌交響楽団定期演奏会プログラム』(令和8/5/31, 6/1)
- ・作品解説「この1点を見てほしい。本郷新《嵐の中の母子像》」(令和7/7)
- ・作品解説「山内壮夫《子を守る母たち》」電子ガイド「ポケット学芸員」(令和7/11)
- ・論文「ナバレーテ・エル・ムード批評史ー「スペインのティツィアーノ」としての画家像の形成について」『美術史論集』神戸大学美術史研究室、第26号(令和8/2)

<展示>

- ・リーヴル・ダルティストー芸術になった本 ルオー、ダヴィッド、マティス、シャガール 展示構成、解説執筆
- ・この1点を見てほしい。本郷新《嵐の中の母子像》 解説執筆
- ・金閣・銀閣 相国寺展 展示、解説編集・執筆

<教育支援>

- ・オンラインアート教室「チカチカ？ ゆらゆら？ 目の錯覚を生むアート」(令和7/12/16 札幌市立豊園小学校)

<調査活動>

- ・本郷新関連資料調査(札幌)
- ・令和8年度九州国立博物館IPM研修受講(福岡)
- ・マルク・シャガール作家作品調査(東京、栃木、高知)
- ・日本の近代キリスト教美術に関する展覧会調査(岡山)
- ・リニューアルに関する施設調査(白老)、什器調査

<社会貢献活動>

- ・「BOOK MARK 展 vol.6 つくりてのバイブル『画集/作品集』」書籍推薦者(令和7/7/6-7/15 主催：札幌駅前通まちづくり株式会社、共同企画：一般社団法人PROJECTA、会場：眺望ギャラリー「テラス計画」)

○熊谷麻美(学芸員)

【担当分野(コレクション)】

- ・日本画
- ・版画
- ・浮世絵
- ・陶磁・染織

【担当展覧会】

- ・ウィズ・キッズ '25 赤・青・白 杉山留美子さんの部屋(近美コレクション)
- ・おはなし美術(近美コレクション)

【教育支援・美術館学】

- ・美術館教育、鑑賞教育、利用者支援
- ・道内の学校との連携
- ・社会包摂、アクセシビリティ向上

【地域文化の振興】

- ・地域の美術活動の現況調査
- ・外部機関・組織との相互協力・研究支援等

【重点研究分野・個別研究課題・継続的テーマ等】

- ・北海道の美術
- ・北海道の仏教美術史
- ・学校等の外部機関と連携した教育プログラムの開発・実施

【研究成果・発表活動】

＜講演・講座・トーク等＞

- ・[講話]「一次資料と二次資料」(令和7/5/21 北海道美術館協力会ボランティア専門研修)
- ・[講座]「阿弥陀如来とその美術」(令和7/6/12 北海道美術館協力会美術講座2025)
- ・[講話]「杉山留美子の歩みと制作」(令和7/8/10 近美コレクション・ミュージアム・トーク)
- ・[講座]『ウィズ・キッズ '25 赤・青・白 杉山留美子さんの部屋』展 見学・展示解説」(令和7/8/26 博物館実習講義)
- ・[講話]「資料の収集と保存」(令和7/10/8 北海道美術館協力会ボランティア専門研修)
- ・[講話]「文化財から見つめる等澗院」(令和7/10/17 様似町アポイカレッジ)
- ・[講話]「橋本雅邦〈十牛図〉を読む(UD トーク付)」(令和8/3/8 近美コレクション・ミュージアム・トーク)

＜執筆・発表＞

- ・作品解説「飯田善国《時間の風景》」電子ガイド「ポケット学芸員」(令和7/11)
- ・論文「如来像に具わる肉髻珠について」『論集 東洋美術交渉』(令和8/3)

＜展示＞

- ・ウィズ・キッズ '25 赤・青・白 杉山留美子さんの部屋 展示構成・解説執筆
- ・おはなし美術 作家作品解説(浮世絵以外の日本画)執筆

＜教育支援＞

- ・ワークショップ「絵巻物にふれてみよう！」(令和7/5/17, 6/14 ウィズ・キッズ '25 めでたいな！幸せねがう日本の絵 関連事業)
- ・岩見沢市立岩見沢小学校との「栗谷川学」連携授業(令和7/6/11)
- ・ワークショップ「染めて見つける『あいだの色』」(令和7/8/3 アートギャラリー北海道～みんなのアートプロジェクト 夏休みワークショップ2025)
- ・オンラインアート教室「浮世絵を、クローズアップ！」(令和7/8/27 北海道白樺高等養護学校)
- ・キッズ・ツアー(令和7/11/3 ウィズ・キッズ '25 赤・青・白 杉山留美子さんの部屋 関連事業)
- ・北海道造形教育連盟ミュージアム部会との連携授業(令和7/11/4, 11/10)
- ・オンラインアート教室「動物たちのもふもふ」(令和7/12/17 札幌市立白石小学校)
- ・札幌市立二条小学校との連携授業(令和7/12/18, 12/19, 12/24)
- ・「ふれてたのしむ 絵巻物」(令和8/1/28, 2/8 おはなし美術 ワークショップ)
- ・北海道リモート・ミュージアム「1945-2025 美術は何を記憶しているか」(令和8/1/29)
- ・北海道白樺高等養護学校との連携授業(令和8/2/18)
- ・北海道リモート・ミュージアム「イワタルリ展 息づくガラス」(令和8/3/19)

＜調査活動＞

- ・北海道の障害者アート調査
- ・古美術の取扱に関する研修受講
- ・「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」(オンライン)受講

＜社会貢献活動＞

- ・第40回全道中学生の税をテーマとしたポスター募集 審査員

○久米淳之(上席専門員)

【担当分野(コレクション)】

- ・彫刻
- ・現代美術
- ・映像・写真

【担当展覧会】

- ・リーヴル・ダルティスト ―芸術になった本 ルオー、ダヴィッド、マティス、シャガール(近美コレクション)
- ・アートギャラリー北海道 手のひらの宇宙 ―洞爺湖芸術館コレクション展
- ・イワタルリ展

【教育支援・美術館学】

- ・美術館教育、鑑賞教育、利用者支援
- ・博物館学・美術館学、アート・マネージメント

【地域文化の振興】

- ・地域の美術活動の現況調査
- ・外部機関・組織との相互協力・研究支援等

【重点研究分野・個別研究課題・継続的テーマ等】

- ・近代美術
- ・彫刻
- ・北海道の美術
- ・安田侃(作家作品研究)
- ・北海道の彫刻庭園調査

【研究成果・発表活動】

＜講演・講座・トーク等＞

- ・[講話]「ジョルジュ・ルオー 《ミセレーレが放つ光》」(令和 7/4/13, 5/11 近美コレクション・ミュージアム・トーク)
- ・[講座]「安田侃ー抽象の力ー」(令和 7/5/15 北海道美術館協力会美術講座 2025)
- ・[講座]「安田侃ー抽象の力ー」(令和 7/9/24 アルテピアッツァ美唄)
- ・[講話]「洞爺湖の彫刻をめぐる」(令和 7/11/9 近美コレクション・ミュージアム・トーク)
- ・[シンポジウム]「アート、明日への視点」パネリスト、北海道のアーティスト 50 人展 2025 vol.2「Expression」(令和 7/11/8)
- ・[講話]「イワタリ展」見どころ解説(令和 8/1/31)

＜展示＞

- ・リーヴル・ダルティスト展 解説執筆
- ・アートギャラリー北海道 手のひらの宇宙 ー洞爺湖芸術館コレクション展 展示構成、解説執筆
- ・イワタリ展 展示構成、解説執筆

＜教育支援＞

- ・オンラインアート教室 「なんのかたち？ かたい？ 柔らかい？ 抽象彫刻の世界」(令和 7/9/17 枝幸町立枝幸南中学校)

＜調査活動＞

- ・掛川源一郎 資料調査
- ・洞爺湖芸術館コレクション調査
- ・イワタリ作品調査
- ・函館美術館コレクション調査
- ・「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」(オンライン) 受講

＜社会貢献活動＞

- ・一般財団法人安田侃財団理事
- ・第 37 回有島武郎青少年公募絵画展審査員(令和 7/10/16, 17)
- ・2026 さっぽろ雪まつりスノーオブジェコンテスト審査員(令和 8/2/4)
- ・北翔大学非常勤講師／博物館経営論
- ・札幌大学非常勤講師／博物館資料論

○佐藤由美加（学芸部長兼学芸統括官）

【担当分野（コレクション）】

- ・油彩
- ・エコール・ド・パリ
- ・ガラス工芸

【担当展覧会】

- ・透明なガラススウェーデンのリリシズム（近美コレクション）
- ・この 1 点を見てほしい。池田良二《アントニ・タピエスに捧げる Varanasi》（近美コレクション）

【教育支援・美術館学】

- ・美術館教育、鑑賞教育、利用者支援
- ・博物館学・美術館学
- ・美術館リニューアル

【地域文化の振興】

- ・外部機関・組織との相互協力・研究支援等

【重点研究分野・個別研究課題・継続的テーマ等】

- ・北海道の美術
- ・水彩画
- ・旧フランク・シャーマンコレクション（資料調査）

【研究成果・発表活動】

＜講演・講座・トーク等＞

- ・[講座]「組織人として、学芸員として大切にすべきこと」(令和 7/5/14 新任学芸員等専門研修)
- ・[講座]「近代美術館の活動①ー展覧会の企画と運営」(令和 7/8/20 博物館実習講義)
- ・[講話]「スウェーデンのガラスーその歴史と魅力」(令和 7/9/7 近美コレクション・ミュージアム・トーク)
- ・[講演会]「フランク・シャーマン ー日本と芸術を愛したアメリカ人」(令和 7/10/26 岩手県立美術館「澤田哲郎展」)
- ・[講座]「近代美術館の活動 (3) 展覧会の企画と運営」(令和 8/1/22 北海道美術館協力会ボランティア共通研修)

＜執筆・発表＞

- ・「フランク・シャーマン 1950 年 10 月、国吉康雄訪問の記録ー旧蔵資料とインタビューからー」『藤田嗣治×国吉康雄 二人のパラレルキャリアー百年目の再会』展図録、兵庫県立美術館 (令和 7/6)
- ・「フランク・シャーマンが撮影した日本での最後の日々」『藤田嗣治 絵画と写真』展図録、東京ステーションギャラリー、名古屋市美術館、茨城県美術館、札幌芸術の森美術館(令和 7/7)
- ・「ミュージアムのアクセシビリティ」『北海道博物館協会 NEWS No. 137』北海道博物館協会 (令和 7/10)

- ・「100 年記念展に向けて」『道展ニュース No. 156』北海道美術協会（令和 7/12）
- ・資料紹介「フランク・シャーマンへのインタビュー⑤：1991 年 2 月 4 日Ⅳ、2 月 5 日Ⅰ」『北海道立美術館・芸術館紀要』第 35 号（令和 8/3/3）

＜展示＞

- ・透明なガラススウェーデンのリリシズム 展示構成、解説執筆
- ・この 1 点を見てほしい。池田良二《アントニ・タピエスに捧げる Varanasi》 解説執筆

＜調査活動＞

- ・池田良二作家作品調査

＜社会貢献活動＞

- ・札幌芸術の森美術館作品選定委員会委員
- ・市立小樽美術館協議会委員、資料収蔵委員会委員

○蘭部容子（リサーチ推進課長）

【担当分野（コレクション）】

- ・油彩
- ・ガラス工芸
- ・現代美術

【担当展覧会】

- ・新収蔵品展（近美コレクション）
- ・イワタルリ展

【教育支援・美術館学】

- ・美術館教育、鑑賞教育、利用者支援
- ・博物館学・美術館学、アート・マネージメント

【地域文化の振興】

- ・地域の実術活動の現況調査
- ・外部機関・組織との相互協力・研究支援等

【重点研究分野・個別研究課題・継続的テーマ等】

- ・北海道十勝地方の実術
- ・北海道の現代美術
- ・戦前の道東美術
- ・能勢眞美（作家作品研究）
- ・寺島春雄（作家作品研究）

【研究成果・発表活動】

＜講演・講座・トーク等＞

- ・[講話]「深井克美の軌跡ー《オリオン》と《風》」(令和 7/4/20, 5/18 近美コレクション・ミュージアム・トーク)
- ・[講座]「展覧会の企画運営（三の丸尚蔵館展）」(令和 7/5/14 新任学芸員等専門研修)
- ・[講座]「近代美術館の活動②ーコレクションの収集・管理および調査研究とその実際」(令和 7/8/21 博物館実習講義&ワーク)
- ・[講座]「ガラス造形家イワタルリ」(令和 7/8/28 北海道美術館協力会美術講座 2025)
- ・[講座]「近代美術館の活動 (1) 作品の収集・保管 (2) 調査・研究」(令和 7/11/13 北海道美術館協力会ボランティア共通研修)
- ・[講座]「イワタルリ展」見どころ解説 (令和 8/1/10, 1/17, 1/24)

＜執筆・発表＞

- ・[執筆]「イワタルリ展 息づくガラス」『炎芸術』No. 164 (令和 7/11/1)
- ・[執筆] 巻頭テキスト「イワタルリのガラス：そこに息づくもの」・章解説『イワタルリ展』図録 (中西出版 令和 8/1/9)

＜展示＞

- ・新収蔵品展 展示構成・解説執筆
- ・イワタルリ展 展示構成・解説執筆

＜教育支援＞

- ・ワークショップ「絵巻物にふれてみよう！」(令和 7/5/17 ウィズ・キッズ '25 めでたいな！幸せねがう日本の絵 関連事業)
- ・キッズ・ツアー (令和 7/10/4 ウィズ・キッズ '25 赤・青・白 杉山留美子さんの部屋 関連事業)

＜調査活動＞

- ・新収蔵作品調査
- ・イワタルリ作家作品調査
- ・松島巖作家作品調査
- ・リニューアル調査
- ・「第 11 回保存環境調査・管理に関する講習会」(オンライン) 受講

＜社会貢献活動＞

- ・札幌市 500m 美術館専門委員会委員

○土岐美由紀（主任学芸員）

〔担当分野（コレクション）〕

- ・日本画
- ・浮世絵
- ・デザイン

〔担当展覧会〕

- ・金閣・銀閣 相国寺展 若冲・応挙・芦雪 一禅文化の名宝と美
- ・カラー・オブ・グラス（近美コレクション）

〔教育支援・美術館学〕

- ・美術館教育、鑑賞教育、利用者支援
- ・博物館学・美術館学、アート・マネージメント

〔地域文化の振興〕

- ・地域の美術活動の現況調査
- ・外部機関・組織との相互協力・研究支援等

〔重点研究分野・個別研究課題・継続的テーマ等〕

- ・北海道美術史
- ・近現代日本画
- ・片岡球子、岩橋英遠、筆谷等観、福井爽人

〔研究成果・発表活動〕

＜講演・講座・トーク等＞

- ・〔講話〕「美術作品への接し方ー調査・収集・保存・借用・展示ー」（令和 7/5/14 新任学芸員等専門研修）
- ・〔講座〕「金閣・銀閣 相国寺展 禅文化の名宝と美ー若冲を中心にー」（令和 7/7/31 北海道美術館協力会美術講座 2025）
- ・〔講話〕「金閣・銀閣 相国寺展」見どころ解説（令和 7/8/23）
- ・〔講話〕「カラー・オブ・グラスーガレの探求を中心に」（令和 8/2/1 近美コレクション・ミュージアム・トーク）

＜執筆・発表＞

- ・「片岡球子《面構 一休さま》」「新・北の美」『Hoppoken』1991 号（令和 8/3）
- ・北海道デジタルミュージアム作品解説（福井爽人《杜》）
- ・似鳥美術館データベース 作品解説（片岡球子《天人狭》《舞い姿》上村松園《上臈之図》他）

＜展示＞

- ・金閣・銀閣 相国寺展 展示構成、解説編集・執筆
- ・カラー・オブ・グラス展 展示構成、解説執筆

＜調査活動＞

- ・古美術取扱、梱包、展示に関する調査
- ・相国寺承天閣美術館所蔵作品調査
- ・ガラス工芸史、現代ガラス作家調査
- ・リニューアル調査

＜社会貢献活動＞

- ・北海道教育大学岩見沢校非常勤講師／博物館学
- ・絹谷幸二芸術賞推薦

○藤原乃里子（企画推進課長）

〔担当分野（コレクション）〕

- ・エコール・ド・パリ
- ・陶磁・染織
- ・日本画
- ・ネイティブ・アート

〔担当展覧会〕

- ・青木美歌《未生命の遊槽》（近美コレクション）
- ・1945-2025 美術は何を記憶しているか（近美コレクション）
- ・おはなし美術（近美コレクション）

〔教育支援・美術館学〕

- ・美術館教育、鑑賞教育、利用者支援
- ・博物館学・美術館学
- ・美術館の広報・情報発信の最適化にかかる検討

【地域文化の振興】

- ・地域の美術活動の現況調査
- ・外部機関・組織との相互協力・研究支援等

【重点研究分野・個別研究課題・継続的テーマ等】

- ・近現代美術
- ・美術館における社会包摂の取組

【研究成果・発表活動】

<講演・講座・トーク等>

- ・[講座]「当館の教育普及事業について」(令和7/5/14 新任学芸員等専門研修)
- ・[講話]「アンリ・マティスと挿絵本」(令和7/7/6 近美コレクション・ミュージアム・トーク)
- ・[講座]「マリー・ローランサン いま、あらためてひもとく魅力」(令和7/8/21 北海道美術館協会の美術講座2025)
- ・[講義]「近代美術館の活動④ー教育普及活動の概要とその実際」(令和7/8/22 博物館実習講義&ワーク)
- ・[講話]「青木美歌《未生命の遊槽》をめぐって ガラスに宿る、生命の気配」(令和7/8/30 札幌国際芸術祭×北海道立近代美術館 トークイベント)
- ・[講話]「青木美歌《未生命の遊槽》をめぐって」(令和7/9/14, 10/26 近美コレクション・ミュージアム・トーク)
- ・[講話]「美術館での作品鑑賞を深めるために」(令和8/1/9 道立美術館活用学習充実のための指導者研修)
- ・[講話]「浮世絵と言葉遊びのたのしみー歌川国芳《妙でんす十六利勘》、歌川国貞《一歩線香即席噺》を中心に」(令和8/1/18 近美コレクション・ミュージアム・トーク)
- ・[講座]「近代美術館の活動 (4) 教育普及」(令和8/2/12 北海道美術館協会ボランティア共通研修)
- ・[講話]「解剖!『おはなし美術』の魅力」(令和8/3/29 近美コレクション・ミュージアム・トーク)

<執筆・発表>

- ・表紙解説「アルブレヒト・デューラー《聖エウスタキウス》」『第674回札幌交響楽団定期演奏会プログラム』(令和8/1/31, 2/1)

<展示>

- ・1945-2025 美術は何を記憶しているか 年譜執筆・作家作品解説(I~VI章)執筆
- ・おはなし美術 展示構成・セクション解説執筆・作家作品解説(浮世絵以外の日本画を除く)執筆

<教育支援>

- ・岩見沢市立岩見沢小学校との「栗谷川学」連携授業 企画・運営調整(令和7/6/11)
- ・ワークシート「みる・かんじる・あらわす アルブレヒト・デューラー《聖エウスタキウス》」作成(令和7/7/18)
- ・ワークシート「みる・かんじる・あらわす 歌川国芳《妙でんす十六利勘 煩惱損者》」作成(令和7/7/18)
- ・ワークショップ「ふれてたのしむ 絵巻物」(令和8/1/28, 2/8 おはなし美術 関連事業)

<調査活動>

- ・道央圏を中心とした作家作品調査
- ・古美術の取扱いに関する研修受講
- ・「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」(オンライン)受講

<社会貢献活動>

- ・道銀芸術文化奨励賞選考委員

○光岡幸治(上席専門員)

【担当分野(コレクション)】

- ・油彩
- ・版画
- ・浮世絵
- ・映像・写真

【担当展覧会】

- ・浮世絵スーパークリエイター 歌川国芳展(貸館)
- ・金閣・銀閣 相国寺展 若冲・応挙・芦雪 一禅文化の名宝と美

【教育支援・美術館学】

- ・博物館教育、鑑賞教育
- ・博物館学、美術館学、アート・マネジメント
- ・道内の小中高等学校との連携

【地域文化の振興】

- ・地域の美術活動の現況調査

【重点研究分野・個別研究課題・継続的テーマ等】

- ・近代美術
- ・挿絵
- ・浮世絵

【研究成果・発表活動】

＜講演・講座・トーク等＞

- ・[講座]「歌川国芳 “奇想”の浮世絵師」(令和 7/5/22 北海道美術館協力会美術講座 2025)
- ・[講話]「蠣崎波響ー絵師、そして家老としての足跡」(令和 7/6/29 近美コレクション・ミュージアム・トーク)
- ・[講話]「金閣・銀閣 相国寺展」見どころ解説(令和 7/8/9)
- ・[講話]「福沢一郎の画業ー戦前から戦後へ」(令和 8/1/25 近美コレクション・ミュージアム・トーク)

＜執筆・発表＞

- ・作品解説「新宮晋《風の対話》」電子ガイド「ポケット学芸員」(令和 7/11)

＜展示＞

- ・金閣・銀閣 相国寺展 展示構成、展示解説編集・執筆

＜教育支援＞

- ・オンラインアート教室「チカチカ？ ゆらゆら？ 目の錯覚を生むアート」(令和 7/11/12 北海道余市養護学校)

＜調査活動＞

- ・歌川国芳作品調査
- ・相国寺所蔵作品調査
- ・エコール・ド・パリの作家調査
- ・小川原脩作品調査
- ・「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」(オンライン)受講

○村山史歩（学芸副館長）

【担当分野（コレクション）】

- ・ガラス
- ・浮世絵
- ・日本画
- ・デザイン

【教育支援・美術館学】

- ・美術館教育、鑑賞教育、利用者支援
- ・博物館学・美術館学、アート・マネジメント

【地域文化の振興】

- ・外部機関・組織との相互協力・研究支援等

【重点研究分野・個別研究課題・継続的テーマ等】

- ・日本の近現代ガラス
- ・北海道の美術
- ・博物館学、アート・マネジメント

【研究成果・発表活動】

＜講演・講座・トーク等＞

- ・[講座]「UHB 大学 浮世絵スーパークリエイター歌川国芳」(令和 7/4/22 共済ホール)
- ・[講座]「①美術館の沿革・活動・運営など ⑧調査研究」(令和 7/5/14 新任学芸員等専門研修)
- ・[講座]「エミール・ガレの世界」(令和 7/7/24 北海道美術館協力会美術講座 2025)
- ・[講座]「近代美術館の活動①ー近代美術館のこれまでとこれから」(令和 7/8/20 博物館実習講義)
- ・[講座]「第2回 近代美術館のこれまでとこれから」(令和 8/1/23 北海道美術館協力会ボランティア共通研修)

＜執筆・発表＞

- ・「北海道と神田日勝」『神田日勝記念美術館所蔵作品集』(神田日勝記念美術館 令和 7/12)

＜調査活動＞

- ・令和 7 年度購入作品・作家に関する調査
- ・「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」(オンライン)受講

＜社会貢献活動＞

- ・北翔大学非常勤講師(博物館概論)
- ・札幌芸術の森事業部美術館専門委員会委員
- ・北海道立釧路芸術館運営協議会委員
- ・神田日勝記念美術館運営協議会委員
- ・北海道博物館協会副会長
- ・道央地区博物館等連絡協議会監事
- ・北海道学芸員研究協議会副会長

○村山美波（学芸員）

【担当分野（コレクション）】

- ・現代の美術

- ・版画
- ・陶磁・染織
- ・ネイティブ・アート

【担当展覧会】

- ・ウィズ・キッズ '25 めでたいな！幸せねがう日本の絵（近美コレクション）
- ・1945-2025 美術は何を記憶しているか（近美コレクション）
- ・おはなし美術（近美コレクション）
- ・この1点を見てほしい。池田良二《アントニ・タピエス氏に捧げる Varanasi》（近美コレクション）

【地域文化の振興】

- ・学校機関との連携・相互協力

【重点研究分野・個別研究課題・継続的テーマ等】

- ・スペイン（カタルーニャ）近現代美術
- ・ファイバー・アート
- ・北海道の美術
- ・博物館における社会包摂・アクセシビリティ

【研究成果・発表活動】

<講演・講座・トーク等>

- ・[講座]「フランシスコ・デ・ゴヤが見つめた『リアル』」（令和7/5/29 北海道美術館協力会美術講座2025）
- ・[講話]「ここがめでたい！日本の絵」（令和7/6/8 近美コレクション・ミュージアム・トーク）
- ・[講話]「神田日勝美術館オリエンテーション」（令和7/8/30）
- ・[講話]「グループ『TODAY』の活動と作品－国際美術展を作り上げた作家たち」（令和7/8/31, 10/12 近美コレクション・ミュージアム・トーク）
- ・[講話]「アーティストトーク」（令和7/9/27 「アパートⅡ－3人の住人たち」展 CAI03）
- ・[講話]「アフタートーク」（令和7/12/20 HTL 演劇公演「北緯42度から見た二つの椅子」）
- ・[講話]「この1点を見てほしい。池田良二《アントニ・タピエス氏に捧げる Varanasi》」（令和7/12/21, 令和8/2/1 近美コレクション・ミュージアム・トーク）

<執筆・発表>

- ・「2つのウィズ・キッズ展 子どもの豊かな鑑賞のために」（令和7/7/4 第63回北海道博物館大会個別報告 北海道博物館）
- ・研究ノート「中村木美と日本におけるファイバー・アートー『具象性』を手がかりとした位置づけの考察」『北海道立美術館・芸術館紀要』第35号（令和8/3/3）
- ・報告「近美コレクション ウィズ・キッズ '24 小学校の先生と取り組む、子どものアクセシビリティ向上」『NORTHERN OWLS』Vol. 34（令和8/3/3 北海道美術館学芸員研究協議会）

<展示>

- ・ウィズ・キッズ '25 めでたいな！幸せねがう日本の絵 解説執筆
- ・1945-2025 美術は何を記憶しているか 展示構成、解説執筆
- ・この1点を見てほしい。池田良二《アントニ・タピエス氏に捧げる Varanasi》 資料調査

<教育支援>

- ・ワークショップ「絵巻物にふれてみよう！」（令和7/5/17, 6/14 ウィズ・キッズ '25 めでたいな！幸せねがう日本の絵 関連事業）
- ・ワークショップ「染めて見つける『あいだの色』」（令和7/8/3 アートギャラリー北海道～みんなのアートプロジェクト 夏休みこどもワークショップ2025）
- ・オンラインアート教室「チカチカ？ゆらゆら？目の錯覚を生むアート」（令和7/10/17 北海道札幌伏見支援学校もなみ学園分校、令和7/12/16 札幌市立豊園小学校）
- ・北海道リモート・ミュージアム「1945-2025 美術は何を記憶しているか」（令和8/1/29）

<調査活動>

- ・中村木美作家調査
- ・「ミュージアム運営のためのアクセシビリティ研修」（オンライン）受講

2-E 地域との協力事業

①解説活動						
事業名等	タイトル・内容等	日時	会場	講師名ほか	人数	内訳ほか
ギャラリー・ツアー	〈近美コレクション〉において、北海道美術館協力会ボランティア解説部によるギャラリー・ツアー（展示解説）を行う。火～土曜日3回の定時実施に加え、希望する団体には時間調整のうえ適宜実施した。	日曜・祝日を除く毎日（各回約30分） 火～土曜日（1日3回） 11:30～、13:00～、14:00～	展示室A	案内：北海道美術館協力会ボランティア解説部	2,140	個人利用 1,718名、524回 団体利用 422名、48回
ARS（アート・レファレンス・サービス）	図書閲覧コーナー、映像ライブラリー、質問コーナーからなるARS（アート・レファレンス・サービス）を設置し、美術情報の閲覧来館者からの質問に対応した。	開館日・開館時間中 （質問コーナーは、日曜・祝日を除く毎日：10:30-15:00）	ARSコーナー	質問コーナー対応：北海道美術館協力会ボランティア解説部	4,881	質問件数 322件 映像利用 42件

②その他の教育普及事業						
事業名ほか	タイトル・内容ほか	日時	会場	講師名ほか	人数	内訳ほか
ミュージアム・コンサート	イワタルリ展 道銀文化財団Art Ensemble#25 ロマン派の小さな美術展	1月10日(土) 18:30-19:10	ホール	解説：菌部容子(当館リサーチ推進課長) 演奏：トリオ ユキバナ(ユーフォニアム：山口貴寛、フルート：石郷岡こまち、ピアノ：吉田妃葉)	101	
	イワタルリ展 道銀文化財団Art Ensemble#26 冬夜に描くアメリカ音楽の肖像	1月17日(土) 18:30-19:10	ホール	解説：菌部容子(当館リサーチ推進課長) 演奏：ヴァイオリン：古口絵理、クラリネット：井川太朗、ピアノ：福森百伽	105	

③一般社団法人 北海道美術館協力会との連携・協力事業						
事業名ほか	タイトル・内容ほか	日時	会場	講師名ほか	人数	内訳ほか
美術講座2025 「日本・西洋の美術シリーズ」	美術に関する基礎知識を学ぶ連続講座（全10回）に協力し、講師を派遣した。	①5月15日(木) 10:00-11:30 ②5月22日(木) 10:00-11:30 ③5月29日(木) 10:00-11:30 ④6月5日(木) 10:00-11:30 ⑤6月12日(木) 10:00-11:30 ⑥7月24日(木) 10:00-11:30 ⑦7月31日(木) 10:00-11:30 ⑧8月7日(木) 10:00-11:30 ⑨8月21日(木) 10:00-11:30 ⑩8月28日(木) 10:00-11:30	講堂	実施：北海道美術館協力会ボランティア研修部 演題／講師： ①安田侃 抽象の力／久米淳之(当館上席専門員) ②歌川国芳 “奇想”の浮世絵師／光岡幸治(当館上席専門員) ③フランシスコ・デ・ゴヤが見つめた「リアル」／村山美波(当館学芸員) ④19世紀パリ：サーカスがやってきた！ クールベからロートレックまで／柴勤(前小笠原脩記念美術館館長) ⑤阿弥陀如来とその美術／熊谷麻美(当館学芸員) ⑥エミール・ガレの世界／村山史歩(当館学芸副館長) ⑦金閣・銀閣 相国寺展 禅文化の名宝と美～若冲を中心に～／土岐美由紀(当館主任学芸員) ⑧スペイン宮廷とティツィアーノ ハプスブルク家の美術パトロネージ／河本真夕(当館学芸員) ⑨マリー・ローランサン いま、あらためてひもとく魅力。／藤原乃里子(当館企画推進課長) ⑩ガラス造形家イワタルリ／菌部容子(当館リサーチ推進課長)	1,154	①124 ②118 ③127 ④118 ⑤120 ⑥103 ⑦128 ⑧106 ⑨103 ⑩107
美術講座プレミアム2025	美術に関する専門的・個別的知識を学ぶ連続講座（全5回）に協力した。	①10月2日(木) 10:00-11:30 ②10月9日(木) 10:00-11:30 ③10月16日(木) 10:00-11:30 ④10月23日(木) 10:00-11:30 ⑤10月30日(木) 10:00-11:30	講堂	実施：北海道美術館協力会ボランティア研修部 演題／講師： ①アイヌの装いにみる文化交流／宮地鼓(国立アイヌ民族博物館展示企画室室長補佐) ②手のひらの宇宙—洞爺湖国際彫刻ビエンナーレの軌跡／中谷麻美(洞爺湖町教育委員会社会教育課洞爺湖芸術館係長) ③北の大地に描くこころ 北海道ゆかりの日本画家たちと現代日本画の魅力／大石朋生(北海道教育大学旭川校芸術・保健体育専攻美術分野教授／日本画家) ④木田金次郎のストーリーを紡ぐ／岡部卓(木田金次郎美術館館長) ⑤ファン・ゴッホ展の舞台裏～展覧会コンセプトと調査研究を中心に／佐藤幸宏(札幌芸術の森美術館館長)	403	①91 ②72 ③81 ④81 ⑤78

美術への誘い	美術館ボランティアが、区民センター・図書館・福祉施設など外部の機関で行う解説活動に協力した。	①4月29日(火) 13:30-15:00 ②5月21日(水) 13:30-15:00 ③6月3日(火) 13:30-15:00 ④7月4日(金) 13:30-15:00 ⑤8月1日(金) 13:30-15:00 ⑥8月5日(火) 13:30-15:00 ⑦8月21日(木) 9:30-11:30 ⑧8月26日(火) 13:30-15:00 ⑨8月28日(木) 13:30-15:00 ⑩9月4日(木) 10:00-11:30 ⑪9月11日(木) 13:30-15:00 ⑫9月18日(木) 13:30-15:00 ⑬9月26日(金) 13:30-15:30 ⑭10月7日(火) 14:00-15:30 ⑮11月3日(月・祝) 13:30-15:00	①札幌市中央図書館 ②中央区民センター ③北区民センター ④藤野地区センター ⑤東区民センター ⑥白石区民センター ⑦北区民センター北親大学 ⑧中央区民センター ⑨旭山公園通地区センター ⑩中央区民センター いきいき講座 ⑪旭山公園通地区センター ⑫西区民センター ⑬北老人福祉センター ⑭介護予防センターまえた ⑮札幌市中央図書館	実施：北海道美術館協力会ボランティア特別活動部	376	①50 ②19 ③12 ④13 ⑤28 ⑥26 ⑦39 ⑧21 ⑨13 ⑩35 ⑪13 ⑫22 ⑬20 ⑭21 ⑮44
アート・クラブ／ジュニア・アートクラブ	美術館ボランティアが当館内で行うワークショップ等の教育普及活動「アート・クラブ」「ジュニア・アートクラブ」に協力した。	①7月25日(金) 17:00-20:00 ②11月3日(月・祝) 11:00-12:30	①造形室、映像室 ②造形室、映像室	実施：北海道美術館協力会ボランティア特別活動部 内容： ①『アート・クラブ2025inカルチャーナイト 楽しい夏の思い出～アートなうちわやトリック絵葉書をつくろう』 ②『ジュニア・アートクラブ2025 モノタイプって何？～新しい版画に挑戦しよう』／秋元さなえ(美術家)	104	①90 ②14
特別オリエンテーション	美術館ボランティアに対して、展覧会(特別展、近美コレクション)の概要を担当学芸員が解説した。	①5月16日(金) 10:30-12:00 ②7月29日(火) 13:30-15:00 ③10月8日(水) 13:30-14:20 ④12月17日(水) 10:30-12:10	講堂	実施：北海道美術館協力会ボランティア研修部 講師：各展覧会担当学芸員	310	①81 ②91 ③56 ④82
ボランティア養成研修(共通研修)	美術館ボランティアの新人養成研修に講師を派遣した。	①9月4日(木) 10:00-11:30 ②9月18日(木) 10:00-11:30 ③11月13日(木) 10:00-11:30 ④1月22日(木) 10:00-11:30 ⑤2月12日(木) 10:00-11:30	映像室	実施：北海道美術館協力会ボランティア研修部 内容／講師： ①美術館ボランティアとその学び／木村純(北海道大学高等教育推進機構名誉教授) ②近代美術館のこれまでとこれから／村山史歩(当館学芸副館長) ③近代美術館の活動(1)作品の収集・保管(2)調査・研究／園部容子(当館リサーチ推進課長) ④近代美術館の活動(3)展覧会の企画と運営／佐藤由美加(当館学芸部長兼学芸統括官) ⑤近代美術館の活動(4)教育普及／藤原乃里子(当館企画推進課長)	183	①50 ②32 ③38 ④31 ⑤32
ボランティア専門研修	美術館ボランティアの専門研修に講師を派遣した。	①5月21日(水) 10:00-12:00 ②9月4日(木) 13:00-14:00 ③10月8日(水) 10:00-12:00	①映像室 ②講堂 ③映像室	①実施：北海道美術館協力会ボランティア資料部 講師：熊谷麻美(当館学芸員)、内容：「一次資料と二次資料」 ②実施：北海道美術館協力会ボランティア解説部 講師：熊谷麻美(当館学芸員) 内容：「解説とは、ARSとは」 ③実施：北海道美術館協力会ボランティア資料部 講師：熊谷麻美(当館学芸員)／久米淳之(当館上席専門員) 内容：「資料の収集と保存」	88	①29 ②36 ③23

④その他の連携・協力事業

事業名ほか	タイトル・内容ほか	日時	会場	講師名ほか	人数	内訳ほか
北海道立近代美術館・北海道立図書館連携展示	特別展の会期中に美術館内にて、北海道立図書館の蔵書から展覧会関係の図書を展示し、来館者への閲覧サービスを行った。	①浮世絵スーパークリエイター 歌川国芳展 4月25日(金)～6月15日(日) ②金閣・銀閣 相国寺展 若冲・応挙・芦雪―禅文化の名宝と美 7月19日(土)～9月7日(日) ③トーベとムーミン展 ～とっておきのものを探しに～ 10月1日(水)～11月24日(月・祝) ④イワタルリ展 息づくガラス 12月13日(土)～2月15日(日)	展示室B出口	①道立図書館蔵書26冊 ②道立図書館蔵書冊27冊 ③道立図書館蔵書29冊 ④道立図書館蔵書26冊	－	
札幌交響楽団定期演奏会配布用プログラム協力	『札幌交響楽団定期演奏会プログラム』に当館のコレクションから画像を提供し、学芸員が作品紹介を執筆した。	①『第669回札幌交響楽団定期演奏会プログラム』 5月31日(土)、6月1日(日)発行 ②『第674回札幌交響楽団定期演奏会プログラム』 1月31日(土)、2月1日(日)発行	札幌コンサートホール kitara	①「本日の表紙 【パンタグリユエル挿画集 パンタグリユエル】アンドレ・ドラン」／河本真夕(当館学芸員) ②「本日の表紙 【聖エウスタキウス】アルブレヒト・デューラー」／藤原乃里子(当館企画推進課長)	－	
岩見沢市立岩見沢小学校との連携	グラフィック・デザイナー栗谷川健一の母校として「栗谷川学」に取り組む同校からの依頼により、教員と当館学芸員との連携のもと、児童(6年生)の希望をふまえた当館所蔵の栗谷川作品2点を鑑賞する授業を行った。	6月11日(水) 9:30-10:30	収蔵庫ほか	対応：当館学芸員	40	

北海道造形教育連盟ミュージアム部会との連携	研究授業の題材に「1945-2025 美術は何を記憶しているか」展が選ばれたことを契機に、立幌西小学校6年生の図工の授業で本展出品作品を用いたデジタル作品制作に取り組んだ。「作品の中に児童自身が入りこむ」という教員が考えた授業案を、著作権の問題が生じないよう当館学芸員の助言のもと、実現した。	展覧会観覧:11月4日(火) 9:30-11:00 制作授業:11月10日(月) 13:30-14:15	立幌西小学校、展示室A	対応:当館学芸員	140	
立二条小学校との連携	北海道造形教育連盟に加盟している教員からの依頼により、6年生の図工の授業で実施。教員と美術館学芸員との連携のもと、同校でのオリエンテーション、当館での展覧会(「イワタリ展」、近美コレクション「おはなし美術」ほか)観覧、同校図工の授業での立体造形制作と、連続するプログラムを行った。	オリエンテーション:12月18日(水) 10:40-11:25 展覧会観覧:12月19日(木) 9:45-11:00 立体制作授業:12月24日(水) 8:45-9:30	立二条小学校、展示室A	対応:当館学芸員	98	
北海道白樺高等養護学校との連携	オンラインアート教室を受講して美術館への関心を深めた同校美術部から、「おはなし美術」展観覧希望の照会を受けたことを契機に、展示替休館中の展示室からオンラインで授業を行うことを提案し、主に日本画の作品を学芸員が解説。今後の実作鑑賞への関心を高めた。	2月18日(水) 15:30-16:30	展示室A 1F	対応:当館学芸員	13	

⑤貸館事業

事業名ほか	タイトル・内容ほか	日時	会場	講師名ほか	人数	内訳ほか
浮世絵スーパークリエイター 歌川国芳展 4月25日(金)～6月15日(日)	ギャラリートーク	4月25日(金) 10:30-11:00	展示室B	月本寿彦(福島県立美術館学芸員、本展監修者)	40	
	特別講演会「メイキング・オブ・国芳イマーシブアート」	4月25日(金) 13:30-14:30	講堂	東山武明 (株式会社一旗代表取締役、本展「国芳イマーシブアート」プロデューサー)	106	
	特別講演会	5月17日(土) 10:00-11:00	講堂	岩崎直人(札幌芸術の森美術館副館長)	124	
日本美術家連盟座談会	座談会(連盟ニュース497号巻頭『連盟新世代座談会―北海道―』収録	10月12日(日)13:00-17:00	映像室	主催:日本美術家連盟	10	
第26回北海道韓国語弁論大会	韓国語・観光文化に関する弁論大会	11月8日(土)13:30-16:30	講堂	主催:札幌韓国教育院	96	
HTL演劇公演	「北緯43度から見た二つの椅子」	①12月20日(土) 14:00-15:30 ②12月21日(日) 14:00-15:30	講堂	アフタートーク(①のみ):村山美波(当館学芸員)	88	①49 ②39

3 評価

R 7 年度 美術館評価調書

A 優れた作品の収集と適切な保管

近代美術館

【基本的運営方針】

5つの収集方針に基づいて、優れた作品を計画的に収集し、系統的で個性的なコレクションを形成します。併せて関連資料の整備を進めます。また、IPM(総合的有害生物管理)の進展や当館施設設備の特色と老朽化をふまえながら、保存環境を整備するとともに、作品の修復を計画的に行うなどしながら、作品を適切に保管します。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画〔PLAN〕	事業実施状況〔DO〕
優れたコレクションの形成	●美術に関する調査研究と収集方針に基づいて、美術史の視点からコレクションの欠けた部分や手薄な部分を洗い出し、それらをリストアップした収集計画を更新する。 ●リストアップされた作品の入手可能性に関する情報を収集し、購入や受贈により計画を実現する。	●道単特別展「イワタリ展」での調査研究を踏まえて、同展出品の同作家のガラス作品1点をR7年度の収集候補とし、収蔵作品選定評価協議会での承認を得て購入した。これにより当館で不足している現代日本の「ガラス工芸」分野の充実をはかることができた。 ●受贈では20件ほどの寄贈の申出を受けたが、コレクションとしての利活用が望める作品はなかったため、新たな収蔵には至らなかった。
所蔵作品の適切な保管	●IPM（総合的有害生物管理）の進展に学びながら、ひと月に1回程度の収蔵庫内清掃や虫トラップの設置・観察・分析等を通して、適切な展示・保存環境を保持する。 ●保存と活用のために修復が必要な作品のリストを更新し、計画的に修復を進める。 ●増加する図書や資料類の収納スペースを確保するため、図書や映像資料、過去の展覧会資料等の整理とデジタル化に努める。 ●所蔵品データベースの確認作業を行い、データの精度を高める。 ●二次資料の幅広い活用と公開を目的とするアーカイヴ（記録・資料保管システム）のあり方について研究する。	●実施計画に基づき通年でIPMを実施した結果、前年度よりも年間の捕虫数はわずかに減少した。 ●保存に適した状態にするため、既収蔵作品の額装やマット装を5点実施した。 ●R6年度までの所蔵品データベースの登録を完了した。 ●掛川源一郎作品及び資料のアーカイブ化について、現状を整理・把握した上で今後必要な作業のリストアップを行った。
コレクションの効果的な活用	●R6年度に新たに収蔵した作品を「新収蔵品展」において公開するほか、「この1点を見てほしい。」を開催し、作品の魅力を深く掘り下げた研究の成果を紹介する。	●「新収蔵品展」のほか、「この1点を見てほしい。」を2回開催した。 ●約1年にわたり札幌出身のガラス作家青木美歌によるガラスのインスタレーション作品などを展示室A2階で展示し、来場者の好評を得た。 ●富山市ガラス美術館へのガラス作品の大量貸出しをきっかけに、同館とのガラス分野に関する情報交換が図られ、今後の連携の可能性につながることができた。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定〔PLAN〕			評価〔CHECK〕						今後の対応方向 〔ACTION〕
		前年度 実績	目標値(a)		実績値 (b)	達成率 (b/a)	指標の 判定	項目評価		総合評価	
			設定の考え方					成果・課題			
優れたコレクションの 形成	収集方針に基づく収集活動〔定性〕	—	—	—	—	—	①	b	【成果】 ●昨年度に引き続き、コレクションが不足していた現代日本の「ガラス工芸」分野の優品を北海道美術品取得基金により購入することができた。 【課題】 ●リニューアルを見据え、収蔵庫をはじめ作品の保管状況に留意しながら収集活動を進めていく必要がある。また、収集方針に掲げながらも、新たな収蔵が進まない分野についてコレクションの充実を図る必要がある。なお、作品価格高騰のため、「エコール・ド・パリ」については、収集が叶わない状況にある。	B	【優れたコレクションの形成】 ●収集計画に基づき、今後も広く情報収集を行い、コレクションの充実を目指す。 【所蔵作品の適切な保管】 ●データベースの精度を高めるために点検し、誤りを適宜修正する。また、適切な保存環境のもとで所蔵作品を管理するとともに、必要に応じて修復を行う。 【コレクションの効果的な活用】 ●調査研究等を深めることでコレクションの魅力を掘り起こし、展覧会や事業等において紹介する。
所蔵作品の適切な保管	所蔵品データベースの整備率	100.0%	100.0%	R6年度末までに収蔵した全作品のうち、R7年度末までにIBシステムに情報登録を予定する作品の割合	100.0%	100.0%	①	a	【成果】 ●新収蔵作品を含めデータの登録が完了した。また、過去データの誤りを点検し、適宜修正した。 保存環境の維持と収蔵作品の計画的な修復を行った。 【課題】 ●過去の作品登録データの誤りを引き続き修正するとともに更新を適宜 反映していく必要がある。 ●二次資料のアーカイブ化に関しては、実現に至るまでの業務量や期間を踏まえて業者委託も含めて検討し、促進を図る必要がある。 ●作品の経年劣化を踏まえ、継続的に適切な修復を実施していく必要がある。		
	適切な保管環境の維持と所蔵作品の計画的な修復〔定性〕	—	—	—	—	—	①				
コレクションの効果的な活用	コレクションの活用の状況〔定性〕	—	—	—	—	—	①	b	【成果】 ●展示、教育普及事業、情報発信等、美術館活動の多くの場面に活用することができた。 【課題】 ●コレクションの更なる活用について、引き続き様々な方法を検討する必要がある。		

R 7 年度 美術館評価調書

B 多彩で特色ある展示活動の充実

近代美術館

【基本的運営方針】

収蔵作品を紹介する「近美コレクション」展を、当館の個性を強く発信するとともに、コレクションをすべての人々に向かって開く最も重要な機会と位置づけ、コレクションの魅力や調査研究の進展を伝えます。また、「特別展」では、様々な鑑賞のニーズに応えるとともに、人間と文化の多様性について理解を深める機会となるように、幅広い時代と分野のアートを紹介します。併せて、個性の異なる誰もがアートに親しむことができる展示について研究を進めます。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画〔PLAN〕	事業実施状況〔DO〕
多様なニーズに応える 展示会の開催	●近美コレクションについては、20世紀のバリで活躍した画家たちの挿絵本を紹介する「画家の本ーリーヴル・ダルティスト」、アートギャラリー北海道事業として洞爺湖芸術館の所蔵品を紹介する「手のひらの宇宙」等を開催するほか、リニューアル後の「目指す姿」を踏まえて多様な人々が美術に親しめるよう、聖書や古事記などを題材にした作品についてわかりやすく読み解いた「おはなし美術」や、昨年度に引き続き「ウィズ・キッズ」25」を開催する。 ●国内外の優れた作品を紹介する特別展については、金閣・銀閣・相国寺が所蔵する禅文化の名宝による「金閣・銀閣 相国寺展」をはじめ、日本を代表する現代ガラス作家を紹介する「イワタリ展」、江戸時代の人気浮世絵師の「歌川国芳展」（貸館）、小説『ムーミン』出版80周年を記念した「トーベとムーミン展」（貸館）まで、幅広い時代・地域・分野にわたる4つの展示会を開催する。	●近美コレクションⅠ期「リーヴル・ダルティスト」において書籍とその挿絵の試し刷り、セピア刷りなども紹介した。Ⅱ期「1945-2025 美術は何を記憶しているか」では、戦後80年という視点から北海道美術を振り返った。また、Ⅰ期「ウィズ・キッズ」25 めでたいな！幸せねがう日本の絵」では親子を対象としたワークショップ「絵巻物にふれてみよう！」を5回開催し、好評を博した。Ⅲ期「カラー・オブ・グラス」では、作品の並びによって色のグラデーションが生まれるような展示の工夫を凝らした。 ●特別展では「金閣・銀閣 相国寺展」で鹿苑寺大書院床の間の再現をはじめ、国宝1点・重要文化財5点を含む68点を展示した。「イワタリ展」では、吹きガラスの技法による作品と鑄造技法による作品に加え、作家の祖父と両親である岩田藤七・久利・糸子の作品も紹介した。さらに、イマーシブ映像も活用した「歌川国芳展」（貸館）、油彩画・原画・スケッチなど約300点による「トーベとムーミン展」（貸館）など多彩な4つの展示会を開催した。
観覧者拡充のための 工夫	●チラシやポスター等の紙媒体のほか、道立美術館ポータルサイト、ホームページ、X（旧ツイッター）、フェイスブックを通じて、展示会情報や見どころを細やかに発信する。 ●当館収蔵作品のなかでも人気の高い神田日勝《室内風景》を、Ⅱ期のコレクション展において展示するとともに、札幌ゆかりのガラス作家・青木美歌の大型インスタレーションを中心としたガラス作品を適期で展示する。 ●障がい者、子どもを対象とした展示について研究を深める。	●チラシやポスター等のほか、Ⅲ期「おはなし美術」のコーナー解説や「イワタリ展」の多言語での情報発信を行った。 ●近美コレクションでは「リーヴル・ダルティスト」でシャガールやピカソなど20世紀ヨーロッパの著名画家の作品を、「1945-2025 美術は何を記憶しているか」では北海道の主要作家の作品を紹介した。また、ガラス作品についてはⅠ期「巴里のかほり アール・デコのガラス」、Ⅱ期「透明なガラス スウェーデンのリリズム」で近現代ヨーロッパの優品を展示した。 ●近美コレクションでは全ての展示において作品鑑賞のためのワークシートを展示室内に配置。R7年度に新規作成した2種を含め計6種を提供した。 ●「おはなし美術」では説話や物語など「おはなし」をひとつの糸口とし、やさしい日本語を参考にした解説文や、絵本原画や触れることができる作品を展示するなど、社会包摂を意識した展示構成を心掛けた。
館外における鑑賞 機会の提供	●道内外の美術館からの作品借用希望に協力し、当館来館者以外にもコレクションの鑑賞機会を提供する。主な貸出予定は、東京ステーションギャラリー他「藤田嗣治のまなざし」1点、あべのハルカス美術館他「小村雪岱展」12点、三岸好太郎美術館「好太郎と節子」2点、同館「ふたりの『悪童』」11点、等。	●道内美術館としては北海道立三岸好太郎美術館「ふたりの『悪童』－美術史家・外山卯三郎と好太郎」、「三岸節子生誕120年 永遠のオマージュ 好太郎と節子」、木田金次郎美術館「木田金次郎と昭和の暮らし」、本郷新記念札幌彫刻美術館「没後50年 山内丈夫展」、札幌芸術の森美術館「札幌美術展 下沢敬也 origin—土の命脈」に、道外美術館としては富山市ガラス美術館「Noctis：影と光のガラスアート」、「開館10周年記念：めぐりあう今を映す—日本の現代ガラス 1975-2025」、あべのハルカス美術館ほか「密やかな美 小村雪岱のすべて」、東京ステーションギャラリーほか「藤田嗣治 絵画と写真」に合計83点を貸出し。このほか知事公館・知事室に6点を貸し出した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定〔PLAN〕			評価〔CHECK〕							今後の対応方向 〔ACTION〕	
		前年度 実績	目標値(a)		実績値 (b)	達成率 (b/a)	指標の 判定	項目評価					総合評価
				設定の考え方					成果・課題				
多様なニーズに応える 展覧会の開催	展覧会の観覧者数（※展覧会毎の内訳は下表のとおり）	(常) 39,738 (特) 152,128	(常) 42,530 (特) 160,007	(常) 直近の通年開館年5年中 上位3年の平均 (特) 主催者申出又は予算要求 上の人数	(常) 45,674 (特) 142,609	(常) 107.4% (特) 89.1%	③	c	【成果】 ●特別展「金閣・銀閣 相国寺展」「歌川国芳展」「トーベとムーミン展」、 コレクション展「1945-2025 美術は何を記憶しているか」を中心に、多数の 観覧者を迎えることができた。 【課題】 ●特別展「歌川国芳展」では目標値を下回る入場者数となってしまった。 ●冬季をはじめ年間を通じて外国人観光客の来館が増えており、館内表示にお ける和英併記の充実の要望が寄せられている。	C	【多様なニーズに応える展覧会 の開催】 ●海外の美術をはじめ、多彩な 地域の美術の紹介に努める。ま た、社会包摂を意識し、多様な 鑑賞者が楽しめる展覧会企画を 探る。		
	観覧者の満足度	(常) 91.1% (特) 84.9%	(常) 91.4% (特) 91.7%	来館者アンケートによる過去 6年間の最高値	(常) 94.5% (特) 94.6%	(常) 103.4% (特) 103.2%	①						
観覧者拡充のための 工夫	観覧者に占めるリピーターの割合	(常) 80.7% (特) 85.5%	(常) 72.3% (特) 76.8%	直近の通年開館年5年中上位 3年の平均	(常・特) 合わせて68.5%	(常) 94.7% (特) 89.2%	③	c	【成果】 ●リピーター率低下の要因として、外国人観光客など、これまで美術館を利用 していなかった層の来館が増えていることが挙げられる。 【課題】 ●特別展における児童生徒の割合が低下した。特に、日本美術を取り上げた特 別展において顕著であることから、児童生徒への広報、周知方法を工夫する必 要がある。			【観覧者拡充のための工夫】 ●「ウィズ・キッズ」展を継続 するほか、多彩な展覧会を開催 し、児童生徒の来館拡充を図 る。また、SNS等を活用した広報 を行う。	
	観覧者に占める児童生徒の割合	(常) 9.8% (特) 5.6%	(常) 10.0% (特) 10.0%	各展覧会の児童生徒の見込割 合	(常) 8.1% (特) 5.3%	(常) 81.0% (特) 53.0%	④					【館外における鑑賞機会の提 供】 ●雑誌やテレビ、ウェブ広報な どの作品紹介を通じて鑑賞機会 拡充に努める。	
	展示の企画構成やPR等の工夫〔定性〕	—	—	—	—	—	①						
館外における鑑賞機 会の提供	館外における展示活動の状況〔定性〕	—	—	—	—	—	①	b	【成果】 ●館外への作品貸出や、積極的なウェブ上での作品紹介等により、鑑賞機会を 提供することができた。				

〔展示会開催状況〕

区分		展示会名	計 画				実 績				
			会期	開催日数	観覧者見込数 (うち児童生徒)	1日当たり観覧者数	会期	開催日数	観覧者数 (うち児童生徒)	1日当たり観覧者数	特記事項
常設展		リーヴル・ダルティスト／巴里のかほり ほか	3／29～7／6	83	12,930 (1,293)	156	3／29～7／6	83	13,871 (1,395)	167	
		1945-2025 美術は何を記憶しているか／透明なガラス ほか	7／19～11／24	106	16,513 (1,651)	156	7／19～11／24	106	21,425 (1,627)	202	
		おはなし美術／カラー・オブ・グラス ほか	12／13～4／12	84	13,087 (1,309)	156	12／13～4／12	84	10,378 (688)	123	
		常設展計	—	273	42,530 (4,253)	156		273	45,674 (3,710)	167	
特別展	館単独主催展	イワタリ展	12／13～2／15	51	7,207 (721)	141	12／13～2／15	51	5,605 (688)	109	
	実行委員会展	金閣・銀閣 相国寺展	7／19～9／7	44	52,800 (5,280)	1,200	7／19～9／7	44	50,396 (1,826)	1,145	
	貸館展	歌川国芳展	4／25～6／15	45	50,000 (5,000)	1,111	4／25～6／15	44	37,512 (706)	852	
		トーベとムーミン展	10／1～11／24	49	50,000 (5,000)	1,020	10／1～11／24	49	49,096 (3,070)	1,001	
		特別展計	—	189	160,007 (16,001)	847	—	188	142,609 (6,290)	758	
合 計		—	274	202,537 (20,254)	1,002	—	274	188,283 (10,000)	925		

R 7 年度 美術館評価調書

C 学習の場と情報提供の充実

近代美術館

【基本的運営方針】

コレクション、展示、調査研究に結びつけながら、個人の成長・年齢や個性に応じたラーニング・プログラムを企画し、実施します。特に鑑賞学習支援ツールとオンラインについて、効果的な活用を進めます。また、コレクションのデジタル・データ化や、ホームページとSNSの活用によって、発信する情報の魅力アップに取り組みます。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画〔PLAN〕	事業実施状況〔DO〕
教育普及活動の充実	●作品鑑賞の補助ツールとしてスマートフォンアプリ「ポケット学芸員」を利用した音声ガイドのコンテンツを増やす。特に、当館前庭と知事公館庭園の野外彫刻のガイドプログラムを充実させることで、当館・三岸好太郎美術館のあるエリア一帯の魅力向上を図る。 ●近美コレクションの内容と連動したワークショップを実施して、鑑賞と制作が一体化した芸術体験の機会を提供する。 ●「ウィズ・キッズ' 25」関連事業として、子どもを対象とするギャラリー・ツアーを実施する。 ●幅広い層に美術館の利用を促すため、外部研究者による特別展に関連した講演会、美術館の雰囲気を活かしたホールでのコンサート等を実施する。	●R 5 年度から継続活用している「ポケット学芸員」の作品ガイド・コンテンツ9本を新たに公開、ガイド・コンテンツ数は計26本（現在、非公開のものを含む）となった。特に当館前庭と知事公館庭園の野外彫刻は13本全てのコンテンツを完成、ナレーションは札幌東陵高校を新たな連携校とし、同校放送局と協力して録音に取り組み、利用者にとって親しみ深いコンテンツとなるよう企画した。 ●近美コレクションに出品した染め込み技法による現代絵画に関連して、布を染める小学生対象ワークショップを画家を講師に招いて実施した。絵巻物を題材としたワークショップは子どものほか大人を対象とした回を設け、幅広い層の来館者に芸術体験の機会を提供した。 ●「ウィズ・キッズ' 25」のキッズ・ツアーでは未就学児と小学生それぞれの回を設け、年齢に応じた対話やコミュニケーションの工夫を取り入れながら、子どもたちの能動的な鑑賞を引き出すプログラムとした。 ●「金閣・銀閣 相国寺展」「イワタルリ展」では外部研究者の講演会等を行った。また、道銀文化財団との連携によるミュージアム・コンサートでは、「イワタルリ展」の解説をまじえることで、参加者にとって満足度の高い事業とすることができた。
情報提供の充実	●HP及びSNSを通じ、迅速かつ積極的に、展覧会や関連事業の情報を発信する。 ●展覧会紹介動画「北海道リモート・ミュージアム」の新規コンテンツを制作し、インターネット上で公開する。 ●ARSコーナーの魅力向上のため、図書や図録を整理し利便性の向上を図る。上映中の「北海道リモート・ミュージアム」のアーカイブ動画については、新しいコンテンツを編集次第、古いコンテンツと入れ替えて更新する。 ●コレクションのデータベースを着実に整備し、所蔵作品の基本情報を公開する。	●SNS（フェイスブック、X）で計288回の投稿を行った。 ●「北海道リモート・ミュージアム」では、2本の展覧会に関わる動画コンテンツ2件を新たに作成、配信した。多数の作家作品を丁寧に紹介したり、作家インタビューを収録したりするなど内容を工夫し、広報としてのみならず記録として意義深いコンテンツとなるよう努めた。R 2 年度から作成、配信した動画コンテンツ数は計21本となった。 ●コレクションのデータベースの着実なデータ整備を図り、最新情報を公開することができた。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [P L A N]			評価 [C H E C K]						今後の対応方向 [A C T I O N]
		前年度 実績	目標値 (a)		実績値 (b)	達成率 (b/a)	指標の 判定	項目評価		総合評価	
			設定の考え方					成果・課題			
教育普及活動の充実	教育普及プログラムの実施件数	53件	60件	特別展(4本)関連24件＋ 近コレ(3期)関連30件＋ その他6件	64件	106.7%	①	c	【成果】 ●外部研究者の講演会やワークショップ、学芸員の解説など参加対象を想定した教育普及事業を実施できた。主に「ウィズ・キッズ」展と紐づけて設けた「おしゃべりデイ」は、利用者の反応やアンケート回答において多様な年齢層に好評だった。 【課題】 ●教育普及プログラムの実施件数を増やしたにも関わらず、参加人数が減少してしまった。周知方法の検討が必要である。 ●より幅広い層の利用を促すべく、子ども連れ、高齢者、障がい者、外国人等、具体的な対象を想定しながら、視野を広げた情報収集に努め、実践に備える必要がある。	B	【教育普及活動の充実】 ●教育普及事業毎の対象や趣旨をより明確にし、周知を図るよう努める。 【情報提供の充実】 ●ARS、図書コーナーは配架図書や映像の内容等を改めて見直すとともに、コーナーの館内における立地や案内表示等、利用しやすい動線やしつらえについては今後のリニューアルに向けて課題を明確化する。 ●「北海道リモート・ミュージアム」は、学芸員が撮影や編集に関わる労力を減らし、趣旨や内容の検討により注力できるよう、技術的な作業の軽減に関わる情報の収集に努める。
	教育普及プログラムの参加者数	2,656人	2,820人	特別展関連1件あたり100人＋近コレ関連1件あたり10人＋その他1件あたり20人	1,755人	62.2%	④				
	教育普及プログラムの企画・実施状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				
情報提供の充実	A R S、図書コーナーの利用件数	5,689人	5,874人	直近の通年(開館年5年における利用率上位3年の平均値×R7観覧者数)目標値 (利用率＝各年度のA R S利用件数/観覧者数×100)	4,881人	83.1%	③	b	【成果】 ●ボランティアへの研修を行い、ARS質問コーナーでのボランティアによる細やかな来館者対応に結びつけることができた。 ●HP・SNSの迅速な更新・投稿と最新情報の提供に努めた。一方、紙媒体で情報収集を行っている層への配慮として、紙版の年間案内配架を再開。紙面にHPの利便性に関する情報を掲載し、利用者と足並みを揃えながらウェブ化時代に向かえるよう情報提供のあり方を再考した。 【課題】 ●ARS全体の一層の魅力向上と利用促進のため、配架図書や映像の内容等の見直しなどの課題について、引き続き取り組む必要がある。 ●「北海道リモート・ミュージアム」は、担当者が代わりながらも、これまで作成、公開されてきた動画における撮影や編集の工夫、仕上がりを引き継ぐとともに、各展覧会の趣旨に適った内容や記録としての意義をもつコンテンツ作成に努める必要がある。		
	利用しやすい図書・資料コーナーの整備	—	—	—	—	—	①				
	H Pアクセス件数	700,795件	749,956件	HPリニューアル後のHP年間運営年度 (R4～R6) の平均値	755,839件	100.8%	①				
	S N Sの投稿数	385回	226回	フェイスブック、X (旧ツイッター) とともに週2回＋AGH月間10回	288回	127.4%	①				
	北海道リモート・ミュージアムの公開件数	2件	2件	近美コレクション及び特別展にて新規コンテンツを制作	2件	100.0%	①				
	情報発信の工夫改善 [定性]	—	—	—	—	—	①				

R 7 年 度 美 術 館 評 価 調 書

D 活動の基礎となる調査・研究の推進

近代美術館

【基本的運営方針】

美術及び美術館に関する調査研究を、これまでの蓄積と新たな知見の上に立って推進するとともに、学芸員の資質向上を目的とした研修を行うことにより、活動全般の信頼性や企画における創造性を向上させます。また、調査研究の成果を、様々な形で発信し社会に還元します。併せて、リニューアルに向けた活動、施設、運営等に関する調査研究を進めます。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画〔PLAN〕	事業実施状況〔DO〕
調査・研究の推進	●今年度の近美コレクション展、特別展のほか、来年度以降開催が検討されている展覧会、特に自主企画展について、また作品収集について、調査・研究を着実に進める。 ●コレクション研究を推進し成果をわかりやすく示す展示として、「この1点を見てほしい。」を行う。 ●リニューアル基本構想の「目指す姿」の実現に向けて、リニューアル後の活動や必要な機能等の検討を行う。 ●新しい展示用具や照明機器、設備等について情報収集を行い、見やすさや作品保全機能、展示効果向上のための研究を進める。 ●新任学芸員を対象とした研修を行う。	●自主企画特別展「イワタルリ」展では、収集候補作品の調査研究を進めた結果、ガラス作品1点の収蔵に結実した。また、R 8 年度特別展「ポケモン×工芸展」、「文字とアート」展、R 9 年度特別展「シャガール展」、「徳川家康公展」の調査研究を進めた。 ●「この1点を見てほしい。」を2回実施したことによって、所蔵品に関する知見が深まった。うち1回では屋外彫刻《嵐の中の母子像》を取り上げ、前庭と2階ロビーの無料ゾーンを活用し、紙媒体と電子媒体を併用しながら、研究成果を来館者に広く発信した。 ●リニューアル後に向けて、外部コンサルタントの協力を得ながら館を中心に本庁職員と協議を重ね、業務の洗い出しや諸室配置等の検討、什器の調査などを行った。また、近年に新設又はリニューアルした滋賀・京都・大阪・愛知・白老の博物館施設を視察し、展示環境や什器設備に関する知見を得るとともに、リニューアル後の必要什器とそれに係る事業費算出のための情報収集を行った。 ●新しいLED照明について、情報収集及びサンプル製品にて比較検討を行い、新規にLEDスポットライト30灯を導入した。また、掛け軸用吊り金具（自在）についても、作品取扱いの安全性向上の観点から情報収集を行い、新規に20本を導入した。 ●5月に、新任学芸員2名（臨時学芸員1名含む）を対象とした研修を実施した。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定〔PLAN〕			評価〔CHECK〕						今後の対応方向 〔ACTION〕
		前年度 実績	目標値(a)		実績値 (b)	達成率 (b/a)	指標の 判定	項目評価(※定量指標がないため最高評価はb)		総合評価	
			設定の考え方					成果・課題			
調査・研究の推進	学芸員による調査・研究の報告や発表の状況〔定性〕	—	—	—	—	—	①	b	【成果】 ●各学芸員が調査・研究を進め、展覧会企画や作品収集に結実させるとともに、解説活動や図録、紀要等においてその成果を発表した。また、次年度以降の事業に向けても各学芸員が調査・研究に意欲的に取り組んでいる。 ●研修を通じて、新任学芸員は学芸員としての基本的な心構えや専門知識・技能を知ることができた。また、その他の学芸員についても外部研修に積極的に参加し、より高度な専門的知見を得ることができた。	B	【学芸員による調査・研究の報告や発表の状況】 ●引き続き、展覧会やコレクションに関する調査・研究を進めるとともに、その成果を発表する機会の拡充を図る。
	学芸員の研修等の状況〔定性〕	—	—	—	—	—	①		【課題】 ●調査・研究の成果について、展覧会や作品収集等、次年度以降の事業により一層体系的に反映させていくことが必要である。また、その発信方法や媒体についても、より効果的なあり方を検討する必要がある。 ●学芸員のさらなる資質向上のため、引き続き、外部研修に関する情報収集に努めるとともに、積極的に参加できる体制の構築及び必要な予算の確保が求められる。		【学芸員の研修等の状況】 ●新任学芸員研修を継続するほか、中堅以上の学芸員の資質向上を図るため、必要な予算を確保するとともに積極的な研修参加を促す。

R 7 年度 美術館評価調書

E 多様な主体との連携・協力による地域の活力向上

近代美術館

【基本的運営方針】

地域の文化活動や学校の教育活動と連携・協働することで、美術に対する関心を高め、美術館の利用促進を図り、地域のアートの活性化に寄与します。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画〔PLAN〕	事業実施状況〔DO〕
多様な機関との連携・協力	●北海道美術館協会及びボランティアとの取組を継続し、図録や美術関連グッズの販売、ギャラリー・ツアー、アート・レファレンス・サービス（ARS）、資料整理、美術講座など、幅広い活動に協力する。 ●北海道の中核的な美術館として、北海道美術館学芸員研究協議会と協力して道内美術館のネットワークを強化するとともに、学芸員の相互研鑽等に協力する。 ●北海道内の多様な美術館等が相互に連携し、本道全体がアートの舞台となることを目指す「アートギャラリー北海道（AGH）」事業として、洞爺湖芸術館のコレクション展の実施、AGH月間における広報、来年度以降の展覧会の企画、ネットワーク参加館への連携協力等を行う。 ●500m美術館や道銀文化財団に協力し、美術の振興および地域作家の顕彰に寄与する。 ●札幌交響楽団等に協力し、美術ファン以外にもコレクションへの関心を高める。	●北海道美術館協会及びボランティアが実施する日常的な活動及び自主事業に対して、協力、助言、指導を行った。 ●第34回北海道美術館学芸員研究協議会の開催に当たり、運営や会場の提供等に協力した。 ●洞爺湖芸術館のコレクション展では同館の彫刻作品を多数紹介、21,425名の来場者を迎えた。AGH月間には文学と関わるコレクションを有する連携館に焦点を当て、特設コーナーの設置とSNSでの特集を通じて、各館の活動の周知に努めた。 ●500m美術館専門委員として会議に出席し発言するほか、道銀芸術文化奨励賞選考委員として同賞作家推薦に関わるなど、職員の派遣を通して地域の芸術文化振興及び地域作家の顕彰に寄与した。 ●札幌交響楽団定期演奏会のうち2回のプログラムに当館コレクションから図版を提供し、学芸員が作品解説を執筆した。 ●貸館事業として、日本美術家連盟等の4団体に当館施設（講堂・映像室）を貸与し、その活動に協力した。
学校等の教育機関との連携・支援	●自主研修や職場体験等、学校等の要望に応じた教育プログラムを提供する。 ●鑑賞学習支援ツールについてチラシ等で周知し、貸出を行う。 ●「オンラインアート教室」では多様なプログラムを用意するとともに、学校からの要望に応じて授業内容を構成し、効果的な鑑賞学習を実施する。 ●道立図書館と連携し、特別展ごとに関連図書の閲覧コーナーを設け、「もっと知りたい」という来館者の思いに応える。 ●学校教育における美術館活用を促すため、指導者研修を実施する。 ●道内外の大学からの要請に応じ、博物館実習（館園実習、見学実習）を実施する。 ●「北海道立近代美術館学芸員インターンシップ（実務研修）」事業を実施し、学芸業務に携わる実務研修生を広く募集し受け入れる。	●自主研修、職場体験等に向けて、小・中・高・特別支援学校向けの利用案内チラシ（お役立ちシート）を配布し、利用を促進した。 ●鑑賞学習支援ツールは17件の貸出しに対応するとともに、指導者研修では実用例を紹介し、参加教員が体験した。 ●「オンラインアート教室」では、計8つのプログラムを用意し、9校に対して、各校・各学級の実態や要望に応じた授業計10件を実施した。また応募校増加への対応策として、プログラムの継続実施や学芸員同士のノウハウの相互共有に取り組んだ。 ●「オンラインアート教室」以外にも、個別の相談に応じた学校連携の鑑賞授業4件に取り組んだ。 ●「歌川国芳展」「金閣・銀閣 相国寺展」「トーベとムーミン展」「イワタルリ展」の会期中、道立図書館と連携して関連図書閲覧コーナーを設け、来館者の閲覧に供した。 ●夏季と冬季の指導者研修では、夏季11名、冬季15名が参加した。 ●博物館実習（館園実習）では、大学生7名、見学実習では4校を受け入れた。 ●「ポケット学芸員」を使った音声ガイドでは、札幌東陵高校と新たに連携した。 ●「北海道立近代美術館学芸員インターンシップ（実務研修）」では、実務研修生1名を受け入れた。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]						今後の対応方向 [ACTION]
		前年度実績	目標値(a)		実績値(b)	達成率(b/a)	指標の判定	項目評価		総合評価	
				設定の考え方					成果・課題		
多様な機関との連携・協力	地域の団体やイベント等と連携した取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	【成果】 ●北海道美術館協会のみならず、「アートギャラリー北海道」連携館や地域の文化団体等、多様な機関との連携に取り組み、相互の協力関係維持に努めた。 【課題】 ●北海道美術館協会においては、美術作品の画像使用などに関わる著作権上の問題について、当館からの助言が必要なため、研修等を活用して学習の機会を設けたい。 ●美術に対する関心の向上や美術館の利用促進、地域のアートの活性化をより進めるため、文化関連にとどまらない多様な領域の主体との連携・協力に取り組む必要がある。	A	【多様な機関との連携・協力】 ●北海道美術館協会に対しては、ボランティア会員との日頃のコミュニケーションや研修の機会を通して美術作品の画像使用などに関わる著作権上の問題について、学習を促すとともに、館との情報共有を密に行うよう事務局から各部に理解を仰ぐ。 ●具体的な美術館活動を念頭に置きながら、各活動において必然性のある連携・協力先を日常的に探すよう努める。
	企業や団体等と連携したPR活動 [定性]	—	—	—	—	—	①				
	道内美術館等との連携・協力の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				
	ボランティアとの連携・協力の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				
学校等の教育機関との連携・支援	学校教育と連携した取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	a	【成果】 ●「オンラインアート教室」の応募校増加への対応策として、事業実施の効率化を図った。これにより、授業内容のブラッシュアップにもつなげることができた。 ●「オンラインアート教室」以外にも、個別の相談に応じた学校連携の鑑賞授業4件に取り組んだ結果、児童生徒の教育に資するとともにプログラムの企画開発に関わる知見の蓄積に努めることができた。 【課題】 ●これまで「オンラインアート教室」への応募や当館への個別相談がない学校について、教育活動で美術館利用機会を模索する必要がある。	A	【学校等の教育機関との連携・支援】 ●学校教育における美術館の活用について、学校教員らが当館に対して気兼ねなく相談できるよう、印刷物掲載ほかさまざまな情報発信を通じた環境整備や、個別相談対応等を図る。
	児童生徒向け鑑賞教室（オンラインを含む）の実施件数	10件	10件	文化財博物館課作成の同事業実施要項「実施件数の目安」による	10件	100.0%	①				
	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	0校	0校	R6実績と同数	0校	0.0%	—				
	教員を対象とした研修の実施状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				

R 7 年度 美術館評価調書

F 安全で快適な滞在環境の提供

近代美術館

【基本的運営方針】

近代美術館は施設・設備の老朽化が進む一方、リニューアルを控え大規模な修繕や工事の実施が難しい状況ではあるものの、職員一人ひとりが、常に、来館される方々の目線に立ち、安全・安心に展覧会を観覧いただき、美術館で充実した時間を過ごしてもらうことが出来るよう、最大限知恵を絞り、工夫を重ねながら、くつろぎの空間としての魅力の向上を図っていきます。

【事業実施計画・事業実施状況】

取組項目	事業実施計画〔PLAN〕	事業実施状況〔DO〕
施設の適切な維持管理	●施設・設備の状況を適切に把握し、計画的な点検を実施することで、施設等の不具合、故障の早期発見、必要な補修の迅速化につなげる。 ●美術館の前庭が、来館者にとって憩いの空間として安全・安心・快適に利用できるよう、樹木の剪定など自然環境を活かしながら、植栽の適切な維持管理に努める。	●職員の日常的な点検や業者による保守点検のほか、施設課技術職員による年2回（5月、10月）の定期点検により、施設・設備の不具合や故障の早期発見に努めるとともに、迅速かつ適切な修繕等に務めるなどして、館内外の環境改善を図った。 （ex. 空調機自動制御器補修、特別展示室空調機改修、作品運搬用エレベーター更新） ●委託業者と連携し、落下の危険がある樹木の枝を伐採したほか、懸案となっていた当館南側の樹木（ポプラ2本）を剪定するなどして、植栽の適切な維持・管理に努めた。
施設の快適性の向上	●来館者アンケートにおいて、より多くの方々から意見等を聴取できるよう、アンケートの聴取方法や内容を工夫するとともに、アンケートの回答内容を早期に共有、分析し、美術館の運営改善に資することができるよう取り組む。また、アンケートに記載された意見に対する美術館の回答を掲示することで、当館の活動について、より理解いただくよう努める。 ●カフェやミュージアムショップが利用者にとってより魅力あるものとなるよう、事業者と協働した取組や情報発信について検討・実施する。 ●来館者の利便性向上のため、関係機関や事業者と連携しながら、キャッシュレスサービスの運用拡大に向けた検討を行う。	●来館者アンケートで寄せられた主なご意見に対する当館の対応をまとめ、館内に掲示するとともに、当館ホームページに掲載した。（R7.7掲載） ●ミュージアムショップと連携し、美術館限定のオリジナル商品を販売した。 ●カフェ事業者と連携・協働し、常設展及び特別展と連動した割引サービス（チケット1枚提示で50円引き）を行った。 ●キャッシュレスサービスの運用拡大に向け、令和7年度中に特別展共催事業者と協議を行い、令和8年度実施の特別展（ポケモン×工芸展）において実施することとなった。

【目標値の設定・評価】

取組項目	評価指標	目標値の設定 [PLAN]			評価 [CHECK]						今後の対応方向 [ACTION]
		前年度実績	目標値 (a)		実績値 (b)	達成率 (b/a)	指標の判定	項目評価		総合評価	
			設定の考え方					成果・課題			
施設の適切な維持管理	施設の安全性確保のための必要な措置の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①	b	【成果】 ●施設の安全確保に向け、日常点検等により故障箇所等の早期発見に努め、修繕等を速やかに実施するほか、来館者アンケートの内容を踏まえて鑑賞環境の改善を図るなどして、概ね適切に維持・管理を行った。 【課題】 ●施設等の点検結果を踏まえた不具合や故障の早期発見・対応に努めていく必要がある。	A	【施設の適切な維持管理】 ●老朽化が進む施設・設備の適切な維持管理のため、引き続き点検の充実等により、不具合や故障の早期発見・早期対応につなげていく。
	誰もが安心して利用できる施設設備の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				
施設の快適性の向上	鑑賞環境に対する満足度	83.5%	85.9%	来館者アンケート「施設内外の環境への満足度」過去5年間の最高値	93.6%	109.0%	①	a	【成果】 ●ミュージアムショップでの美術館限定品の販売のほか、カフェスペース出店事業者と連携し、展覧会と連動した割引サービスやカフェスペースでの展示を行うなどの取組により、来館する価値の向上を図るとともに、来館者のホスピタリティ向上を図った。 ●キャッシュレスサービス運用拡大に向けて、特別展共催事業者と協議を行い、R8の特別展（ポケモン×工芸展）で実施となった。 【課題】 ●来館者アンケートを踏まえた館内外の環境改善を図る必要がある。		【施設の快適性の向上】 ●アンケートの回収率向上に努め、アンケート結果等をホームページ等で周知するなどして、環境改善につなげていく。 ●来館者の満足度向上に向けミュージアムショップやカフェスペースの事業者と連携した取組を実施し、周知を積極的に行う。 ●来館者の利便性向上のため、引き続き関係機関や事業者と連携しながら、キャッシュレスサービスの運用拡大に取り組む。
	レストラン・喫茶に対する満足度	61.1%	62.9%	来館者アンケートによる過去5年間の最高値	73.3%	116.5%	①				
	ミュージアムショップに対する満足度	70.9%	70.9%	来館者アンケートによる過去5年間の最高値	82.5%	116.4%	①				
	ボランティアや事業者と協力してのサービス向上に向けた取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①				
	館内スタッフの対応に対する利用者満足度	80.7%	82.9%	来館者アンケートによる過去5年間の最高値	89.0%	107.4%	①				
	ホスピタリティー向上に向けた取組の状況 [定性]	—	—	—	—	—	①		●他の特別展でもキャッシュレスサービスの導入を共催事業者と協議するなどして、スタンダードとなるよう取組が必要。		

4 リニューアル

検討内容

当館のリニューアルは、北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課道立近代美術館整備係が主体となり検討を進めている。令和7年（2025年）度は、令和7年（2025年）3月に北海道教育委員会が策定した「北海道立近代美術館リニューアル基本構想」ならびに北海道総務部が策定した「知事公館・近代美術館エリア活用構想」の内容を踏まえ、「北海道立近代美術館リニューアル基本計画」の策定に向けた検討を行った。検討にあたっては、「北海道 PPP/PFI 手法導入優先的検討規程」に基づき、PPP/PFI 手法の導入を検討する必要があったことから、PwC アドバイザリー合同会社に「北海道立近代美術館リニューアル基本計画策定業務」及び「知事公館・近代美術館エリアの整備・運営等における PPP/PFI 導入可能性調査業務」を委託した。

検討経過

時 期	内 容	備 考
令和7年（2025年）5月	○ 第15回これからの北海道立近代美術館検討会議 ・北海道立近代美術館リニューアル基本計画の策定に向けた今後の取組について ・意見交換	5月20日（火）
7月	○ 第16回これからの北海道立近代美術館検討会議 ・北海道立近代美術館リニューアル基本計画の策定に向けて ・道民意見聴取イベントについて ・意見交換	7月15日（木）
8月	○ 北海道立近代美術館リニューアルに向けたグループディスカッション〈中学生・高校生向け〉 ・参加者：30名（中学生5名、高校生25名）	8月31日（日）
11月	○ 北海道立近代美術館館内探検会 ・参加者：47名（小学生19名と保護者28名）	11月3日（月・祝）
12月	○ 北海道立近代美術館リニューアルに向けたグループディスカッション〈一般向け〉 ・参加者：23名	12月21日（日）
令和8年（2026年）1月	○ 北海道立近代美術館リニューアルに係る Web アンケート	1月30日（金）開始 （6月30日〔火〕まで）
2月	○ 第17回これからの北海道立近代美術館検討会議 ・道民意見聴取結果について ・リニューアル後の名称について ・休館期間中の取組について	2月18日（水）

その他詳細については、北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課「北海道立近代美術館リニューアルの検討」

(<https://www.dokyo1.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/kinbirenewal.html>) を参照。

5 名簿・沿革

名簿

北海道立近代美術館職員名簿（令和8年3月31日現在）

職 名	氏 名	発令年月日	前 職 等
館 長（非）	立 川 宏	R1. 7. 1	北海道教育委員会教育長
副 館 長	松 田 俊 也	R4. 4. 1	
学 芸 副 館 長	村 山 史 歩	R7. 4. 1	近代美術館学芸部長
総 務 企 画 部 長 （兼事業課長）	熊 澤 栄 司	R5. 6. 1	
学 芸 部 長 （兼学芸統括官）	佐 藤 由 美 加	R7. 4. 1	北海道立文学館学芸主幹
総 務 企 画 課 長	青 山 努	R7. 4. 1	学校教育局部活動改革推進課総括主査（兼） 部活動改革推進係長
総 務 企 画 課 主 査 （ 総 括 ）	川 窪 誠	R6. 4. 1	
専 門 主 任	大 谷 美 香	R7. 4. 1	教職員局教職員事務課専門主任
主 事	谷 内 山 莉 花	R6. 4. 1	
主 事	妻 沼 泰 輝	R6. 4. 1	
事 業 課 主 査	小 林 大 樹	R5. 6. 1	
主 任	梶 原 将 嗣	R7. 4. 1	上川教育局主任
主 任	小 松 智 子	R6. 4. 1	
主 事（非）	森 谷 玲 子	H3. 4. 1	
〃	三 浦 彰 子	H7. 4. 1	
〃	沼 沢 千 佳 子	H7. 4. 1	
〃	黒 川 亜 紀	H13. 8. 1	
〃	佐々木 絵 梨 子	H14. 4. 1	
〃	山 下 深 雪	H21. 4. 1	
〃	佐々木 青	H21. 4. 1	
リサーチ推進課長	藺 部 容 子	R5. 4. 1	
主 任 学 芸 員	土 岐 美 由 紀	R6. 4. 1	
学 芸 員	河 本 真 夕	R5. 4. 1	
企 画 推 進 課 長	藤 原 乃 里 子	R7. 4. 1	北海道立旭川美術館学芸課長
主 任 学 芸 員	星 野 靖 隆	R2. 4. 1	
学 芸 員	熊 谷 麻 美	R5. 4. 1	
〃	村 山 美 波	R5. 4. 1	
〃	久 米 淳 之	R4. 4. 1	
〃	光 岡 幸 治	R5. 4. 1	
臨 時 学 芸 員	大 石 智 子	R6. 4. 29	

※（非）は非常勤であることを示す

※発令年月日：職名の発令年月日

沿革

昭和 46 年 7 月	新北海道立美術館建設調査費計上
昭和 46 年 10 月	新北海道立美術館建設調査委員会、道外の美術館を調査
昭和 46 年 12 月	新北海道立美術館建設調査委員より、建設に対する意見と道外美術館調査報告 を北海道教育委員会に提出
昭和 47 年 3 月	新北海道立美術館建設敷地、北 1 条西 17 丁目に決定
昭和 47 年 3 月	新北海道立美術館建設調査設計費計上
昭和 47 年 7 月	新美術館建設協議会発足
昭和 48 年 1 月	北海道教育庁内に新美術館建設準備室を設置
昭和 48 年 2 月	基本設計終了
昭和 48 年 10 月	実施設計終了
昭和 49 年 8 月	新美術館建設工事起工式
昭和 52 年 3 月	北海道立美術館条例一部改正、 新美術館の名称を「北海道立近代美術館」と決定
昭和 52 年 4 月	条例制定（常設展観覧料）
昭和 52 年 6 月	北海道立近代美術館建設工事完成
昭和 52 年 6 月	北海道立近代美術館職員の発令組織発足 北海道立近代美術館長（兼務）一気境公男教育長
昭和 52 年 7 月	北海道立近代美術館落成・開館記念式、一般公開
昭和 52 年 10 月	北海道立近代美術館長（兼務）一中川利若教育長
昭和 53 年 4 月	北海道立近代美術館長一倉田公裕
昭和 55 年 4 月	条例一部改正（常設展観覧料）
昭和 55 年 6 月	観覧者数 100 万人
昭和 58 年 4 月	機構改正（学芸部課名変更・主任学芸員新設）
昭和 59 年 4 月	条例一部改正（常設展観覧料）
昭和 59 年 8 月	観覧者数 200 万人
昭和 61 年 7 月	北海道立近代美術館長（兼務）一植村 敏教育長
昭和 62 年 3 月	第 2 収蔵庫工事完成
昭和 62 年 5 月	北海道立近代美術館長（兼務）一澤 宣彦教育長
昭和 62 年 7 月	北海道立近代美術館長一佐藤雅彦
昭和 62 年 8 月	開館 10 周年記念式
昭和 62 年 12 月	観覧者数 300 万人
昭和 63 年 5 月	北海道立近代美術館長一井関正昭
平成 2 年 4 月	機構改正（参事新設）
平成 6 年 4 月	北海道立近代美術館長（兼務）一阿部 茂教育長

平成 7 年 6 月 北海道立近代美術館長－阿部 茂
機構改正（学芸副館長新設）

平成 7 年 8 月 観覧者数 500 万人

平成 8 年 4 月 条例一部改正（常設展観覧料）

平成 9 年 4 月 北海道立近代美術館長（兼務）－南原一晴教育長

平成 9 年 7 月 開館 20 周年記念式

平成 11 年 4 月 北海道立近代美術館長（兼務）－鎌田昌市教育長

平成 11 年 5 月 観覧者数 600 万人

平成 11 年 7 月 北海道立近代美術館長－水上武夫

平成 12 年 4 月 条例一部改正（常設展観覧料）

平成 14 年 7 月 観覧者数 700 万人

平成 16 年 4 月 機構改正（学芸第三課新設）条例一部改正（常設展観覧料）

平成 17 年 7 月 観覧者数 800 万人

平成 18 年 7 月 北海道立近代美術館長－相馬秋夫

平成 19 年 10 月 開館 30 周年記念式

平成 20 年 4 月 条例一部改正（常設展観覧料）

平成 21 年 4 月 観覧者数 900 万人

平成 23 年 4 月 条例一部改正（三岸好太郎美術館を分館として設置・常設展共通観覧料新設）

平成 24 年 4 月 条例一部改正（年間観覧料追加）

平成 25 年 4 月 北海道立近代美術館長－高橋教一

平成 25 年 7 月 観覧者数 1,000 万人

平成 26 年 4 月 機構改正（総務企画部 2 課を 1 課に統合、学芸部 3 課を 2 課に再編）
条例一部改正（常設展観覧料）

平成 27 年 4 月 北海道立近代美術館長（兼務）－立川 宏教育長

平成 27 年 6 月 北海道立近代美術館長（兼務）－山本広海教育部長

平成 27 年 7 月 北海道立近代美術館長－嵐田 昇

平成 28 年 4 月 条例一部改正（使用料）

平成 29 年 8 月 観覧者数 1,100 万人
開館 40 周年記念式

平成 30 年 4 月 機構改正（学芸部 2 課を 1 課に統合）

令和元年 7 月 北海道立近代美術館長－立川 宏

令和元年 10 月 条例一部改正（観覧料及び使用料）

令和 2 年 8 月 観覧者数 1,200 万人

令和 3 年 4 月 機構改正（総務企画部 1 課を 2 課に再編）

令和 4 年 4 月 機構改正（学芸部 1 課を 2 課に再編）



令和 7 年度 北海道立近代美術館年報



令和 8 年 10 月 2 日発行

編集・発行／北海道立近代美術館

〒060-0001 札幌市中央区北 1 条西 17 丁目

TEL. (011) 644-6881 (代)